

完成版

令和2.9.25

新潟市教育ビジョン第3期実施計画

～NEXT&NEW～

令和元年度 施策最終評価

令和2年6月3日

新潟市教育ビジョン推進委員会

## 新潟市教育ビジョン令和元年度施策最終報告 施策一覧

基本施策(13施策)	施策 (54施策) 網掛…【NEXT】&【NEW】に該当する施策		3期進捗 平均評価	担 当 課 (◎とりまとめ課、○関係課、※情報提供課)										☆…必ず 説明に取り 上げる施策 (24施策)	資料 頁		
				総務	学務	施設	保給	地教推	学人事	教育職	支援	図書	生セ			中公	総セ
1 確かな学力の向上	1-1	社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進 [NEXT]	4.0									◎			○	☆	1
	1-2	学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進	4.0									◎					3
	1-3	基礎・基本を身に付ける教育の推進 [NEXT]	4.3				○					◎				☆	5
	1-4	アグリ・スタディ・プログラムの推進 [NEXT]	4.0									◎				☆	7
	1-5	学習習慣の定着	4.0									◎					9
	1-6	読書活動の推進と新聞活用の充実 [NEXT]	1.8					○		○	◎					☆	11
2 豊かな心と健やかな 身体の育成	2-1	いのちの教育・心の教育の推進	4.3									◎			○		13
	2-2	一人一人の成長を促す生徒指導の推進 [NEXT]										◎				☆	15
	2-3	体験活動・ボランティア活動の充実	4.0									○		◎			17
	2-4	文化・芸術活動体験の推進	4.5									◎			○		19
	2-5	体力づくりの推進	3.5									◎				☆	21
	2-6	健康づくりの推進	2.8				◎									☆	23
	2-7	食育の推進	3.2				◎									☆	25
	2-8	青少年の健全育成の推進	4.0					◎								☆	27
3 創造性に富み、世界 と共に生きる力の育成	3-1	地域学習の充実	5.0											◎			29
	3-2	外国語教育・国際理解教育の充実 [NEW]	4.0									◎				☆	31
	3-3	情報教育の充実とICTを活用した教育の取組 [NEW]	4.7									◎				☆	33
	3-4	主体的な取組を促す環境教育の推進	4.0				○					◎			○		35
	3-5	海外帰国・外国人児童生徒への教育の推進 [NEW]	4.0									◎				☆	37
4 共生社会の実現を 目指すインクルーシブ 教育システムの推進	4-1	子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進 [NEW]	1.0									◎				☆	39
	4-2	特別支援教育のサポート体制の推進	5.0									◎					41
	4-3	早期からの就学相談・支援の充実 [NEW]	5.0									◎				☆	43
5 校種間・学校間連携 を活かした特色ある 学校・園づくり	5-1	新潟市にふさわしい小中一貫した教育の取組 [NEW]	4.0	◎					※		○					☆	45
	5-2	幼児教育の充実と幼保小連携の推進 [NEW]	4.3	※							◎					☆	47
6 人権を守り共に支え 合う社会の推進	6-1	人権教育、同和教育の推進、男女平等教育の推進	4.4									◎		○	○		49
	6-2	交流・体験活動の推進	3.0												◎		51
7 家庭教育の充実と子 育て支援	7-1	家庭教育充実への支援	4.0						※		※			◎			53
	7-2	子育て支援の充実	5.0											◎			55
8 生涯を通じて学び育 つ学習機会の充実	8-1	主体的な学習を支えるシステムづくり	4.0											◎			57
	8-2	学び育つ各世代への支援 [NEXT]	4.3									○	◎	○		☆	59
	8-3	地域における生涯学習活動への支援	4.0												◎		61
9 地域と学校・社会教育 施設が協働する教育 の推進	9-1	地域と共に歩む学校づくりの推進 [NEXT]	4.0					◎							○	☆	63
	9-2	広報広聴活動の推進	4.0	◎													65
	9-3	学校・地域・NPO等の協働の推進	4.0					◎				○			○		67
	9-4	高等教育機関及び企業との連携推進 [NEW]	4.7									○	○	◎		☆	69
	9-5	子ども・保護者・地域住民の学校運営への参画	4.0									◎			※		71
	9-6	市民の生涯学習施設運営への参画	4.0											◎	○		73

基本施策(13施策)	施策(54施策)		3期進捗 平均評価	担 当 課 (◎とりまとめ課、○関係課、※情報提供課)										☆…必ず 説明に取り 上げる施策 (24施策)	資料 頁		
	網掛…[NEXT]&[NEW]に該当する施策			総務	学務	施設	保給	地教推	学人	教育職	支援	図書	生セ			中公	総セ
10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進	10-1	防災・安全教育の充実 [NEW]	4.0							◎						☆	75
	10-2	保護者や地域と連携した安心な学校づくりの推進	4.0							◎							77
	10-3	安全な学校施設	4.0			◎											79
	10-4	学びを支援する体制の整備と充実 [NEW]	4.0		◎			○		○						☆	81
11 学校教育・生涯学習環境の基盤整備	11-1	効果的な指導を支援する施設設備の充実 [NEW]	4.0		◎											☆	83
	11-2	コミュニティの拠点としての学校整備	4.0			◎											85
	11-3	学校施設の整備	4.0			◎											87
	11-4	生涯学習施設を核とした学習環境の整備	3.7								◎	○					89
12 市民に信頼される教育関係職員の育成	12-1	教育関係職員の研修プログラムの充実 [NEXT]	4.3					※				○	※	◎		☆	91
	12-2	教職員への支援体制の充実	3.0						◎								93
	12-3	信頼される教職員の採用・登用・配置	4.0						◎								95
	12-4	教育関係職員の人事管理の適正化	4.0						◎								97
13 ニーズと課題に応える教育行政の創造	13-1	新潟らしい教育改革の推進 [NEW]	4.0	◎												☆	99
	13-2	効果的・効率的な執行体制の整備	/	◎													101
	13-3	教育情報の収集と発信	4.0	◎													103
	13-4	学校適正配置	/	◎													105
	13-5	教育施策の管理と適切な評価	4.0	◎													107

施策評価の分布 (全施策)	評価5 … 指標を上回って達成した施策	7.8%	} 84.3%	← 平均評価5.0の施策数÷51施策×100
	評価4 … 指標を概ね達成した施策	76.5%		← 平均評価4.0以上評価5.0未満の施策数÷51施策×100
	評価3 … 指標をもう少しで達成した施策	9.8%		← 平均評価3.0以上評価4.0未満の施策数÷51施策×100
	評価2 … 指標を下回った施策	2.0%		← 平均評価2.0以上評価3.0未満の施策数÷51施策×100
	評価1 … 指標を大きく下回った施策	3.9%		← 平均評価1.0以上評価2.0未満の施策数÷51施策×100

施策評価の分布 (NEXT&NEW)	評価5 … 指標を上回って達成した施策	5.3%	} 89.5%	← 平均評価5.0の施策数÷19施策×100
	評価4 … 指標を概ね達成した施策	84.2%		← 平均評価4.0以上評価5.0未満の施策数÷19施策×100
	評価3 … 指標をもう少しで達成した施策	0.0%		← 平均評価3.0以上評価4.0未満の施策数÷19施策×100
	評価2 … 指標を下回った施策	0.0%		← 平均評価2.0以上評価3.0未満の施策数÷19施策×100
	評価1 … 指標を大きく下回った施策	10.5%		← 平均評価1.0以上評価2.0未満の施策数÷19施策×100

指標目標の 評価基準	<p>指標目標の評価基準は下記のとおり。なお、( )内は、減少指標目標の場合</p> <p>※ 達成率 = 進捗状況値 ÷ 指標目標値 × 100</p> <p>評価5 … 達成率 105%以上(95%未満)</p> <p>評価4 … 達成率 95%以上105%未満(同左)</p> <p>評価3 … 達成率 85%以上95%未満(105%以上115%未満)</p> <p>評価2 … 達成率 75%以上85%未満(115%以上125%未満)</p> <p>評価1 … 達成率 75%未満(125%以上)</p>
---------------	--

次ページ以降の、「R1年度の取組に対する評価」欄における文頭の記号について  
◎…「学・社・民の融合による教育」に関する内容であることを示します。  
○…その他の内容であることを示します。  
※…補足説明であることを示します。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値 ÷ 前年度進捗状況値 × 100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	ESDを自校の教育活動に位置付けている学校の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	20.0	50.0	75.0	85.0	92.0	4	105.5%
進捗状況	-	42.5	72.0	85.0	91.0	96.0		
指標2	「アクティブ・ラーニング」を実施した学校の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	92.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標3	放課後の学習支援をする中学校(校)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	56	56	56	56	56	4	100.0%
進捗状況	-	56	56	56	56	56		
指標4	環境教育に関する実践的な取組を広報する(回)						R1評価	
指標目標	/	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	4	100.0%
進捗状況	1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
指標5	環境教育事業の実施						R1評価	
Ⅳ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	実施	実施	実施	実施	実施		
進捗状況	実施	実施	実施	実施	実施	実施		
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標	/							
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標	/							
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標	/							
進捗状況								

< 指標目標の設定型 >

- I 型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II 型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III 型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV 型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 持続可能な開発のための教育(ESD)推進事業【新規】	
R1事業計画	R1事業成果
○持続可能な開発のための教育の啓発 ○ESDマークを教育課程へ位置づけるよう啓発	○持続可能な開発のための教育(ESD)の啓発を広報により実施 ○ESDを教育課程へ位置づけている学校が小学校で99%, 中学校93%と確実に増えている。
当初予算額 0千円	決算額 0千円
構成事業2「アクティブ・ラーニング」による教育活動の推進【新規】	
R1事業計画	R1事業成果
○年間2回実施の研究主任会での支援 ○計画訪問, 要請訪問での具体的支援	○年間2回実施される研究主任会での指導と支援 ○計画訪問, 要請訪問での指導と支援
当初予算額 0千円	決算額 0千円
構成事業3 アフタースクール学習支援事業(再掲)【新規】	
○全市立中学校に学習支援員を配置 ○学習支援員連絡会(5月9日)の実施 ○放課後学習教室の運営	○全市立中学校に学習支援員を配置 ○放課後講座運営 ○学習支援員研修会(5月9日) ○参加延べ生徒数15,170人
当初予算額 6,182千円	決算額 5,897千円
構成事業4 環境学習の充実(再掲)	
R1事業計画	R1事業成果
○環境学習への支援 ○環境学習発表会	○環境とひとにやさしい敷地内緑化推進支援事業を8校において実施 ○児童生徒が緑に親しみふれ合い, 自然の大切さや環境の保護に取り組もうとする思いや態度が育っている。
当初予算額 1,200千円	決算額 1,135千円
構成事業5 環境教育事業(再掲)	
R1事業計画	R1事業成果
○地域住民向け環境教育事業の実施	○子どもが参加できる, 身近な地域の環境美化や自然環境の学習機会を提供し, 延べ912人が参加
当初予算額 168千円	決算額 148千円
構成事業6	
当初予算額 千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	7,885 千円	H27	6,637 千円
H28	8,916 千円	H28	7,913 千円
H29	8,875 千円	H29	7,764 千円
H30	7,570 千円	H30	7,417 千円
R1	7,550 千円	R1	7,180 千円
合 計	40,796 千円	合 計	36,911 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○上半期は、学校訪問を通じて主体的・対話的で深い学びのある授業を推進するよう働き掛けてきた。その結果、「アクティブ・ラーニング」を進めることで、子どもに社会の変化や課題に適切に対応できる力を育むことができる、という意識を教職員一人一人にもたせることができた。また、ようやく、ESD(持続可能な開発のための教育)の概念が各教職員に浸透してきている。

○5月に、今年度から学習支援員となった方々を含めた43名が参集し、アフタースクール学習支援員連絡会を行った。本事業の概要を説明するとともに、代表者の実践発表やグループ協議を通して、これまでの取組の様子や留意事項について情報を共有できた。学習支援員は、5月下旬に各校での学校担当者との打ち合わせを行い、計画的に講座の運営を行うことができた。1年間で、のべ15,170人の生徒が参加した。

○環境教育の一層の推進を図るため、小中学校に「地域の特色を活かした環境学習支援事業」の案内・募集を行い、希望校1校(早通小)指定校9校(岡方第二小, 東中野山小, 笹口小, 有明台小, 東曽野木小, 阿賀小, 小林小, 青山小, 巻南小)が事業を推進している。また、県が行っている水俣病発生地域間交流事業の依頼を受けて、2校(有明台小, 阿賀小)を推薦し、水俣市を中心とした現地学習を行った。さらに、今年度は、水俣市から新潟への受け入れも行った。その際の代表校2校(巻南小, 小林小)を推薦し、交流学习を行った。

○子どもたちが、緑豊かな環境の中で、自然とかがわり合う体験を通して学ぶことができるよう「環境と人にやさしい敷地内緑化推進支援事業」を案内・募集し、8校(濁川中, 山の下小, 桃山小, 関屋中, 早通小, 小合中, 矢代田小, 根岸小)が事業を推進している。

○地域住民向けの自然観察会やクリーン作戦などの環境美化活動などを開催し、身近な自然や環境を考える機会とした。

○子どもから大人まで、地域を対象に自然観察会やクリーン作戦などの環境美化活動などを実施することを通じ、身近な自然や環境を考える機会とした。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・持続可能な開発のための教育(ESD)を教育課程に位置づけている小中学校が、ともに90%以上ありますが、位置付けた(計画)だけでなく、実際に実行したかも含んだ指標なのでしょうか。  
⇒現在の指標としては位置付けた学校の割合となっており、実際に実行したかどうかの指標とはしていません。新学習指導要領の全面実施に伴い、教育課程の編成が各校で行われている時期であり、その中にESDを位置付けること自体に価値があると考えた結果です。第4期実施計画でも同じ理由で同様な指標を設定し、施策「社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進」の充実を図っていきます。

・第4期実施計画には、持続可能な開発目標(SDGs)達成を目指した、持続可能な開発のための教育(ESD)を推進と掲載されています。各学校では、新学習指導要領での新しい教科書にほとんど全て、SDGsが掲載されています。SDGsの窓で、ESDで育むコンピテンシーをカリキュラムマネジメントする必要性や明確にする説明が一律に示されると、混乱をしないと考えます。カタカナ言葉やアルファベットが増えて、難しさを感じる教職員もおります。  
⇒ご意見にあるとおり、考え方や用語の整理等について、何らかの形で発信していきたいと考えています。

基本施策 1	確かな学力の向上	施策(2)	学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進(p.18)
--------	----------	-------	------------------------------

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	キャリア教育の充実を目指して年間指導計画を作成、改善した学校の割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		80.0	90.0	100.0	100.0	100.0	4	101.2%
進捗状況	97.0	100.0	100.0	95.8	98.8	100.0		
指標2	高等教育機関・関係機関より講師を招聘し、キャリア発達に資する思考力・判断力・表現力を育む授業をした学校の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.6%
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	99.4	100.0		
指標3	大学見学・職場見学、インターンシップ(就業体験)等を実施した学校の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度、中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 キャリア教育推進事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○中学校にキャリア教育リーフレット「中学生のキャリア教育」を配付 ○中学校、高等学校での職場体験、インターンシップの推進 ○キャリア教育・年間指導計画の作成、改善	○「中学生のキャリア教育」を職場体験等で活用 ○中学校での職場体験を57校中56校で実施 ○キャリア教育・年間指導計画を100%の小・中・特別支援学校で作成	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2 市立高等学校キャリア教育推進事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○高等教育機関や企業等と連携した探究的学習の実施 ○外部機関による各種研修会の実施 ○キャリア教育推進のための先進事例研究	○高等教育機関や企業等と連携した探究的学習の実施 ○外部機関による各種研修会の実施 ○キャリア教育推進のための先進事例研究	
当初予算額	971千円	決算額 960千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円



● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	1,699 千円	H27	1,325 千円
H28	197 千円	H28	1,315 千円
H29	1,214 千円	H29	1,105 千円
H30	971 千円	H30	910 千円
R1	971 千円	R1	960 千円
合 計	5,052 千円	合 計	5,615 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○キャリア教育リーフレット「中学生のキャリア教育」を職場体験の事前学習や、自分の将来や進路を考える際に活用している。また、リーフレットの中に中学校で身に付けてほしい力として「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を示し、キャリア教育年間指導計画に位置づけ、確実に実施するように各校に指導した。

○令和2年度4月からスタートする「キャリア・パスポート」を完成させ、各校へ配布を行った。各校への教材を活用する意義や活用の仕方を周知したり、また、「キャリア・ノート」の例示資料を提示したりするなど、円滑に進められるよう支援した。

○中学校で実施している職場体験学習の実施状況を調査し、各校で充実した活動となるように支援した。

○高等学校・中等教育学校後期課程においては、高等教育機関や企業等の外部機関を活用しながら、探究的・課題解決的学習を推進する取組を支援した。

※キャリアパスポート

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見直したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐもの。教師にとっては、その記述をもとに対話的に関わることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

○キャリア・インターンシップに関する項目ですが、ほぼ100%の状況であり、評価の方法を変更したほうが良いのでは。実施状況ではなく、理解度満足度や実施内容に対する評価にしてはどうでしょうか。  
⇒各校において大学見学・職場見学、インターンシップ(就業体験)等を行うことは定着してきました。ご意見のとおり、実施状況ではなく、「児童生徒が将来、社会的・職業的に自立し、集団や社会で様々な人とかかわり、自分の役割を果たしながら自分らしく生きる資質・能力を育む」ことに向けて、生徒がどのように感じたり、学びになったりしたのかを評価する必要があります。第4期実施計画では、新たに全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「将来の夢や目標を持っていますか」の割合を指標にしました。

**●R1施策評価**

3期進捗平均
<b>4.3</b>

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値 ÷ 前年度進捗状況値 × 100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

**●成果指標**

指標1	全国学力調査B問題(小6・国語)で全国平均を上回った児童の割合(%) → H29～全国学力調査B問題(小6・国語)で全国平均正答率に対する新潟市平均正答率の割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		61.7	61.9	104.0	104.0	104.0	4	99.8%
進捗状況	70.7	68.5	63.5	106.4	108.0	107.8		
指標2	全国学力調査B問題(小6・算数)で全国平均を上回った児童の割合(%) → H29～全国学力調査B問題(小6・算数)で全国平均正答率に対する新潟市平均正答率の割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		59.7	59.9	104.0	104.0	104.0	4	97.9%
進捗状況	73.4	56.0	50.0	103.3	103.1	100.9		
指標3	全国学力調査B問題(中3・国語)で全国平均を上回った児童の割合(%) → H29～全国学力調査B問題(中3・国語)で全国平均正答率に対する新潟市平均正答率の割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		53.2	53.4	104.0	104.0	104.0	4	99.8%
進捗状況	67.3	66.1	49.0	101.9	102.5	102.3		
指標4	全国学力調査B問題(中3・数学)で全国平均を上回った児童の割合(%) → H29～全国学力調査B問題(中3・数学)で全国平均正答率に対する新潟市平均正答率の割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		61.2	61.3	104.0	104.0	104.0	4	98.7%
進捗状況	62.8	48.2	52.0	102.3	104.1	102.8		
指標5	児童質問紙「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」で、肯定的な回答をした児童(小6)の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		84.0	84.5	85.0	86.0	86.0	4	102.1%
進捗状況	83.1	87.7	87.4	88.7	82.1	83.8		
指標6	児童質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」で、肯定的な回答をした児童(小6)の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		70.5	71.0	72.0	73.0	74.0	5	101.1%
進捗状況	69.8	70.7	74.4	74.3	81.2	82.1		
指標7	生徒質問紙「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」で、肯定的な回答をした生徒(中3)の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		80.0	80.5	81.0	84.0	84.0	4	102.0%
進捗状況	79.1	85.0	84.2	86.1	81.2	82.8		
指標8	生徒質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」で、肯定的な回答をした生徒(中3)の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		70.0	71.0	72.0	73.0	74.0	5	94.8%
進捗状況	69.0	70.5	71.6	73.2	85.1	80.7		

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度、中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

**●施策を構成する事業**

構成事業1 学力実態調査	
R1事業計画	R1事業成果
○中学校2年生に学力調査(CRT)を実施(理科, 英語) ○学力実態報告書の作成・配布	○市内中学2年生6,066名に学力調査(CRT)を実施 ○学力実態調査を作成し, 各校に配布 ○新潟市全体の傾向を市のホームページに掲載
当初予算額 4,108 千円	決算額 4,044 千円
構成事業2 学力定着支援事業	
R1事業計画	R1事業成果
○小学校3・4・5・6年生の算数と中学校全学年の数学の単元評価問題を年9回配信 ○小学校5年生, 中学校2年生の理科の評価問題を年4回配信	○小学校3・4・5・6年生の算数と中学校全学年の数学の単元評価問題及びサポート問題を年9回配信 ○小学校5年生, 中学校2年生の理科の評価問題を年4回配信
当初予算額 0 千円	決算額 0 千円
構成事業3 アフタースクール学習支援事業【新規】	
○全市立中学校に学習支援員を配置 ○学習支援員連絡会(5月9日)の実施 ○放課後学習教室の運営	○全市立中学校に学習支援員を配置 ○放課後講座運営 ○学習支援員研修会(5月9日) ○参加延べ生徒数15,170人
当初予算額 6,182 千円	決算額 5,897 千円
構成事業4 学習支援員派遣事業	
R1事業計画	R1事業成果
○教員を目指す大学生を学習支援員として派遣し, 児童生徒へのきめ細かな学習指導を支援 ○連絡調整費として一回につき1,000円を支給, 一人当たりの上限を30回として, 129名の派遣	○学習支援ボランティア派遣プロジェクトにおいて, 201名の学生を96校の学校園に派遣した。延べ回数3,031回
当初予算額 2,891 千円	決算額 3,031 千円
構成事業5 理科大好きプロジェクト	
R1事業計画	R1事業成果
○理科支援員の配置	○理科支援員を31校に配置 ○理科の授業の「観察・実験の回数」「計画性」「予備実験の有無」「安全性」「きめ細やかな指導」などのアンケート項目で, すべて9割以上の肯定的評価が得られた。
当初予算額 2,657 千円	決算額 2,543 千円
構成事業6 地域と学校パートナーシップ事業(再掲)	
R1事業計画	R1事業成果
○本事業にかかる3回の研修会の開催(第1・3回研修会は, コーディネーター・地域連携担当職員対象。第2回研修会は, 新任校長対象。) ○新任コーディネーター研修	○本事業にかかる研修会を開催し, 学校担当者, 地域教育コーディネーター, 学社民融合支援主事あわせて延べ1,020名が参加 ○市民へ周知のため, ウェルカム参観日を16校で実施
当初予算額 135,766 千円	決算額 131,926 千円



● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	19,582 千円	H27	18,877 千円
H28	19,639 千円	H28	17,810 千円
H29	20,405 千円	H29	16,939 千円
H30	18,519 千円	H30	16,325 千円
R1	15,838 千円	R1	15,515 千円
合計	93,983 千円	合計	85,466 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○【全国学力・学習状況調査による学力実態:平均正答率】  
今年度から、知識と活用を一体的に問う調査問題になった。本市の平均正答率は、全国(公立)の平均正答率を全ての教科で上回った。  
・国語 小学校:68.8%(全国比+5.0), 中学校:74.4%(全国比+1.6)  
・算数数学 小学校:67.2%(全国比+0.6), 中学校:61.4%(全国比+1.7)  
・中学校英語 中学校:56.2%(全国比+0.3)

○成果指標5および7については、児童生徒質問紙調査において、29年度までの質問項目「発表の機会が与えられていたと思うか」がなくなったため、昨年度より質問項目「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の肯定評価の値を入力している。

○中学2年生6,066名に学力調査(CRT)を実施し、調査結果を作成し、各校に配付した。

○算数・数学および理科の単元評価問題の配信を継続している。各校においては、実態に応じて活用方法を工夫している。

○5月に、今年度から学習支援員となった方々を含めた43名が参集し、アフタースクール学習支援員連絡会を行った。本事業の概要を説明するとともに、代表者の実践発表やグループ協議を通して、これまでの取組の様子や留意事項について情報を共有できた。学習支援員は、5月下旬に各校での学校担当者との打ち合わせを行い、計画的に講座の運営を行うことができた。1年間で、のべ15,170人の生徒が参加した。

○令和元年度は、201人の学習支援ボランティアが登録され、授業等の補助などに当たり、各校で有効に活用されているとともに感謝の声が寄せられた。

○理科支援員配置の希望の募集を行い、これまでの配置状況から検討し、今年度31校に理科支援員を配置した。

\*以下、「9-(1)地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進」p64の記載内容を参照

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・中学生の英語の学力調査を実施しているのであれば、その結果も評価対象として開示したほうが良いのではないのでしょうか。  
⇒中学2年生のCRT(標準的学力調査)については、今後も継続実施することが確定している事業ではないため、教育ビジョンの指標とはしていませんが、実施した分の結果はホームページで分析及び今後の対策とともに公表しています。なお、全国学力学習状況調査において、令和元年度より英語が3年に一度実施されることから、第4期実施計画では、評価対象として指標に入れることにしています。

・構成事業4について、大学教員の立場からすると、このような教職志望の大学生等が学校現場で学び体験できる事業は、大学等のカリキュラムとの兼ね合いの中で、ぜひ継続していただきたいと思います。  
⇒第4期実施計画においても、「学習支援ボランティア派遣事業」として継続します。

・理科支援員の配置について、令和元年度は31校に配置とあるが、希望する学校に対する配置割合はどの程度ですか。希望する学校ほとんどに配置可能だったのでしょうか。  
⇒希望する学校に対する配置割合は40%ほどとなっています。結果として、2年に一度、もしくは3年に一度の割合で希望校に対する配置を行っています。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1 「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく体験学習を実施している小学校の割合(%)							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標2 アグリ・スタディ・プログラム評価・サポート委員会によるプログラムの検証率(%)							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		25.0	50.0	75.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	-	25.0	50.0	75.0	100.0	100.0		
指標3							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく体験学習の推進事業【新規】			
R1事業計画		R1事業成果	
○ASP総合推進会議, ASP評価サポート委員会を開催し, ASPの改善点の検討を実施 ○ASP研修会の開催, 活用のポイントを周知, 教育課程への位置付けを促す		○総合推進会議, 評価・サポート委員会, アグリパークを語る会などを開催し, ASPの質的向上を図り, 各学校に周知 ○ASP研修会を4回(うち1回が一日研修)開催し, 教育課程への位置付けを促した	
当初予算額	0千円	決算額	0千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	0 千円	H27	0 千円
H28	0 千円	H28	0 千円
H29	0 千円	H29	0 千円
H30	0 千円	H30	0 千円
R1	0 千円	R1	0 千円
合 計	0 千円	合 計	0 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○5月に第1回ASP総合推進会議を実施, 7月にASP評価・サポート委員会を実施することにより, ASPの改善点の検討を図った。

○ASP研修会の4回開催, 活用のポイントを周知することにより, 各校の年間指導計画や総合の計画の中に, ASPをどのように位置づけるかの具体的な検討が図られた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より, 第4期実施計画に移行するため, この欄の記述はありません。中間評価の際に, 新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・アグリ・スタディ・プログラムについても, すでに100%であり, 取組の内容に関する新たな評価方法にしてはどうでしょうか。  
⇒第4期実施計画では, 「アグリ・スタディ・プログラムに基づいて, アグリパークで学習した小中学生のうち, アンケートで自然や農業への関心が高まったと回答した小中学生の割合」に評価指標を変更しました。抽出評価ではありますが, より子どもたちの実態把握ができると考えています。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	家庭学習を1時間以上する中学校2年生の割合(%)						R1評価		
	Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	51.8	51.9	57.7	62.6	65.4		4	96.6%
進捗状況	-	51.8	57.6	62.5	65.3	63.1			
指標2									
指標目標	/								
進捗状況									
指標3									
指標目標	/								
進捗状況									
指標4									
指標目標	/								
進捗状況									
指標5									
指標目標	/								
進捗状況									
指標6									
指標目標	/								
進捗状況									
指標7									
指標目標	/								
進捗状況									
指標8									
指標目標	/								
進捗状況									

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 学習習慣定着事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○家庭学習実態調査の実施 ○啓発活動の推進(学校訪問・広報紙「サポート」等)		○「新潟市生活・学習意識調査」にて, 家庭学習実態にかかわる調査を実施(11月) ○家庭学習習慣確立のための学校訪問時の見取りと取組の啓発	
当初予算額	121 千円	決算額	128 千円
構成事業2			
当初予算額		千円	決算額
構成事業3			
当初予算額		千円	決算額
構成事業4			
当初予算額		千円	決算額
構成事業5			
当初予算額		千円	決算額
構成事業6			
当初予算額		千円	決算額
当初予算額		千円	決算額

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	534 千円	H27	223 千円
H28	398 千円	H28	343 千円
H29	223 千円	H29	239 千円
H30	109 千円	H30	106 千円
R1	121 千円	R1	128 千円
合計	1,385 千円	合計	1,039 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○年度当初に研究主任を対象とした研修で、家庭学習定着の先進的取組について、小中学校各2校ずつ計4校の取組を紹介した。(4月)

○学校訪問の全体指導で全教職員に配付したリーフレットを活用し、授業とつながる家庭学習習慣定着への取組を促した。訪問懇談資料に基づく校長からの聞き取りでは、訪問した81の全ての小中学校で全校体制での取組の工夫がされていた。

○小学校中学校ともに、全校体制で家庭学習習慣定着に取り組む学校が増加している。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・1時間以上自宅学習する中学2年生の割合ですが、この資料のほかに全国学力調査に基づき、同様の内容結果を比較対象として記載してはどうですか。この63%という数値をどのように評価するかの比較対象がありませんか。  
 ⇒中学2年生での比較資料はありませんが、全国学力調査で中学3年生の結果を全国と比べると、新潟市は67.2%で全国よりも2.6ポイント低くなっています。このような実態から、全国の取組状況に近づけるよう、市では指標目標を、前年度の進捗状況の結果(数値) + 0.1ポイントで設定して取り組んできました。なお、第4期実施計画では中学3年生を対象とし「新潟市生活・学習意識調査で、市の目安とする家庭学習時間(120分)を達成した生徒の割合」を指標としています。

・「全校体制で家庭学習定着に取り組む学校が増加している」と記載があるが、具体的な教育委員会の支援方法はどのようなものでしたか。

⇒教育委員会で作成した「新潟市の家庭学習」リーフレットを市内の全教職員に配付し、それをを用いて学校訪問の折りに家庭学習について指導しています。また、学校訪問での授業参観の協議会で、授業のまとめや振り返りを家庭での自主的な復習や予習につなげていけるよう、具体的な方法について指導・協議しています。

・私がPTA役員をしていた頃、中等教育学校で1、2年生保護者を対象に教育関係企業や予備校に依頼して、講演をお願いしていました。家庭学習の大切さを知ってもらうため、このような取組も参考にしようでしょうか。

・新潟県・新潟市の課題として家庭学習の時間が短いということがあります。家庭学習の習慣が身に付くよう、より具体的に効果的な取組を期待します。各校の取組を尊重しつつ、分かりやすい全学的な取組があるとよいです。

⇒家庭学習の取組について、多くの学校が小中一貫教育の取組の中で、合同研修会を実施したり、各主任や担当ごとに相談したりしています。また、家庭学習の習慣化を図るために、強調週間を設定するなどの工夫をしています。そのような取組の中で、児童生徒や保護者向けに講演会などを実施している学校もあります。教育委員会では、さらに効果的な取組となるよう、学校支援課が作成した「新潟市の家庭学習」リーフレットを市内の全教職員に配付し、それをを用いて学校訪問の折りに家庭学習について周知を図ってきました。また、学校訪問での授業参観後の協議会では、授業のまとめや振り返りを家庭での自主的な復習や予習につなげていけるよう、具体的な方法について指導し、協議していきます。

・2つ目と3つ目の○について、家庭学習の具体的な取組例(一つでもOK)を記入できませんでしょうか。評価の重要な参考になるうかと思えます。

⇒(具体的な取組例)・全学年が学校独自に設定した「おかずメニュー(基礎・基本)」「ごはんメニュー(考える力)」「デザートメニュー(わくわく)」で家庭学習に取り組むことを確認しました。・授業に関連した内容の自主学習ノートを児童が紹介し合ったり、アドバイスをしたりする機会を適宜設け、活性化を図りました。・帰りの会(終学活)において、一日の振り返りを行うとともに、授業とつながる家庭学習の計画を立てさせました。



●R1施策評価

3期進捗平均
1.8

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	学校図書館を活用した授業を「月に数回程度」行った小学校の割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		78.0	79.0	80.0	81.0	82.0	1	49.0%
進捗状況	77.2	75.6	46.8	74.7	75.5	37.0		
指標2	学校図書館を活用した授業を「学期に数回程度」行った中学校の割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		56.0	57.0	58.0	59.0	60.0	1	63.5%
進捗状況	55.1	62.1	55.2	71.9	70.2	44.6		
指標3	中学生の不読率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		12.0	11.5	11.0	10.5	10.0	1	95.9%
進捗状況	12.1	12.3	11.8	11.4	12.3	12.8		
指標4	ほぼ毎日新聞を読む中学生の割合が、全国平均を上回る(ポイント)→H29～週に1回以上新聞を読む中学生の割合が、全国平均を上回る(ポイント)						R1評価	
指標目標		2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	4	112.0%
進捗状況	2.7	1.0	1.1	1.6	2.5	2.8		
指標5							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8	0						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 学校図書館活用推進校事業	
R1事業計画	R1事業成果
○小学校20校, 中学校10校を学校図書館活用推進校として指定 ○年度末(2月)に実践発表会開催 ○HP, 学校支援課だより「サポート」で代表的実践例紹介	○小学校20校, 中学校10校を学校図書館活用推進校として指定し, 2月に実践報告会を開催 ○学校支援課だより「サポート」, 新潟市HPに平成30年度推進校の実践事例を掲載
当初予算額 0千円	決算額 0千円
構成事業2 学校図書館支援事業	
R1事業計画	R1事業成果
○蔵書システム運用サポート体制維持・公務出張の拡充による研修支援(4月～) ○学校図書館地域開放実施(7, 8月) ○次年度司書配置(3月)	○蔵書管理システム運用サポート体制の維持 ○夏季休業中の学校図書館地域開放実施(92校) ○学校図書館支援センター運営検討委員会の開催 ○司書の配置
当初予算額 247千円	決算額 200千円
構成事業3 学校図書館支援センター事業	
○学校図書館訪問, 相談対応 ○新任学校司書研修, 学校司書実務研修 ○学校貸出図書搬送事業 ○学校貸出セット「オレンジBOX」追加整備と貸出 ○学校図書館支援センター運営協議会, 運営検討委員会の開催	○学校図書館訪問 284回 ○相談対応 2,131回 ○新任学校司書研修6回, 実務研修3テーマ4回実施 ○学校貸出図書搬送52,987冊 ○学校貸出セット, 学支コーナーの図書を更新
当初予算額 2,100千円	決算額 1,284千円
構成事業4 新聞活用の推進【新規】	
R1事業計画	R1事業成果
○小学校13校, 中学校3校と新聞活用教育(NIE)推進校として指定 ○推進校における, 新聞活用教育の実践の推進 ○年度末(2月)に実践報告集を各校に配布	○小学校13校, 中学校3校を新聞活用教育(NIE)推進校として指定。 ○推進校における, 新聞活用教育の実践の推進 ○実践報告集を各校に配付及び啓発
当初予算額 121千円	決算額 128千円
構成事業5	
当初予算額 千円	決算額 千円
構成事業6	
当初予算額 千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	2,160 千円	H27	1,888 千円
H28	2,521 千円	H28	1,928 千円
H29	2,055 千円	H29	2,155 千円
H30	2,464 千円	H30	1,747 千円
R1	2,468 千円	R1	1,612 千円
合計	11,668 千円	合計	9,330 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

- 学校図書館活用推進校として、小学校20校、中学校10校を指定し、5月に学校図書館活用推進校研修会を実施した。「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を高めるための取組について共通理解を図ることができた。
- 蔵書管理システムサポート代表校(16校)を組織して、蔵書システムの取り扱いの支援を行い、学校図書館の円滑な運営に努めた。
- ◎夏季休業中の学校図書館地域開放を小学校78校、中学校14校で行い、子どもたちだけでなく、家族や地域の人からも学校図書館を実際に使ってもらい、学校図書館への理解を深めることができた。
- 学校図書館支援センターの運営について「運営協議会」及び「運営検討委員会」を通して、課題を共有し効果的な学校図書館支援が行えるよう協議を行った。
- ◎学校図書館支援センターの取組は以下のとおりである。
  - ・市立小・中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校の全校を訪問し、学校図書館の運営や活用状況を聞き取り、業務相談に応じた。
  - ・新任学校司書研修を6回実施。学校司書実務研修を3テーマ4回実施し、学校司書のスキルアップや業務の平準化を進めた。
  - ・市立図書館から学校への団体貸出や学校貸出図書搬送により、授業や読書活動を支援した。学校貸出セット【オレンジBOX】は、活用状況や教科書単元に合わせて内容を改訂した。また、読書バリアフリー法制定を受け、読みやすさに配慮したブックリストを追加した。
  - ・特別支援学校の整備に関する情報収集に努め、個別支援を行った。
  - ・ホームページや実践発表など様々な機会を通じて、新潟市の学校図書館と学校図書館支援の取組を広く全国に発信した。
  - ・本市のこれまでの教育委員会による学校図書館の整備充実が高く評価され、第49回「学校図書館賞」(主催:公益社団法人全国学校図書館協議会)を受賞した。受賞を広く市民に広報するため「学校図書館と学校図書館支援センター」展示を4図書館で巡回展示した。

● 推進委員からの意見・要望等

「学校図書館を活用した授業」という言葉の解釈がより高いものになったということは理解しました。令和元年度に大きく評価が下がったということであれば、言葉の意味の共通理解を図り、指標の見直しすると良いと思います。中学生の不読率は深刻な問題です。新たな手立てを講じる必要があると思います。

⇒例年行われている各学校へのアンケート(図書館教育担当者、図書館司書のどちらかが回答)の評価基準を明確にするために、実施した学級数などで判断できるように明示します。また、年度途中で、ビジョンの評価基準について共通理解します。さらに、中学生の不読率について、今年度は授業時数の確保のために、朝読書の設定などだけでは難しいと考えます。「うちどく」のように家庭での時間を有効活用した取組も推奨するとともに、電子書籍での読書についても状況を把握し、コロナ禍であっても、本に触れる機会を保障していきます。

・夏季休業中の学校図書館地域開放の取組、大変良いと思います。実施できた学校とできなかった学校の差は何でしょう。特に中学校の図書館の蔵書は、地域住民にとっても手に取りやすいのではないかと思います。学校が地域に開かれていくためにも、開放される学校が増えることを希望します。

⇒学校図書館地域開放については、校舎改修工事など、各校の事情により実施できない学校がありました。今後も学校図書館開放の実施状況把握に努めていきます。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止等の観点から実施を見送りますが、来年度は継続実施する予定です。

・「学校図書館を活用した授業」を行った割合が、小中学校とも大きく減少しており、その理由として、研修機会が多かったなどの理由から「学校図書館の蔵書を『活用した授業』の捉えが前年までと変わった(司書教諭や図書館司書の判断基準が高まった)」と分析されています(資料5)。もしこの分析の通りだと、研修の結果として司書教諭等の意識や力量が高まったのだとすれば、それ自体は良いことであると思いますが、そうだとすると昨年度はかなり大幅に数値が減少したことに関しては、検証が必要だと思われます。そのためには、司書教諭等を対象とした聞き取りを行う必要があるのではないかと思います(アンケート調査ではなく、量ではなく質的な調査)。聞き取りを行うことで、研修等によって「捉え」が変わったのであるとすれば、どのような「捉え」に変化したのか、また複数から話を聞くことで望ましいまたは可能な「図書館を活用した授業」を考えることができるとし、全く別の理由で数値が低下したのであれば、それへの対処も考えることができると考えられます。

⇒ご意見にあるように、聞き取り調査をしたところ、高い評価をした学校では、具体的な実践として以下のような回答がありました。「学期に数回行った」と答えた学校では、「6年生では、図書館オリエンテーションと読書週間での読み聞かせを行った。また、総合・道徳・国語・理科における調べ学習等で学年団体貸出を行った。公共図書館からも借りた。〔小学校〕」当校の図書館年間活用計画をもとに、国語科物語教材の並行読書、社会科の歴史学習、総合的な学習での地域資料を活用した活動等で、図書館を活用した授業を行った。〔小学校〕「主に国語の時間を使って図書館を活用した授業を行った。(図書館オリエンテーション、ビブリオバトル、調べ学習など)〔中学校〕」という回答がありました。また、「年に数回程度行った」と答えている学校でも、「6年生は、オリエンテーション、読書指導の他、学級貸出が今年度7回あった。〔小学校〕」「国語、理科、家庭科の授業で蔵書の利用があった。〔小学校〕」「1、国語:慣用句・故事成語を使って、短作文を書く。(慣用句・故事成語辞典)2、家庭科:幼児とのふれあい学習で、学級の班ごとで相互に絵本の読み聞かせを行う。(読み聞かせのための絵本)〔中学校〕」

・以上のように、「学校図書館を活用した授業」が実施できた学校では、教科を横断的に捉えた単元での学校図書館利用がなされていきました。これらのことから、司書教諭等が各校の学校図書館活用計画に基づいた図書館利用について振り返った際に、「学校図書館を活用した授業」が単に授業での活用に留まらず、探究的な学習に資する授業になったか、という捉えで評価するようになったものと分析しています。

基本施策	2	豊かな心と健やかな体の育成	施策(1)	いのちの教育・心の教育の推進(p.23)
------	---	---------------	-------	----------------------

●R1施策評価

3期進捗平均
4.3

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童(小6)の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	5	97.9%
進捗状況	79.8	78.5	80.3	82.1	86.9	85.1		
指標2	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「自分には、よいところがあると思う」と回答した生徒(中3)の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	5	96.4%
進捗状況	70.6	72.4	71.5	75.5	80.8	77.9		
指標3	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と回答した児童(小6)の割合(%)→H29～「新潟市の学校教育実践状況調査」で上記評価を実施						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	3	101.5%
進捗状況	96.0	95.2	—	90.4	89.4	90.7		
指標4	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と回答した生徒(中3)の割合(%)→H29～「新潟市の学校教育実践状況調査」で上記評価を実施						R1評価	
指標目標		96.5	96.5	96.5	96.5	96.5	3	100.1%
進捗状況	96.1	95.6	—	90.2	91.0	91.1		
指標5	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う」と回答した児童(小6)の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	4	100.4%
進捗状況	97.5	97.1	97.6	97.8	98.1	98.5		
指標6	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙で、「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う」と回答した生徒(中3)の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		95.0	95.3	95.0	95.0	95.0	4	99.8%
進捗状況	94.3	95.2	94.8	94.6	97.1	96.9		
指標7	子育て学習出前講座(小学校)の実施率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		90.2	90.2	90.2	90.2	90.2	5	97.9%
進捗状況	90.2	94.5	94.4	94.4	97.2	95.2		
指標8	子育て学習出前講座(中学校)の実施率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		26.3	26.3	28.0	28.0	29.8	3	93.6%
進捗状況	24.5	24.5	28.1	36.8	28.1	26.3		
指標9	家庭教育学級数(講座)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		63	64	68	69	69	4	101.5%
進捗状況	63	68	68	66	65	66		

●施策を構成する事業

構成事業1	R1事業計画		R1事業成果	
道徳教育の充実、福祉教育の充実、人権教育、同和教育の推進、男女平等教育の推進(再掲)	○小中学校の道徳教育推進教師を対象とした道徳教育研修会の実施 ○道徳科の授業づくりリーフレット(小学校版, 中学校版)を市立小中学校全教職員へ配布 ○男女平等教育のための資料作成と配付 ○人権教育、同和教育に関する研修会の実施		○小中学校の道徳教育推進教師を対象とした道徳教育研修会の実施 ○道徳科の授業づくりリーフレット(小学校版, 中学校版)を市立小中学校全教職員へ配布 ○男女平等教育のための資料作成と配付 ○人権教育、同和教育に関する研修会の実施	
当初予算額	0千円	決算額	0千円	
構成事業2	R1事業計画		R1事業成果	
家庭教育振興事業(再掲)	○出産前から子どもの成長期に合わせた家庭教育学級の実施 ○朝ごはん料理講習会の実施 ○子育て学習の出前講座の実施(小中学校)		○出産前から思春期・孫育てなどの家庭教育学級66講座を実施 ○子育て学習出前講座の実施(小100校, 中15校) ○朝ごはん料理講習会の実施(35回, 参加者1,310名)	
当初予算額	10,510千円	決算額	9,058千円	
構成事業3				
当初予算額	千円	決算額	千円	
構成事業4				
当初予算額	千円	決算額	千円	
構成事業5				
当初予算額	千円	決算額	千円	
構成事業6				
当初予算額	千円	決算額	千円	



● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	420,420 千円	H27	9,274 千円
H28	13,051 千円	H28	11,009 千円
H29	16,014 千円	H29	14,138 千円
H30	13,812 千円	H30	11,722 千円
R1	10,510 千円	R1	9,058 千円
合 計	473,807 千円	合 計	55,201 千円

注:再掲事業分を含む

<前ページの指標目標の設定型>

- I 型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II 型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III 型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV 型: 数値ではなく文字で設定

● R1年度の取組に対する評価

- すべての小中学校において、道徳教育の全体計画、全体計画の別業、各学年の年間指導計画を作成して取り組んだことにより、計画的に道徳教育を実施することができた。
- 道徳科の授業づくりリーフレットを配付し、それを活用した校内研修会が開催され、道徳科の授業づくりの在り方が教職員に共有できた。
- 道徳教育推進教師研修会を受けて、自校で道徳教育推進教師による道徳教育研修会を実施し、研修会の内容が教職員に周知された。
- ※成果指標3, 4については、評価対象となる全国学力・学習状況調査項目が平成28年度から変更となった(「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」→「人が困っているときは、進んで助けていますか」)。そのため、平成29年度から「新潟市の学校教育実践状況調査」で評価している(中間評価時は未実施)
- 男女平等教育学習推進研究会を5月と9月に実施した。12人の委員の男女の割合は半分ずつである。現在の男女平等教育学習資料の活用状況を共有し、成果と課題を話し合った。
- 令和2年度から5年間使用する、男女平等教育学習資料及び活用の手引きの改訂を行い、全学校に配付した。
- 市立学校の管理職を対象とした人権教育、同和教育の研修会を開催し、全国でも著名な方からの講演を行い、差別の現状と差別を解消する実践について学ぶことができた。
- 夏季休業期間を中心として、人権教育、同和教育の校内研修を開催し、学校教育活動における人権意識を高める指導に役立てた。
- 家庭教育の大切さを知ってもらうため、小中学校との連携で、就学時検診や新入学学校説明会開催時に講演を行う「子育て学習出前講座」を実施したことで、普段は公民館へ足を運ばない小中学生保護者の方々へ、子育てについて考える機会を提供することができた。
- 地域団体と連携して実施した「おはよう朝ごはん料理講習会」では、子どもたちの基本的な生活習慣の確立や食育への意識向上を図るだけでなく、楽しみながら親子交流、地域の多世代交流を行うことができた。
- 出産前から思春期まで、子どもの年代に合わせた家庭教育学級を実施し、子育てを通じて、情報共有や仲間づくりの機会を提供した。また、休日に開催することで夫婦参加型メニューを組み入れたり、父親を対象とした「父親学級」などを開催することで、男性の子育て参加意識の向上に取り組むことができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

- ・指標7, 8の子育て学習出前講座ですが、小学校では高い実施率となっていますが、中学校では低くなっています。理由は何ですか。また小学校では実施率が高くなっているので、参加者の満足度や内容に関する評価にしたほうが良いのではないのでしょうか。  
⇒小学校の多くは、就学時健診に合わせて開催することが多いことから、高い実施率となっています。一方、中学校では、入学説明会やPTA事業として開催し、「スマホを持つ子どもがトラブルに巻き込まれないために、保護者としてどうしたらいいか」という内容が多くなっています。ネットトラブルについては、国や県、警察などでも専門の講師を派遣するなど、注意喚起に取り組んでおり、それらの機関を活用している中学校もあることから、当事業の実施率が低くなっていると考えられます。小学校での実施率は安定して高い水準を保っているため、ご意見のとおり「満足度」などの評価に重点を置き、実施校数の向上と合わせて内容の充実に取り組んでいきます。  
※R1年度の満足度: 小学校87.1%, 中学校74.6%(アンケートで肯定的な回答をした割合)

●R1施策評価

3期進捗平均

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	新潟市生活・学習意識調査の「自律性」「社会性」にかかわる質問項目のうち、肯定的な回答が前年度の数値を上回った項目の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		66.7	66.7	67.0	70.0	75.0	5	100.5%
進捗状況	61.1	83.3	69.2	90.9	83.7	84.1		
指標2	小学校 いじめ解消率(%)※「解消率」…「解消」と「一定の解消」を合わせたものの割合						R1評価	
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	97.0	97.0	97.0	4	100.6%
進捗状況	96.2	99.1	95.8	97.4	98.3	98.9		
指標3	中学校 いじめ解消率(%)※「解消率」…「解消」と「一定の解消」を合わせたものの割合						R1評価	
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	97.0	95.0	95.0	4	100.8%
進捗状況	94.5	96.3	98.1	94.2	96.4	97.2		
指標4	小学校 不登校(30日以上欠席)発生率(%)						R1評価	
指標目標		0.38	0.38	0.38	0.40	0.64		
進捗状況	0.40	0.44	0.47	0.56	0.69	未発表		
指標5	中学校 不登校(30日以上欠席)発生率(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		2.65	2.62	2.60	2.64	3.23		
進捗状況	2.69	2.64	2.98	3.11	3.63	未発表		
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 いじめ対策等生徒指導推進事業【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○本市の生徒指導の考え方・体制について周知を図るための研修会の実施 ○いじめ防止に関する会議の開催 ○「新潟市いじめ防止フォーラム」の開催	○いじめの積極的な認知と組織的な対応を推進するための研修会や指導を実施 ○いじめ防止に関わる管理職・生徒指導担当教諭への研修を実施したほか、教職員の経験と職種に応じた研修を実施 ○いじめ防止市民フォーラムを開催	
当初予算額	674 千円	決算額 564 千円
構成事業2 教育相談ネットワーク事業・カウンセラー等活用事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○スクールカウンセラーを全ての市立小学校, 中学校, 高等学校, 中等教育学校に配置	○教育相談センターによる教育相談を, 延べ14,563回実施。 ○スクールカウンセラーを全ての市立学校に配置するとともに, 必要に応じて緊急でスクールカウンセラーを派遣した。	
当初予算額	81,043 千円	決算額 79,056 千円
構成事業3		
当初予算額		決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円



● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	88,651 千円	H27	89,742 千円
H28	83,419 千円	H28	81,800 千円
H29	80,653 千円	H29	81,690 千円
H30	79,886 千円	H30	79,545 千円
R1	81,717 千円	R1	79,620 千円
合 計	414,326 千円	合 計	412,397 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○いじめ・不登校の適切な対応のために、「教頭研修」「生活指導主任研修」「初任者研修」「中堅教諭等研修」「事務職員5年目研修」を各1回、「要請訪問研修」を4回、その概論と対応に関する研修を実施した。研修後の参加者のアンケートでは100%の肯定評価を得た。

○定期の学校訪問では全市小中学校の約半数を実施した。その他、学校の要請に沿って年間を通して随時指導・支援を行った。その結果、児童・生徒の自律性・社会性の育成及び問題への適切な対応ができた。

○いじめ防止市民連絡協議会を1回実施し、いじめの現状について情報共有を図るとともに、未然防止等に向けた取組や具体的な事案への対応の検討等を行った。協議会が主催する「いじめ防止市民フォーラム」では前年度を越える参会者があり、事後アンケートの「いじめ防止に向けた意識の向上があった」の肯定評価は100%であった。

○カウンセラー配置・派遣では、スクールカウンセラーを全ての市立学校に配置し、児童生徒、保護者、教職員へのカウンセリングと校内研修の助言等を行った。スクールカウンセラー配置の効果として、「児童・生徒の悩み軽減」では83%、「保護者の悩み軽減」では92%の学校が肯定的な評価をしている。

○各学校からの欠席報告を確実にし、区教育支援センター、教育相談センター、訪問教育相談員、各区教育相談室など、不登校にかかわる機関で情報を共有し、不登校の未然防止の意識を高めた。不登校児童生徒数の多い学校には、直接学校訪問し、減少に向けた取組について指導した。

○不登校児童生徒に対する組織的な支援と、小中一貫した継続的な支援のために「児童生徒理解・教育支援シート」の活用推進を図った。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・不登校の発生率が残念ながら高くなってきています。その理由はどこにあるのでしょうか。その一方で、不登校傾向ながら欠席が30日にならない児童生徒が増えていることはとても良いことです。初期対応ガイドブックを活用した研修等を指標に入ると良いと思います。

⇒不登校発生率は全国的にも増加傾向となっています。その要因は子どもがうまく人間関係を築けなかったり、家庭内に問題があったりするなど千差万別です。新潟市も増加傾向となっておりますが、増加率については全国の数値と比較すると低く抑えられています。また、不登校傾向ながら欠席30日未満の児童生徒が増えていることについては、本市の各学校が初期対応を的確に行い長期欠席を防いでいる結果とも言えます。なお、初期対応ガイドブックの活用については研修等も含めて、有効活用に向けて検討を重ねていきたいと考えています。

・指標4、5の不登校について、市教委として今後、不登校の児童・生徒を対象として、オンライン会議システムを使用して授業への参加を促すことは考えますか。オンライン会議システムを使用した授業は、授業を受講することに関しては、理論上は不登校をなくしたり減らしたりすることができると考えられます。資料5(教育相談センター所長談)では、「タブレットなどを活用したりリモートでの支援も有効」とされていますが、もしそれができるのならば、オンラインで授業を受講することも可能になります。

⇒登校できない児童・生徒と担任とがオンラインでつながることで、顔を見ながら学校の様子を伝えたり、家庭学習のサポートをしたりと、子どもの学びや心を学校とつなぐ支援が行いやすくなると考えております。実際に、市内で既にそのような取組を始めている学校もあります。また、教育相談センターでは、不登校の児童生徒に対して、オンラインの支援を考えています。オンライン(Wi-Fi)環境整備の課題はありますが、持続可能なオンライン支援のノウハウを検証し、実施に向け計画を進めていきます。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	自然体験学習を実施した学校の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		94.0	95.0	95.0	95.0	95.0	4	97.1%
進捗状況	94.6	96.4	95.3	95.3	98.1	95.3		
指標2	子供向け体験活動事業参加者数(人)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		21,300	21,300	21,300	21,300	21,300	4	113.1%
進捗状況	21,011	20,516	20,365	19,670	18,782	21,234		
指標3							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 自然体験学習の支援		
R1事業計画	R1事業成果	
○体験学習の意義等の周知	○小学校106校中101校が自然体験を実施 ○豊かな自然環境の中で集団宿泊活動実施できた学校が95%	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2 子ども体験活動・ボランティア活動推進事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○土日や長期休業期間に集団活動や様々な体験活動事業の実施	○ものづくりや自然体験, 地域と連携してのボランティア活動など, 様々な子ども対象事業を実施	
当初予算額	1,983千円	決算額 1,434千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	15,244 千円	H27	17,494 千円
H28	14,418 千円	H28	13,726 千円
H29	9,312 千円	H29	8,792 千円
H30	2,320 千円	H30	1,693 千円
R1	1,983 千円	R1	1,434 千円
合 計	43,277 千円	合 計	43,139 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○昨年度より1学級当たり3万円のバス代補助が削減されたが、各学校では、例年同様、アグリパーク、胎内少年自然の家、五頭少年自然の家、妙高少年自然の家、佐渡等で、子どもたちの自然体験学習(野外炊飯、キャンプファイヤー、自然観察等)が活発に行われ、自然体験活動の充実が図られた。

○学校が休みになる土日や夏休みなどの長期休業期間に、集団活動やキャンプなどの野外活動、ものづくりなどの体験活動事業を実施し、子どもたちに異学校異学年の交流や地域の大人たちとの交流などを体験してもらうことで社会性を育み、健全育成を図った。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標2の体験活動事業参加者数は非常に数値が高いので、内容評価に変更したらどうですか。また、この目標数値は、どのような資料を基にした目標数なのか、教えてください。  
 ⇒教育ビジョン後期実施計画(H22~26年度)の指標では、数値目標が設定されていませんでしたが、教育ビジョン第3期実施計画(H27~31年度)で数値目標が設定されました(21,300人)。数値目標については過去の参加人数の推移や、直近の参加者数(H26年度:21,011人)を踏まえた上で設定しました。市の子どもの人数が増加していく見通しが立たない状況の中、維持・向上を進める目標数値としては、現実的な数値設定がされていると考えていますが、第4期実施計画では、「子ども体験活動の実施における、参加者の事業に対する肯定的な回答の割合」を指標とします。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.5

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	優れた音楽や芸術に触れる機会の提供(回)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		2	2	2	2	2	4	100.0%
進捗状況	4	3	3	3	2	2		
指標2	伝統文化の体験学習事業の参加者数(人)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5	111.1%
進捗状況	5,081	6,663	6,509	6,101	6,293	6,991		
指標3								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 優れた音楽・芸術に触れる機会の提供		
R1事業計画	R1事業成果	
○「こころの劇場」招待公演の開催 ○文化芸術による子どもの育成事業 巡回・派遣公演 ○事業内容の検討	○「こころの劇場」招待公演の実施 ○文化芸術による子どもの育成事業巡回・派遣公演を16校で実施	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2 伝統文化の体験学習(再掲)		
R1事業計画	R1事業成果	
○地域の伝統・文化の体験と次世代への継承	○子ども大風合戦など, 地域の伝統文化・行事を学び, 体験できる機会を提供	
当初予算額	1,173千円	決算額 928千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	32,396 千円	H27	40,279 千円
H28	40,579 千円	H28	39,269 千円
H29	39,771 千円	H29	36,789 千円
H30	1,448 千円	H30	821 千円
R1	1,173 千円	R1	928 千円
合計	115,367 千円	合計	118,086 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○小学校36校,6年生を中心とする児童1,889名を招待する「こころの劇場(裸の王様)」を実施し,本物の舞台芸術に触れる機会を提供することができた。

○専門家の指導を直接受ける芸術家の派遣事業に市立小中学校15校,芸術家の巡回事業に1校が取り組み,音楽や舞踊などへの興味関心を高め,演奏や表現の技術の向上に資した。

○南区の大風合戦などの地域の伝統行事や,様々な文化芸術活動を体験することにより,子どもたちが伝統行事や文化芸術の素晴らしさを継承することの必要性を知ってもらう機会とした。

○自分が住む地域の歴史や伝統文化等を学んだり体験したりできる講座を実施することで,次世代を担う子どもたちが持つ郷土愛を育み,地域の伝統文化伝承の機会を提供することができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より,第4期実施計画に移行するため,この欄の記述はありません。中間評価の際に,新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・児童1,889名が招待された「こころの劇場」の開催運営には相当な経費が生じているものと思われます。一方で決算額が0千円ですが,この理由をご教示ください。  
 ⇒劇団招致の費用は,劇団四季による招待公演のためかかりませんでした。さらに,会場費も減免申請によりかかりませんでしたので,決算額が0千円となっています。なお,移動の交通費は学校負担となっています。



●R1施策評価

3期進捗平均
3.5

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	中学校の体力テストの各項目で全国平均値を上回った項目の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		51.0	52.0	47.0	54.0	55.0	4	83.9%
進捗状況	52.1	47.9	47.9	56.3	64.6	54.2		
指標2	運動習慣等調査中2女子の「運動が好きですか」の肯定的評価の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		80.5	82.0	82.0	82.0	85.0	3	100.6%
進捗状況	79.2	77.6	77.8	78.1	79.8	80.3		
指標3	運動習慣等調査中2女子の「運動が得意ですか」の肯定的評価の割合(%)						R1評価	
停止	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		58.0	59.0	-	-	-		
進捗状況	56.7	55.8	-	-	-	-		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1「体力向上ジャンプアップ」推進事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○「体力向上ジャンプアップ」を小・中学校毎に集約, 情報提供	○「体力向上ジャンプアップ」を小・中学校毎に集約し, 各校へ配付及び研修会でのよい取組の紹介	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2「体力向上・運動大好きプロジェクト」		
R1事業計画	R1事業成果	
○体力向上指導者養成研修へ3名派遣 ○伝達講習会の実施(小学校幼稚園2回, 中学校1回) ○「学校体育のあしあと」の編集, CD-ROM化, 市立学校へ配付	○体力向上指導者養成研修へ3名派遣 ○伝達講習会の実施(小学校幼稚園2回, 中学校2回) ○「学校体育のあしあと」の編集, CD-ROM化, 市立学校へ配付	
当初予算額	201千円	決算額 171千円
構成事業3「中学校部活動エキスパート・サポート事業」		
○運動部エキスパートとして50名以上を派遣 ○運動部サポーターとして40名以上を派遣	○運動部における競技力及び体力の向上を図るため, 部活動エキスパート58名, サポーター47名派遣	
当初予算額	4,452千円	決算額 3,895千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6「地域と学校パートナーシップ事業【再掲】」		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	4,681 千円	H27	4,511 千円
H28	4,675 千円	H28	4,376 千円
H29	4,707 千円	H29	4,492 千円
H30	4,594 千円	H30	4,619 千円
R1	4,653 千円	R1	4,066 千円
合 計	23,310 千円	合 計	22,064 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○体力向上ジャンプアップを全学校が作成し、課題の解決に向けて取り組んだ。まとめを文書で配付し、各校に共有を図ることができた。

○体育・保健体育指導力向上研修に3名の受講者を派遣し、授業の改善や新学習指導要領の考えに基づいた教材の工夫等を研修した。それについて、小学校幼稚園の体育関係教員116名と中学校体育教員に伝達し、それをさらに各校園内で伝達を進めた。

○柔道の安全指導について、専門としている教師から伝達講習を実施し、好評を得た。それを各校の指導に役立てた。

○「学校体育のあしあと」を作成し、全学校園に配付し、体育、保健体育授業に生かせるようにした。また、新潟市のサイトにも掲載し市民も見られるようにし、保健体育指導について広報を進めた。

○「新潟市立中学校部活動ガイドライン」を各校が遵守し、活動時間を調整して減らしたり、エキスパートやサポーターなどの外部指導員を活用したりすることで、担当者の負担軽減や活動の質の向上につながり、部活動の運営について改善がより一層進んだ。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・体力づくり推進の指標2と3において、中2「女子」だけが対象となるのはなぜでしょうか。肥満傾向児童(P23)の割合が目標よりも過多とのことです。これらにおいて性別で偏りがあるということでしょうか。運動嫌いの男子生徒も中にはいると思います。自分のペースで好みの活動ができる機会を作り、男女問わず多くの子どもに運動好きになってほしいと思います。  
⇒男女問わず多くの子どもに運動好きになってほしいことは、教育委員会も同じ考えです。中学2年生女子を指標にした理由は、次の2点です。①中学2年生対象の「体力・運動能力、運動習慣等調査」が全国規模で実施されていることから、その学年を視点に新潟市と全国との状況を比較できること。②中学2年生女子は、体力が伸び悩む時期であり、運動嫌いが生まれやすくなっていること。このことから指標を中学2年生女子とし、その結果から全児童生徒の実態を考えるきっかけとしてきました。第4期実施計画では、委員のご意見のように、女子にこだわらず、指標を「全国運動習慣等調査で「運動が好きですか」に対して肯定的な回答をした生徒(中2)の割合」としました。

・指標1、2の体力テスト・運動習慣調査について、肥満傾向や虫歯の有無と児童・生徒の家庭の経済的階層には相関関係がありますか(そのようなデータが存在するとして)?もし相関関係があるとすれば、これは学校教育だけの問題ではなく、福祉関連部局との共通の課題ということになります。そうすると関連部局間の連携が重要ということになると思われませんが、新潟市では、そのような関連部局間でデータや情報を共有するなどの連携は行われていますか。  
⇒肥満傾向や虫歯の有無と、児童生徒の経済的状況の関係性を照合した調査は実施していませんので、相関関係については承知していません。しかし、ご意見のとおり共通課題に対しての関連部局間の連携は重要であると認識しています。このため、教育ビジョンほか、新・すこやか未来アクションプラン、生涯歯科保健計画などにも位置付け、施策を展開しています。データや情報の共有については、こども未来部や保健衛生部などの関係部局とは、保育園保健統計や学校保健統計などを共有し、本市における児童や生徒の肥満の傾向、生活習慣病予防の対策について情報共有を図っているほか、う歯についても、有無の割合や処置状況、予防対策の実施状況を共有し、相互間で連携を図っています。

●R1施策評価

3期進捗平均
2.8

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	肥満傾向の児童生徒の割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		6.44	6.07	5.69	5.32	5.30	1	95.6%
進捗状況	6.82	6.68	6.92	6.91	7.01	7.32		
指標2	中学1年生一人平均う歯(むし歯)数(本)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		0.51	0.46	0.41	0.36	0.30	1	102.6%
進捗状況	0.56	0.53	0.51	0.44	0.39	0.38		
指標3	健康診断の確実な実施(回)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		2	2	2	2	2	4	100.0%
進捗状況	2	2	2	2	2	2		
指標4	研修会の実施(回)						R1評価	
指標目標		6	6	7	7	7	5	100.0%
進捗状況	6	6	6	9	9	9		
指標5							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 児童生徒の生活習慣病予防対策事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○パンフレットを作成し, 健康教育に活用 ○小4, 中1の希望者に血液検査などの健診を実施 ○健診結果説明会の開催 ○健康相談会の実施	○6月にパンフレットを作成し, 健康教育に活用 ○小4(1,102名), 中1(784名)の希望者に血液検査などの健診を実施	
当初予算額	7,041 千円	決算額 8,081 千円
構成事業2 児童生徒のむし歯・歯周疾患予防対策事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○「むし歯予防教室」, 「歯肉炎予防教室」の開催 ○フッ化物洗口の実施	○「むし歯予防教室」, 「歯肉炎予防教室」の開催 ○フッ化物洗口の実施(幼稚園10園全円実施済100%・小学校106校中105校実施済99.1%・中学校57校中8校実施済14.0%)	
当初予算額	11,745 千円	決算額 10,094 千円
構成事業3 各種健康診断事業		
○就学時健康診断 ○定期健康診断	○就学時健康診断の対象者6,443名(R1/10/1現在)6,412名実施 ○定期健康診断の実施	
当初予算額	193,039 千円	決算額 188,609 千円
構成事業4 健康教育に関する研修の充実		
R1事業計画	R1事業成果	
○保健主事研修 ○養護教諭研修(2回) ○保健の授業づくり ○性に関する教育研修会 ○学校におけるアレルギー疾患への対応研修会 ○学校保健研修会 ○プールの安全衛生研修会 ○がん教育研修	○保健主事研修 ○養護教諭研修(2回) ○保健の授業づくり ○性に関する教育研修会 ○学校におけるアレルギー疾患への対応研修会 ○学校保健研修会 ○プールの安全衛生研修会 ○がん教育研修	
当初予算額	2,010 千円	決算額 1,794 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	224,064 千円	H27	213,091 千円
H28	219,969 千円	H28	210,704 千円
H29	221,007 千円	H29	214,399 千円
H30	217,100 千円	H30	209,322 千円
R1	213,835 千円	R1	208,578 千円
合 計	1,095,975 千円	合 計	1,056,094 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

◎児童生徒の生活習慣病予防対策事業については、生活習慣病予防パンフレットを小学校4年生及び中学校1年生の保護者に6月に配布し、各学校で指導するとともに、夏休み期間を利用して、小学校4年生と中学校1年生の希望者に生活習慣病健診を実施した。生活習慣病健診は小学校4年生1,102人、中学校1年生784人、計1,886人が受診した。受診率は14.6%で、昨年度に比べ約2%の増となった。

◎児童生徒のむし歯・歯周疾患予防対策事業については、むし歯予防教室や歯肉炎予防教室を行う巡回歯科指導を実施するための準備を行った。小学校104校、中学校22校、中等教育学校0校、特別支援学校2校、計128校で実施し、歯科保健教育に関する意識の向上が持続していると考えている。フッ化物洗口については、教職員及び保護者説明会、希望調査、洗口練習とステップを踏み、丁寧に説明することで、フッ化物洗口に関する正しい知識を周知し、十分な理解を得ながら、小学校13校において取組を開始したが、3月に実施開始を予定していた1校については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施には至らなかった。

◎各種健康診断事業については、学校保健安全法に基づく定期健康診断及び精密検査を予定どおり実施し、疾病の早期発見や児童生徒の健康管理や指導に努めるとともに、小学校就学予定者に対する就学前健康診断を円滑に実施できる準備を整えた。また、運動器の機能に関わる検査については、新潟大学整形外科教授や市内の整形外科医を中心とした検討委員会において助言をいただきながら進めており、着実に実施することができた。

◎健康教育に関する研修の充実については、アレルギー疾患への対応、感染症、生活習慣病、喫煙や飲酒、薬物乱用、いじめや不登校、虐待など多岐にわたる健康課題の解決に向け、養護教諭の専門的な資質や技量の向上のため研修を実施することで、的確な対応、適切な指導への技術の向上に資することができた。また、推進校3校において「がん教育総合支援事業」を実施し、次年度以降の実施校拡大へ向けての取組につなげられた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
3.2

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	児童生徒の朝食欠食率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	1	88.2%
進捗状況	1.4	1.4	1.5	1.6	1.7	1.9		
指標2	給食の残食量の減少(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		3.20	3.15	3.10	3.05	3.00	5	114.8%
進捗状況	2.80	2.70	3.30	4.20	2.70	2.30		
指標3	スクールランチ利用率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		68.7	68.7	69.2	69.6	70.0	3	95.1%
進捗状況	68.7	69.3	68.9	68.4	67.4	64.1		
指標4	地場農林水産物の使用率(%)						R1評価	
指標目標		15.8	15.8	15.8	15.9	16.0	4	98.7%
進捗状況	15.8	16.7	16.6	16.0	15.6	15.4		
指標5	おはよう朝ごはん料理講習会実施か所数(か所)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		36	37	38	39	40	3	106.1%
進捗状況	34	39	39	38	33	35		
指標6							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1「食に関する指導」推進事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○食育指導者の派遣	○研究推進校の指定(4校, R1-2)	○食育指導者の派遣	○研究推進校の指定(4校, R1-2)
○栄養教諭等研修会の開催	○食に関する指導研修会の実施	○栄養教諭等研修会の開催	○食に関する指導研修会の実施
当初予算額	351千円	決算額	250千円
構成事業2「学校と家庭との連携強化事業」			
R1事業計画		R1事業成果	
○食育ミニフォーラムの開催(11月・12月)	○親子料理教室の実施(各学校)	○食育ミニフォーラムの開催(11月・12月)	○親子料理教室の実施(各学校)
○給食・学校だよりの発行(各学校)	○保護者対象の懇談会の開催	○給食・学校だよりの発行(各学校)	○保護者対象の懇談会の開催(各学校)
○保護者対象の懇談会の開催			
当初予算額	32千円	決算額	30千円
構成事業3「スクールランチ運営事業」			
○食育指導者派遣	○試食会の開催	○食育指導者派遣	○試食会の開催
○リクエスト及び募集献立の実施	○スクールランチ運営委員会・食育推進部会	○リクエスト及び募集献立の実施	○スクールランチ運営委員会・食育推進部会
当初予算額	872千円	決算額	479千円
構成事業4「学校給食の充実事業」			
R1事業計画		R1事業成果	
○地産地消の推進	○完全米飯給食の実施	○地産地消の推進	○完全米飯給食の実施
当初予算額	0千円	決算額	0千円
構成事業5「家庭教育振興事業(おはよう朝ごはん料理講習会)」			
R1事業計画		R1事業成果	
○朝ごはん料理講習会の実施		○朝ごはん料理講習会の実施(35か所, 参加者1,310名)	
当初予算額	308千円	決算額	394千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円



● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	2,365 千円	H27	1,606 千円
H28	2,228 千円	H28	1,111 千円
H29	2,287 千円	H29	1,504 千円
H30	1,702 千円	H30	1,172 千円
R1	1,563 千円	R1	1,153 千円
合 計	10,145 千円	合 計	6,546 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○「食に関する指導」推進事業については、学校の要請に応じて食育指導者を派遣したり、各校の給食主任を対象とした、研究指定校のこれまでの取組について発表を行うなど、学校における食育の推進を図った。

○学校と家庭との連携・協力事業については、11月に黒崎中学校で、12月に光晴中学校で食育ミニフォーラムを保護者や地域とともに開催し、食育効果の高い学習機会とすることができた。また、給食だよりや学校だよりの発行等を通じて家庭との連携を図ったほか、研究指定校については、2月の市学校給食会の理事幹事会において研究成果を発表し、他の学校と成果を共有することができた。

○中学校スクールランチ運営事業については、食育指導者派遣や試食会の開催を通じ、食の大切さについて理解を深めてもらうことができた。また、11月に「リクエスト献立」を、2月に生徒が考えた献立を給食にする「募集献立」を実施し、食に対する生徒の関心やスクールランチへの理解を深める取組を実施した。スクールランチ運営委員会では、これらの取組を通じて得られた生徒の提案や意見も踏まえ、運営のさらなる改善につなげた。

○親子で参加できる「おはよう朝ごはん料理講習会」は、健やかな子どもの成長に必要不可欠となる生活習慣や食生活について学べる機会としてだけでなく、地域の人たちの交流、地域と学校の交流にも寄与できる内容であった。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	継続支援終了者(延べ人数)→H30～継続支援終了者の割合						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		22	32	42	20	35	2	43.8%
進捗状況	12	36	42	56	64	28		
指標2	若者支援者養成講座修了者(延べ人数)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		101	101	191	231	231	4	100.0%
進捗状況	71	131	191	191	227	227		
指標3	中央育成活動回数(回)→H29～中央育成活動及び地域との合同育成活動回数(回)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		184	368	612	828	1,044	5	121.7%
進捗状況	171	275	515	759	969	1,179		
指標4	わたしの主張大会参加校(校数)→H29～わたしの主張大会参加団体数(団体)						R1評価	
指標目標		19	21	20	21	23	5	104.2%
進捗状況	17	18	17	20	24	25		
指標5	子ども向け体験活動事業参加者数(人)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		21,300	21,300	21,300	21,300	21,300	4	113.1%
進捗状況	21,011	20,516	20,365	19,670	18,782	21,234		
指標6	青少年の居場所設置か所数(か所)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		19	19	19	19	19	4	100.0%
進捗状況	19	18	19	19	19	19		
指標7							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 若者支援事業	
R1事業計画	R1事業成果
○若者支援センター事業 ・相談事業 ・若者の社会参加及び自立支援事業 ・居場所の運営	○相談事業は新規受付数63件, 面談の件数487件 ○自立支援事業を開催するとともに居場所にユースアドバイザーを配置し, 若者の自立を支援
当初予算額 5,688 千円	決算額 5,292 千円
構成事業2 非行防止対策事業	
R1事業計画	R1事業成果
○街頭育成活動 ○社会環境浄化活動 ○非行・被害防止キャンペーン	○青少年育成員による声掛けなどの巡回を210回実施 ○青少年を取り巻く社会環境の実態調査を関係団体等146名の協力を得て実施 ○街頭で関係団体等160名による万引防止の啓発を実施
当初予算額 3,228 千円	決算額 2,839 千円
構成事業3 青少年健全育成事業	
○青少年関係団体の育成及び活動への支援 ○わたしの主張大会開催	○関係団体へ研修会の実施(参加者83名)や情報提供。 ○わたしの主張大会開催(市内15中学校・11育成協から 1,430編の応募)
当初予算額 2,718 千円	決算額 2,718 千円
構成事業4 子ども体験活動・ボランティア活動推進事業(再掲)	
R1事業計画	R1事業成果
○土日や長期休業期間に集団活動や様々な体験活動事業の実施	○ものづくりや自然体験, 地域と連携してのボランティア活動など, 様々な子ども対象事業を実施
当初予算額 1,983 千円	決算額 1,434 千円
構成事業5 青少年の居場所づくり事業	
R1事業計画	R1事業成果
○公民館の講座室またはスペースを「子どもの居場所」として開放 ○長期休業中などの学習室の開放	○青少年の居場所19館で実施 ○長期休業中等で学習室の開放
当初予算額 186 千円	決算額 59 千円
構成事業6	
当初予算額 千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	21,243 千円	H27	18,826 千円
H28	18,629 千円	H28	16,528 千円
H29	17,318 千円	H29	15,393 千円
H30	15,098 千円	H30	13,805 千円
R1	13,803 千円	R1	12,342 千円
合 計	86,091 千円	合 計	76,894 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○ 青少年への相談や自立に向けた事業においては、新潟市若者支援協議会全体会を5月に開催し、関係機関の連携強化を図った。新潟市若者支援センター「オール」の令和元年度の面接相談実績の述べ件数は487件であった。若者の複雑・困難な問題解決、リファー（外部機関へのつなぎ）を行うとともに、居場所ではユースアドバイザーが利用者に寄り添うことで若者の成長や自立につなげた。新規の継続支援件数は昨年度より増加したが、困難な課題をもつ継続支援対象者が多く、次年度へ継続して支援を必要とする若者が多かったために、継続支援終了者については目標を達成できなかった。また、高校生活に困難をかかえている生徒への支援を行う「いいがた若者自立応援ネット」では教職員、PTAとの研修会を設け理解を深めるとともに、相談及び定例会を確実に運営し、社会的自立・職業的自立を図った。

○ 青少年の健全育成・非行防止について34名の青少年育成員が、繁華街を中心に211回の街頭育成活動を実施した。また、学警連・各地区育成協との合同育成活動や一般市民を対象とした「一日育成員の日」を実施し、市民への啓発と各地域における見守り活動を充実させた。集約した情報を各地区学警連や中高生生徒指導主事会に提供する等、各機関との連携を推進した。青少年育成員に対して、リーダー会議と研修会をそれぞれ3回ずつ実施し、資質の向上及び情報共有を図った。

○ 7月の非行・被害防止キャンペーンでは、「万引きの防止」「インターネットの正しい利用」の標語・ポスターを募集し、市内小中学生から729点の応募があった。7月7日（日）の非行・被害街頭キャンペーンには、関係団体の大人・子ども合わせて約160人が参加し、新潟駅や万代シティ周辺で啓発うちわを配布する等、非行・被害防止に向けた意識を高め、市民に向けた啓発を充実させた。

○ わたしの主張新潟市地区大会を開催し、15中学校、11地区育成協議会から1,430名の応募があり、その中から12名の発表を行った。地区大会では、中学生は自己の成長や地域・社会へ貢献する意欲や実践力を高め、市民は中学生への理解や関心を深めることとなり、青少年の健全育成の機運を高めることに寄与した。

○ 7月に実施した社会環境実態調査では、調査員延べ146名が市内全域の店舗・コンビニなどを回り、有害図書類等の調査を行った。この結果を基に、有害環境の把握・改善に努めた。

○ 子ども対象の体験講座や高齢者も参加可能な学習講座など、多種多様な公民館講座を学校を会場に実施することができた。公民館・地域・学校が連携することで、地域住民が学校に足を運ぶ機会や地域住民と子どもたちの交流の機会を創出することができた。

○ 地域団体・学校等と連携しながら、少子高齢化社会における様々な課題や、各地域それぞれがもつ地域課題などへ理解を深める講座・イベント等を実施。地域住民自らが、地域課題を探り、解決できるよう支援した。

○ ものづくりや自然体験、スポーツやボランティア活動など様々な子ども対象事業を実施することで、参加者自身の成長の糧となるほか、異学校・異学年交流や、地域の大人たちとの交流が生まれるなど、地域づくりにもつながる一面もあった。

○ 子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所として、公民館に学習室やフリースペースを設置。放課後や休日、夏休みなどの長期休業期間中など、行き場のない子どもたちの居場所としても利用されている。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標1の継続支援終了者の割合でR1評価が2となっていますが、次ページにも記載があるように、継続支援が必要な若者が次年度へ継続して支援が行えるほうが重要と考えます。終了者の割合ではなく、別の指標があってもよいのではないのでしょうか。  
 ⇒継続支援終了者の数とは、相談受付を通り、個別支援プログラムの支援を受けている若者のサポートが終了した人の数です。つまりは、個別支援プログラムの支援を通じ、若者自身が主訴としてもつ課題の改善が図られた人の数です。また、継続支援者の総数（分母）は前年度以前からの継続支援者数と新規の継続支援者数を合算したものです。このことから、委員がご指摘の、年度を超えて引き続き支援をする取組が改善の成果として現れる指標になると考えております新規の継続支援者に加え、前年度以前からの継続支援者に対しても引き続き支援を行い、若者の「課題の改善」が図られた結果として、「継続支援終了者」の割合を指標としております。今後も、一人一人に寄り添い、若者の成長を継続して見守りながら、支援を行っていきます。

●R1施策評価

3期進捗平均
5.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	伝統文化の体験学習事業の参加者数(人)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5	111.1%
進捗状況	5,081	6,663	6,509	6,101	6,293	6,991		
指標2							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標3							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標4							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標5							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標6							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標7							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標8							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 伝統文化の体験学習			
R1事業計画		R1事業成果	
○地域の伝統・文化の体験と次世代への継承		○子ども大風合戦など、地域の伝統文化・行事を学び、体験できる機会を提供	
当初予算額	1,173 千円	決算額	928 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	1,725 千円	H27	1,678 千円
H28	1,798 千円	H28	1,266 千円
H29	1,803 千円	H29	1,180 千円
H30	1,448 千円	H30	821 千円
R1	1,173 千円	R1	928 千円
合 計	7,947 千円	合 計	5,873 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○自分の住む地域の歴史や伝統等の学習・体験の機会として56講座を開催したことで、次世代を担う子どもたちの郷土愛を育み、地域の伝統文化伝承の機会を提供することができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	新潟市生活・学習意識調査(小6)で「外国語活動の勉強が好き」と回答した児童の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		75.0	75.0	82.0	80.0	75.0	4	96.8%
進捗状況	74.5	73.8	81.1	78.2	74.0	71.6		
指標2	新潟市生活・学習意識調査(中3)で「外国語活動の勉強が好き」と回答した生徒の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		56.5	56.5	57.0	61.0	60.0	4	102.9%
進捗状況	56.0	54.6	56.7	60.6	59.1	60.8		
指標3							R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4							R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5							R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 外国語指導助手(ALT)配置事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○市立全小・中・高・中等教育学校へのALTの配置 ○ALTの資質向上に向け定例研修会を実施	○市立全小・中・高・中等教育学校へALTの配置 ○ALTの資質向上に向け定例研修会を実施 ○小学校, 中学校のTT授業を参観し, 協議会を実施 ○市内中高生を対象としたイングリッシュセミナーの運営(市立2校においても実施)	
当初予算額	49,263 千円	決算額 43,839 千円
構成事業2 国際交流推進事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○受入: ロシア ハバロフスク市・ピロビジャン市児童生徒15名・引率者4名 ○派遣: 中国ハルビン市(児童生徒10名・引率者3名), 韓国ウルサン広域市(児童生徒10名・引率者3名)	○ロシア ハバロフスク市・ピロビジャン市から児童15名, 引率者4名を受入 ○中国ハルビン市・韓国ウルサン広域市へ各児童生徒10名, 引率者各3名を派遣	
当初予算額	2,629 千円	決算額 2,579 千円
構成事業3 外国語教育支援事業【新規】		
○小中高連携をテーマにした授業改善の研究と公開授業の実施 ○生徒, 教員の英語力向上を目指した外部試験受験補助 ○外国語教育マネジメント研修の実施	○英語指導力向上に向けての研修協力校の公開授業や外国語教育マネジメント研修の実施 ○生徒・教員の英語力向上に向けた外部試験受験補助 ○大学教授等外部専門機関を招聘しての研修会の実施	
当初予算額	1,371 千円	決算額 1,371 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

## ● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	51,712 千円	H27	72,736 千円
H28	65,240 千円	H28	63,893 千円
H29	49,558 千円	H29	49,011 千円
H30	48,765 千円	H30	47,244 千円
R1	53,263 千円	R1	47,789 千円
合 計	268,538 千円	合 計	280,673 千円

注:再掲事業分を含む

## ● R1年度の取組に対する評価

○国際交流受入事業では、7月20日～27日にロシアのハバロフスク市から10名、ビロビジャン市から5名の児童生徒を受け入れた。国際子どもフォーラム、学校訪問やホームステイ等の交流を通して、本市児童生徒のロシアに対する理解が深まった。

○国際交流派遣事業では、10月1日～5日に韓国ウルサン広域市へ10名の児童生徒を、10月28日～11月1日に中国ハルビン市へ10名の児童生徒を派遣した。今年度より両市ともにホームステイの時間を確保したことにより、例年以上に両国に対する理解が深まった。

○ALT研修会において、具体的な事例を挙げて課題の共有と改善案の検討を行い、授業改善を推進している。

○外国語教育マネジメント通信を通じて、小・中・高等学校における新学習指導要領の全面实施に向けた情報提供を毎週行ったり、好事例を紹介したりし、追実践を促した。それにより、各校の外国語担当に必要な情報を提供することができ、各校の外国語教育の推進に寄与することができた。

○小中高の連携を高め、好事例の共有と実践を推進するため、小中においては研修協力校を中学校区で指定したことにより、課題の共有と改善案の検討が円滑に行われている。高校段階では、中等教育学校後期課程を新たに研修協力校として、統合的な言語活動を通して発信力の向上を目指す取組を推進することにより、思考力・判断力・表現力の育成を図る授業改善を推進している。

○令和2年度の小学校5、6年生における外国語の教科化に向けて、採択された教科書に基づいた指導と評価の一体化に係る総括的評価の計画(新潟市教育委員会案)を示すことができた。

## ● 推進委員からの意見・要望等

・指標1、2の「外国語活動の勉強が好き」と回答する児童生徒について、指標目標の数値を下げた理由は何でしょうか。  
⇒学習指導要領改訂に伴い、小学校では3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科が開始されます。中学校でも新学習指導要領に基づいた、教育活動が行われる移行期にあたります。このことから、教師、児童生徒共に、不安が大きい中での取り組みになります。不安解消への取組を最大限に行っていますが、学習内容の難易度や量が増加していることを鑑み、指標の数値を下げて設定しました。また、全国の実態調査において、平均が小学校71.4%、中学校50.3%(文部科学省)と数値的には、全国より上回っていることから、より外国語を通じたコミュニケーション能力の向上にも、力を入れていきたいと考えています。

・5つ目の○「小中高の連携を高め、課題の共有と改善案の検討がなされている。」について、可能でしたら、具体的取組を教えてください。

⇒文部科学省より「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の委託を受け、同一中学校区の小中学校で同じ視点(主に評価)による実践発表会(研修・公開授業・講義など)を行いました。市内外を含む希望者も参加して、これからの外国語教育において各校種ごとに何を意識し、何を一貫して取り組んだら良いのかを活発に議論しました。また、会には大学関係者、行政担当者、学校管理職、実践教諭等、様々な立場の方が参加しました。

・最下段の○「指導と評価の一体化に係る総括的評価の計画を示すことができた。」について、教育委員会から総括的評価が示されたとのことですが、その内容に対する小学校での具体的取組の進捗状況はどうでしょうか。

⇒4月以降、各学校で積極的に活用し、自校化して取り組んでいる様子がみられます。しかし、コロナ禍の影響により、指導計画や総括的評価場面、時期の変更等、様々な見直しが必要になっています。現在、見直し案例等を提示しながら総括的評価のポイントや具体的な実践例の紹介をしていきます。

・構成事業2については、ロシアからの児童生徒を受け入れ、また中国・韓国に児童・生徒を派遣して交流しており、ぜひ今後も継続してほしいと思います。これに関わって、構成事業1のALTの配置についてですが、新潟市内にはどの程度、ロシア語、中国語、韓国語のALTが配置されていますか。

⇒現在、外国語の授業における言語選択は、全校英語となっているため、まず英語のALTを優先的に配置できるよう全力で取り組んでいます。今後、学校から要望等に応じて、検討をしていきます。現在のところ、ロシア語、中国語、韓国語のALTの配置はありません。なお、明鏡高校では、「社会人向け講座」として、ロシア語、中国語、韓国語を開設し、高校生でも参加できるようにしています。また、その受講は、卒業単位にも認定できるようにしています。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.7

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	コンピュータ等(タブレットPCを含む)の情報通信技術を活用して、子どもが学び合う協働学習や課題解決型の学習指導を実施した小学校教職員の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		66.6	66.6	70.0	90.0	90.0	5	107.1%
進捗状況	65.7	60.3	98.0	100.0	92.5	99.1		
指標2	コンピュータ等(タブレットPCを含む)の情報通信技術を活用して、子どもが学び合う協働学習や課題解決型の学習指導を実施した中学校教職員の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		51.0	51.0	55.0	55.0	55.0	5	103.8%
進捗状況	50.0	50.0	97.0	98.2	94.7	98.3		
指標3	「アクティブ・ラーニング」の実施した学校の割合(%)						R1評価	
III型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	92.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1「タブレット等ICT活用研修(教職員研修)【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○ICT機器を授業で活用するための研修 ○教職員の指導スキルの向上研修	○ICT機器を授業で活用するための研修 ○教職員の指導スキルの向上研修	
○ICT機器導入校への説明会 ○教材の更新	○ICT機器導入校への説明会 ○教材の更新	
当初予算額	0千円	決算額
		0千円
構成事業2「アクティブ・ラーニング」による教育活動の推進(再掲)【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○年間2回実施される研究主任会での支援 ○計画訪問, 要請訪問での具体的支援	○年間2回実施の研究主任会での支援 ○計画訪問, 要請訪問での指導と支援	
当初予算額	0千円	決算額
		0千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額
		千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額
		千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額
		千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額
		千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	0 千円	H27	0 千円
H28	0 千円	H28	0 千円
H29	0 千円	H29	0 千円
H30	0 千円	H30	0 千円
R1	0 千円	R1	0 千円
合 計	0 千円	合 計	0 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○教職員の指導スキルの向上を図る研修会を5月14日～16日の3日間実施した。ICT機器の更新等、学習環境の整備について、関係課等と連携して取り組み、ICT機器の操作方法を習得だけでなく、ICTを活用した協働型・双方向型の授業が実践したくなるよう、教職員を意識付けすることができた。

○上半期は、学校訪問を通じて主体的・対話的で深い学びのある授業を推進するよう働き掛けてきた。その結果、教職員一人一人に「アクティブ・ラーニング」を進めることで社会の変化や課題に適切に対応できる力を育むことができるという意識を高めることができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標3の「アクティブ・ラーニングの実施」については、高い数値となっています。教職員や生徒による内容の評価に変更してはどうでしょうか。

⇒今後、一人1台タブレット端末の導入が行われ、児童生徒の学びのコミュニケーションツールとしての活用が図られ、プログラミング的思考の育成を目指すこととなります。そのため、この導入期においては、現場の教職員がICT機器を抵抗なく使えるようにすることをねらい、環境整備と教職員の技能の習得、意識改革を中心とした指標目標を設定します。第4期実施計画からは、教職員の「学んだことを使ってみよう」といった意識調査が含まれています。

・令和元年度は、ICT機器を授業で活用する研修や協働型・双方向性型の指導スキル研修の内容は充実して進捗5と高評価でしたが、実際、学校でのICT活用授業の様子は、広がりに欠け、ほんの一部の職員のみです。いよいよGiGAスクール構想での全児童生徒1人1台タブレットが、新潟市でも令和2年度末に配布されると伺っております。今後のICT職員研修は、学校から数名参加ではなく、動画配信等でも良いですので、全員が研修を受講できる工夫をお願いしたいです。中学校では、新しい教科書、三観点評価、生徒用タブレット配布、校務支援ソフト導入など、令和3年度への準備不足、研修不足が懸念されます。

⇒ICT機器の研修については、令和2年8月から12月までの間に、全校が参加する研修を4回開催します。また、各研修会をオンラインで実施することにより、3密を防ぐとともに、各校で複数の教職員が研修できるようにします。これらの研修会を通して、ICT機器の使い方だけでなく、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力が効果的に育成されることを教職員が実感できるようにし、1月に1人1台端末が導入された際に、すべての教職員が不安なくICT機器を活用できるように、計画的に進めていきます。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	ESDを自校の教育活動に位置付けている学校の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	20.0	50.0	80.0	85.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	-	42.5	72.0	85.0	91.0	96.0		
指標2	教育委員会から、各校に向けて環境教育に関する実践的な取組を広報する(回)						R1評価	
III型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	1	1	1	1	1	4	100.0%
進捗状況	1	1	1	1	1	1		
指標3	環境教育事業の実施						R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	実施	実施	実施	実施	実施		
進捗状況	-	実施	実施	実施	実施	実施		
指標4	太陽光発電及び蓄電池設備の設置校(累計)						R1評価	
指標目標	/	11	16	19	20	20	4	100.0%
進捗状況	7	12	18	20	20	20		
指標5	停電時、非常電源としての実地体験(回)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	5	5	5	5	5	4	100.0%
進捗状況	-	5	5	5	5	5		
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標	/							
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標	/							
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標	/							
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度、中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 持続可能な開発のための教育(ESD)推進事業(再掲)【新規】	
R1事業計画	R1事業成果
○持続可能な開発のための教育の啓発 ○学校訪問等を通じた指導・助言	○持続可能な開発のための教育(ESD)の啓発を広報により実施 ○ESDを教育課程へ位置づけている学校が小学校で99%、中学校93%と確実に増えている。
当初予算額 0千円	決算額 0千円
構成事業2 環境学習の充実	
R1事業計画	R1事業成果
○環境学習への支援 ○環境学習発表会	○環境とひとにやさしい敷地内緑化推進支援事業を8校において実施 ○児童生徒が緑に親しみふれ合い、自然の大切さや環境の保護に取り組もうとする思いや態度が育っている。
当初予算額 1,200千円	決算額 1,135千円
構成事業3 環境教育事業	
○地域住民向け環境教育事業 ○子ども向け環境教育事業の実施	○子どもが参加できる、身近な地域の環境美化や自然環境の学習機会を提供し、延べ912人が参加
当初予算額 168千円	決算額 148千円
構成事業4 学校施設エコスクール化推進事業	
R1事業計画	R1事業成果
○5校で施設の実地体験実施	○5校で施設の実地体験実施
当初予算額 0千円	決算額 0千円
構成事業5	
当初予算額 千円	決算額 千円
構成事業6	
当初予算額 千円	決算額 千円



● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	115,821 千円	H27	95,399 千円
H28	126,904 千円	H28	122,407 千円
H29	51,783 千円	H29	47,145 千円
H30	1,388 千円	H30	1,295 千円
R1	1,368 千円	R1	1,283 千円
合 計	297,264 千円	合 計	267,529 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○上半期は、学校訪問を通じて主体的・対話的で深い学びのある授業を推進するよう働き掛けてきた。その結果、「アクティブ・ラーニング」を進めることで、子どもに社会の変化や課題に適切に対応できる力を育むことができる、という意識を教職員一人一人にもたせることができた。また、ようやく、ESD(持続可能な開発のための教育)の概念が各教職員に浸透してきている。

○環境教育の一層の推進を図るため、小中学校に「地域の特色を活かした環境学習支援事業」の案内・募集を行い、希望校2校(早通小, 南浜中)指定校9校(岡方第二小, 東中野山小, 笹口小, 有明台小, 東曾野木小, 阿賀小, 小林小, 青山小, 巻南小)が事業を推進した。また、県が行っている水俣病発生地域間交流事業の依頼を受けて、2校(有明台小, 阿賀小)を推薦し、水俣市を中心とした現地学習を行った。さらに、今年度は、水俣市から新潟県内への受け入れも行った。その際の代表校2校(巻南小, 小林小)を推薦し、交流学習を行った。

○子どもたちが、緑豊かな環境の中で、自然とかかわり合う体験を通して学ぶことができるよう「環境と人にやさしい敷地内緑化推進支援事業」を案内・募集し、8校(濁川中, 山の下小, 桃山小, 関屋中, 早通小, 小合中, 矢代田小, 根岸小)が事業を推進した。

○太陽光発電及び蓄電池設備が設置されている施設での関係者の実地体験研修を実施し、設置設備の有効活用及び学習活動への活用を啓発した。(実施校:沼垂小, 荻川小, 光晴中, 新潟柳都中, 藤見中)

○子どもから大人まで、地域を対象に自然観察会やクリーン作戦などの環境美化活動などを実施することを通じ、身近な自然や環境を考える機会とした。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	日本語指導協力者の指導により、日常会話ができるようになった子どもの割合(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	4	94.4%
進捗状況	85.0	81.8	82.1	85.0	91.4	86.3		
指標2							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標3							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標4							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標5							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標6							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標7							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標8							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1	日本語指導協力者派遣事業 外国人児童生徒への支援体制の整備【新規】	
R1事業計画	R1事業成果	
○日本語指導協力者の派遣 ○母語が分かる支援者の派遣 ○協力者連絡会, 研修会の実施	○日本語指導協力員を, 延べ583回派遣 ○母語が分かる支援者を, 延べ268回派遣 ○日本語指導協力者連絡会2回(うち1回は, コロナ対策としてメール・書面でのやり取り), 研修会を1回実施	
当初予算額	2,400 千円	決算額 2,398 千円
構成事業2		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	1,429 千円	H27	2,042 千円
H28	2,142 千円	H28	2,095 千円
H29	2,142 千円	H29	2,107 千円
H30	2,114 千円	H30	2,108 千円
R1	2,400 千円	R1	2,398 千円
合 計	10,227 千円	合 計	10,750 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○各校から要請のあった児童生徒44名(33校)に対して、延べ33名の日本語指導協力者を派遣した。派遣回数、児童生徒の日本語能力の実態及び、予算から算出できる派遣可能な回数を最大限に考慮し、583回の派遣を行った。また、母語が分かる協力員の派遣も268回実施することができた。そのため、要望のあった学校・児童全てに派遣することができ、8割以上の児童生徒が日常会話ができるようになった。

○帰国・外国人児童生徒の増加による日本語指導協力者の不足を解消するため、新たに1名採用した。そうすることで、日本語指導協力者の1人あたりの仕事量の負担が減り、個に応じた指導がより丁寧になった。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
1.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値 ÷ 前年度進捗状況値 × 100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	各年度内に特別支援教育に関する公的研修を受講した教員(幼・小・中・高)(人)						R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
I型								
指標目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1	75.2%
進捗状況	1,500	1,616	1,585	1,749	1,460	1,098		
指標2								
指標目標								
進捗状況								
指標3								
指標目標								
進捗状況								
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
指標目標								
進捗状況								
指標6								
指標目標								
進捗状況								
指標7								
指標目標								
進捗状況								
指標8								
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 インクルーシブ教育システム構築の推進事業【新規】			
R1事業計画		R1事業成果	
○管理職研修, 合理的配慮セミナーを開催 ○特別支援学級の新設 ○必要に応じて特別支援教育支援員及び学校看護師を配置		○管理職研修1回, 合理的配慮セミナー3回の開催 ○特別支援学級9学級増設 ○学校看護師の配置, 基準に応じた特別支援教育支援委員の配置, 児童生徒の実態に応じた加配支援員の配置	
当初予算額	464,674 千円	決算額	420,544 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	324,598 千円	H27	456,801 千円
H28	377,487 千円	H28	425,797 千円
H29	405,454 千円	H29	462,193 千円
H30	497,199 千円	H30	469,965 千円
R1	464,674 千円	R1	420,544 千円
合計	2,069,412 千円	合計	2,235,300 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○特別支援教育管理職研修を1回実施。合理的配慮セミナーは3回実施した。昨年度より1回研修会が少ないので、総数としては少なくなっているが、全校体制で支援ニーズのある子どもへの「合理的配慮」のあり方について有意義な研修を行うことができた。

○支援員を配置基準に従って配置。学校看護師は、対象の児童4名に対して配置。支援ニーズに応じた人的な支援を充実することができた。

○明鏡高等学校の通級指導教室において、運営、指導・支援についての評価を行い、引き続き、より生徒への支援が充実するように努めることができた。

○特別支援学級の新増設、特別支援教育に係わる教職員の増加により、研修や支援員等のニーズが高まっている。働き方改革の視点から研修等を厳選してより効果的・効率的な事業運営が求められている。その中でコストパフォーマンスの高い事業を展開することができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

・「学校図  
集館を汪田

● 推進委員からの意見・要望等

・P40の1つ目の○「特別支援教育・・・」のところで、「昨年より1回研修会が少ない」とありますが、次年度以降もこの回数で行くのか教えてください。(決して増やしたほうが良いという意味ではありません。)  
⇒この回数で実施を考えています。今年度オンラインによる研修を実施する予定です。内容をより新潟市の課題や参加職員のニーズに応じたものにより、充実させていきます。

・特別支援教育に関する項目は、どれも大きな成果をあげています。この指標だけが評価1というのは、指標の設定が良くないと思います。次回は、別な指標を設定すると良いと思います。  
⇒ご指摘のとおり、第4期実施計画では、指標を参加者の理解度と、今後生かすことができるかという視点に変更しました。

・指標1の「特別支援教育に関する公的研修を受講した教員数」が大きく減少したことに関して、「働き方改革を進めることで研修参加者が減少せざるを得なかったことは理解できますし、また研修によって各教員がインクルーシブ教育の重要性を理解することも必要ですが、特別支援教育に関する研修を実施すること＝「子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進」としてしまいうことには無理があると思われます。これ以外にも他の指標を設定する必要があると思われます。例えば、各学級、各学校内で、どのようなニーズに対してどのような合理的配慮を実施した(あるいは実施できなかった)、特別支援教育に関わってICT機器をどれだけ充実させたか、通級指導をどれだけ充実させたか等々、より実効的な指標を設定する必要があると思われます。  
⇒参加者数だけを指標にしたのは、当初合理的配慮について広く理解させるためのものだったと捉えていますが、第4期実施計画では、指標を参加者の理解度と、今後生かすことができるかという視点に変更しました。特別支援教育の推進に向けて、研修の視点から実質的な高まりを目指します。

・「コストパフォーマンスの高い事業を展開することができた」と記述した「根拠」は何でしょうか。明確にお示し頂ければ幸いです。  
⇒働き方改革の観点から、研修内容を見直しました。特別支援学級の増加を受けて、総合教育センターの研修では、特別支援学級の担任の研修に特化し、通常の学級の担任に対しては削減しました。通常の学級の担任に対しては、学校全体での研修スタイルの方が効果的であると考え、出前の研修を行いました。なお、出前の研修については進捗状況の数値にカウントしていません。また、合理的配慮セミナーを4回から3回にしました。内容は、管理職向け、教務主任向け、希望制とし、新潟市の教育の重点として掲げた「特別支援学級の教育課程の管理」に焦点化して実施しました。結果として参加人数としては減ったものの、管理職向けに実施した研修内容を校長が校内で伝達したり、校内研修の指導内容として取り入れたりしました。加えて幼稚園長からは、その講師を園内の講師として呼ぶ計画を立てるなど、研修内容を活用する学校園が多くありました。なお、新年度の教育課程届をチェックすると、運用に不備がある学級が少なくなっていました。上記のように研修の場だけではなく、その後の学び続けようとする姿につながったこと、実際に適切な教育課程の管理をより進めたことについて、「コストパフォーマンスが高い事業を展開する」という表現で述べました。



●R1施策評価

3期進捗平均
5.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値 ÷ 前年度進捗状況値 × 100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1 合理的配慮のデータベース件数(累計)							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		45	60	75	90	100	5	141.0%
進捗状況	40	49	63	82	100	141		
指標2							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標3							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標4							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標5							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標6							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標7							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標8							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 特別支援教育サポートネットワーク事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○特別支援教育ボランティアの募集と配置 ○大学教員・福祉関係者を講師とした講座を開催		○サポートセンターによる479件の学校支援 ○合理的配慮の実態把握を実施し、合理的配慮データベースに41件の追加 ○ボランティア新規登録者を5名確保, 学校12校にのべ289回派遣	
当初予算額	705 千円	決算額	372 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	8,320 千円	H27	10,578 千円
H28	1,120 千円	H28	1,105 千円
H29	980 千円	H29	982 千円
H30	635 千円	H30	572 千円
R1	705 千円	R1	372 千円
合計	11,760 千円	合計	13,609 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○特別支援教育サポートセンターを核として、学校園、保護者の相談支援に当たった。実績は以下のとおりである。  
 【学校園からの支援依頼による訪問支援:460】【保護者との面談:339件】【電話相談:81件】【各種アセスメント:179回】【校内研修支援(講師派遣):6回】支援ニーズに応じた対応が行えた。

○特別支援教育サポートセンター、区教育支援センター、地区特別支援教育コーディネーター(発達通級指導教室担当者)を核として、サポートネットワークを構築し、多様な視点から小中学校の支援に努めた。特に、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対して、個別の指導計画、教育支援計画の作成・活用を通じて、課題と支援の方向、具体策を明らかにし、きめ細かい支援を継続して行えた。

○東特別支援学校においては、夏季休業中に新潟市障がい者夜間休日相談支援事業 夜間・休日コールセンター「らいとほうす」細井聡仁主任コーディネーターを講師とし、「強度行動障がい児・者の支援について」を演題に公開講座を行った。東特別支援学校職員の他、市内小中学校、特別支援学校教諭39名が参加した。専門性を広げることができた。

○西特別支援学校においては、新潟大学教育学部入山満恵子准教授を講師として、「ことばとコミュニケーションの発達とその支援-音声言語が出ていく子どもの事例も踏まえて」を演題に公開講座を行った。西特別支援学校職員の他、市内小中学校特別支援学校教諭25名が参加した。専門性を深めることができた。

○合理的配慮データベースの整備については、実態把握調査を終了し、データベース化を進めた。(41追加) ICT等を活用した支援が多くなってきた。

○特別支援教育ボランティアについては、ホームページ、チラシ等により募集を行い、配置を進めた。4月からの新規登録者は5名。すべてのニーズに対応することはできなかったが、依頼のあった12校にのべ17名のボランティアを289回派遣することができ児童生徒の教育活動を円滑に進める機会を増やすことができた。

○合理的配慮についての理解・啓発及びセンター的機能を発揮することが求められている特別支援学校の専門性向上の取組、サポートネットワークの核となる機関同士のつながりを促す事業を通して、特別支援教育のサポートのために構築しているネットワークをより活用しやすいように整えることができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・「合理的配慮データベース・合理的配慮についての理解・啓発及びセンター的機能」について教えてください。  
 ⇒配慮する困難さについて、各学校で行っている取組について調査を行い、同じような困難さについてのデータを蓄積しました。データから、教室内の物理的な配慮や個別の声掛け等を多く行っていることが分かりました。また、昨年度はICTを活用した支援が増えている等の傾向を踏まえ、教職員への指導に役立てることができました。平成15年3月に「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」において「特殊教育」から「特別支援教育」への転換が図られました。学校教育法74条にも規定されている「地域において特別支援教育を推進するうえで、小中学校などを積極的に支援していくシステム」がセンター的機能です。加えて、平成26年に障害者権利条約が批准され、その条約の2条「障害者が他の者との平等を基礎として、すべての人権及び基本的自由を享有し、又は、行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合について必要とされるもの」が「合理的配慮」とされています。上記のように特別支援学校は「地域において特別支援教育を推進する」役割を担っているため、「合理的配慮」の理解啓発についても推進役としての役割を担うこととなります。特別支援学校が上記の役割を果たすためには、その土台となる教職員の専門性の向上という「深まり」の面と、福祉等の関係機関との連携を通して直接的な支援を行ったり、支援のネットワークをつくり支援ニーズが発生したときにすぐに支援ができるように備えたりするという「広がり」の面を充実させる必要があります。「深まり」の面では研修会を、「広がり」の面については、関係機関が顔を合わせ、その役割や支援についての情報交換をする場を設定することを事業として実施しています。

・特別支援学校での公開講座に関して、3つ目と4つ目の○に「専門性」という文言が出てきますが、どういう専門性でしょうか。もう少し具体的に、何に関する専門性なのかをお示し頂きたいと思います。  
 ⇒最初の専門性については、「関係機関の役割や連携の仕方が分かり、コーディネーター業務についての『専門性』」のことを指します。また、次の専門性については、『ことば』についての最新で深い内容の話が聞くことができ、エビデンスに基づいた適切な支援が構想できるという『専門性』のことを指します。

●R1施策評価

3期進捗平均
5.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	入学支援ファイルの活用件数(年度ごとの数)						R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
Ⅲ型								
指標目標		300	350	310	350	400	5	100.9%
進捗状況	280	331	315	362	446	450		
指標2								
指標目標								
進捗状況								
指標3								
指標目標								
進捗状況								
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
指標目標								
進捗状況								
指標6								
指標目標								
進捗状況								
指標7								
指標目標								
進捗状況								
指標8								
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 早期からの就学支援の推進【新規】			
R1事業計画		R1事業成果	
○年間を通じた保護者相談の実施 ○幼稚園・保育園等と連携した「入学支援ファイル」の作成とスムーズな就学支援の実施		○各区の担当指導主事が年間を通して保護者相談, 就学相談会を実施できた。 ○園等と小学校の情報共有と就学支援のための「入学支援ファイル」の作成・活用(小学校提出数450名)	
当初予算額	396 千円	決算額	314 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	0 千円	H27	0 千円
H28	0 千円	H28	0 千円
H29	0 千円	H29	0 千円
H30	396 千円	H30	298 千円
R1	396 千円	R1	314 千円
合 計	792 千円	合 計	612 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○令和2年度就学予定児を対象にした「就学相談会」を各区ごとに、春季(5月)、夏季(7月下旬～8月上旬)、秋季(11月)の3回実施した。全市の参加人数は春季246名、夏季257名、秋季139名であった。就学支援のシステムや就学相談会、入学支援ファイルの内容について、説明会等で市内各園に対して継続して伝達してきたことが、相談者の早め(春季・夏季)の相談会への参加と、参加者数維持の一因と考える。

○各区の教育支援センターの特別支援教育担当主事が、就学相談の窓口になり、来所相談や電話相談に丁寧に対応した。また、随時園訪問を行い、就学児の様子について、実態把握及び、園との情報共有に努めている。

○就学前の保護者・幼児教育・保育・療育・相談機関からの願いと支援情報を学校に引き継ぐための連携ツールである「入学支援ファイル」を、相談会参加の保護者に配布した。配布の際に具体的な活用方法、作成手順、有効性を示した。

○「入学支援ファイル」活用状況調査において、新入生の「入学支援ファイル」の提出数は450人であり、全新生生の7.3%(前年比+0.4ポイント、一昨年度比+1.7ポイント)が提出している。小学校に「入学支援ファイル」の目的や活用について周知したこと、就学相談会時の保護者への丁寧な説明が増加の一因と考える。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標1「入学支援ファイルの活用件数」のR1評価が5となっており、目標を大きく上回っています。P44に新入生の支援ファイルの提出は450名で7.3%と記載があります。資料5にも「入学支援ファイルの活用状況が徐々に高まってきた…」と記載があります。450名以上を目標とするのでしょうか。するのであれば、どのくらいを目標としているのか、またその場合の表記は「支援ファイルの提出数/全新生」で%表示にしたほうが、450名という数値より分かりやすいのではないのでしょうか。  
 ⇒ご助言にあるとおり、就学児童数の変動に左右されず評価できるよう、令和2年度より特別支援学級入学児童の提出率を「支援ファイルの提出数/入学児童数」としました。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	新潟市一貫教育推進協議会(回)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	発足	3	2	2	2	2	4	100.0%
進捗状況	-	3	2	2	2	2		
指標2	新規パイロット事業実施中学校区数(延べ数)→H29～新潟市にふさわしい小中一貫した教育に取り組んだ中学校区数(延べ数)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	-	4	8	24	40	40	4	153.8%
進捗状況	-	4	8	26	40	40		
指標3	学び方等、共通の取組を設定した中学校(校区数)						R1評価	
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	56	56	56	56	56	56	4	100.0%
進捗状況	-	55	56	56	56	56		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標6								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標7								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標8								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- Ⅱ型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- Ⅲ型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定(原則として前年度設定値以上)
- Ⅳ型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 小中一貫教育パイロット事業【新規】			
R1事業計画		R1事業成果	
○パイロット中学校区における, 独自プログラムの実施と検証 ○小中一貫教育の全市展開に向け, 資料の作成と周知活動の実施		○一貫教育推進協議会を2回実施 ○小中一貫教育部会(パイロット中学校区の部会)を2回実施 ○ホームページを更新	
当初予算額	316千円	決算額	37千円
構成事業2 学校間連携推進事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○児童生徒の学習及び生活に関する情報交換 ○中学校区単位の授業・諸活動の交流事業推進		○児童生徒の学習及び生活に関する情報交換は, ほぼすべての中学校区で実施 ○中学校区単位の授業・諸活動の交流事業が増加	
当初予算額	0千円	決算額	0千円
構成事業3			
当初予算額 千円 決算額 千円			
構成事業4			
当初予算額 千円 決算額 千円			
構成事業5			
当初予算額 千円 決算額 千円			
構成事業6			
当初予算額 千円 決算額 千円			



● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	114 千円	H27	128 千円
H28	261 千円	H28	187 千円
H29	237 千円	H29	223 千円
H30	301 千円	H30	198 千円
R1	316 千円	R1	37 千円
合 計	1,229 千円	合 計	773 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○第11回新潟市一貫教育推進協議会(8月20日)において,小中一貫教育部会の取組及び「新潟市にふさわしい一貫教育」の進捗状況を報告し,了承を得た。第12回新潟市一貫教育推進協議会(2月10日)では,今年度で終了する小中一貫教育部会の成果と課題を提示し,意見交換をするとともに,来年度以降の協議会の組織改編について検討することができた。

○第12回小中一貫教育部会(6月27日)では,パイロット中学校区における,今年度の「新潟市にふさわしい小中一貫した教育」の取組について協議を行った。全体協議では,「独自プログラム」の書式を決定し,各中学校区協議では,今年度の取組及び独自プログラム案の検討を行い,先行実施・検証の手はずを整えた。第13回小中一貫教育部会(12月3日)では,各中学校区より「共通プログラム」「独自プログラム」の実践内容報告をはじめ,これまでの取組の成果と課題について協議を行った。成果としては,「学習課題とまとめ,振り返りのある授業」の実践レベルでの同一指導の進捗,学習規律の定着,「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」による学びの深化,いわゆる中一ギャップ防止への一定の効果,子どもたちの自己肯定感の高揚等が挙げられた。課題としては,活動日程や打合せ時間の確保や取組の取捨選択の必要性,「小中一貫した教育」の目的を職員間で共有することの必要性等を示すことができた。

○令和2年度の「新潟市の小中一貫した教育」の全市展開に向け,上記のパイロット中学校区の実践資料等を整え,ホームページに掲載した。取組の具体を示すことで,各中学校区で実際に取り組む際の,有効な参考資料となった。

○学校間連携推進事業に関する研修を2回実施した。より実践的なものとなるよう,講師による具体的な指導の下,総合的な学習の時間の全体計画を作成するなど,ニーズに応じた研修を実施することができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より,第4期実施計画に移行するため,この欄の記述はありません。中間評価の際に,新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標3「学び方等,共通の取組を設定した中学校区数」も高い数値となっており,ほとんどの学校で取り組んでいます。教職員による内容評価ではいかがでしょうか。具体的な小中学校の取組が,どのように改善されたのかなどの数値にしてはどうでしょうか。  
⇒令和2年度から「小中一貫した教育」を本格的に推進します。今までは,パイロット校や各中学校区独自の取組でありましたが,そこから一歩進め,第4期実施計画では,すべての中学校区で目指す子どもの姿を設定することになっています。それを受け,小中合同の「共通プログラム」「独自プログラム」の策定に着手することになるため,その取組状況を指標目標として設定します。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.3

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	幼稚園・保育園との連携の充実を図り、小学校への円滑な接続を図るための教育懇談会を実施した小学校の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		10.0	95.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	-	90.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標2	接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている小学校の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		10.0	40.0	70.0	70.0	70.0	5	104.9%
進捗状況	-	30.0	72.0	72.0	82.0	86.0		
指標3	接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている市立幼稚園の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		27.3	90.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	-	81.2	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標4	隣接する小学校区における、幼稚園、保育園、小学校等の職員を交えた研究保育を年間複数回実施した市立幼稚園の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		18.1	63.6	90.0	90.0	90.9	4	100.0%
進捗状況	-	54.5	90.0	90.0	90.0	90.0		
指標5							R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 幼保小連携推進事業【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○幼保小連携の推進を図るための情報交換会の実施 ○幼・保と小学校との円滑な接続を見通した教育課程の検討・編成	○幼・保の連携の充実と小学校への円滑な接続を図るための情報交換会の実施 ○幼・保と小学校の接続を見通した教育課程・指導計画の作成	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2 幼保小合同研修会【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○幼保小合同研修会の実施 ○市立幼稚園教育研究協議会の後援	○幼保小合同研修会の実施 ○市立幼稚園教育研究協議会への指導・助言	
当初予算額	55千円	決算額 55千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	42 千円	H27	72 千円
H28	87 千円	H28	81 千円
H29	81 千円	H29	81 千円
H30	60 千円	H30	60 千円
R1	55 千円	R1	55 千円
合 計	325 千円	合 計	349 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○私立幼稚園・保育園・こども園の研修会と市立幼稚園の研究保育・研修会が相互に案内され、参加することにより、連携が図られた。

○すべての市立私立幼稚園、保育園、こども園の園長及び実務者対象に、アプローチ・カリキュラム作成研修会を実施し、連携について指導・助言したことにより、幼小連携、幼保こ連携が図られた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標3の小学校と幼稚園との連携は、充分に行われているように思います。具体的な内容を評価にしてはどうでしょうか。  
⇒これまで築き上げた幼小連携の基盤をもとに、今後は、接続期における教育課程の編成・実施(アプローチ・カリキュラム、スタート・カリキュラム)の質を向上させることに焦点を当てて評価していきます。

・構成事業2について 新潟市立幼稚園が縮小傾向であるのは非常に残念ですが、市立園と私立園の合同研修等はぜひ継続的に実施してほしいと思います。また、その際、市立園での研修に私立園職員が参加しやすい配慮を考えていただきたいと思います。  
⇒市立園の保育研究についての案内や研究成果を、私立園へも情報提供していきます。私立園職員の参加については、どのような参加形態が可能なかの要望を聞いた上で、双方向のオンラインでの研修や動画配信など、コロナ禍でも参加が可能なように参加形態を検討していきます。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.4

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	外部講師による人権教育, 同和教育に関する校内研修を実施した学校数(校:累計)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		85	110	135	160	185	5	103.0%
進捗状況	61	135	213	271	298	307		
指標2	小学校で男女平等教育学習資料を活用している学校の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	96.0	98.2	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標3	中学校で男女平等教育学習資料を活用している学校の割合(%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		90.0	90.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	85.0	84.2	100.0	96.4	100.0	100.0		
指標4	公民館の人権教育事業の参加者数(人)						R1評価	
指標目標		3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	4	98.5%
進捗状況	3,341	3,148	3,331	3,791	3,225	3,176		
指標5	人権教育研修会の参加者満足度(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	5	111.5%
進捗状況	71.5	95.0	93.0	97.0	87.0	97.0		
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 人権教育, 同和教育の推進		
R1事業計画	R1事業成果	
○人権教育, 同和教育に関する研修会, 外部講師派遣事業による支援の実施	○外部講師派遣事業による校内研修会を31校園, 学校支援課指導主事によるものを60校, 新発田隣保館現地学習によるものを6校園実施	
当初予算額	150 千円	決算額 100 千円
構成事業2 男女平等教育の推進		
R1事業計画	R1事業成果	
○男女平等教育推進協議会の開催 ○児童生徒用男女平等教育学習資料を改訂する。各校へデータで配付	○男女平等教育推進協議会の開催 ○児童生徒用男女平等教育学習資料を改訂し, 各校にデータで配付	
当初予算額	223 千円	決算額 273 千円
構成事業3 公民館の人権教育		
○女性セミナーや障がい者理解などの人権に関する講座や家庭教育学級における人権講座の開催	○女性セミナー ○人権に関する講座 ○国際理解講座 ○家庭教育学級における人権事業	
当初予算額	795 千円	決算額 907 千円
構成事業4 新潟市人権教育研修会		
R1事業計画	R1事業成果	
○人権教育研修会の開催(1回)	○人権教育研修会の開催(1回)	
当初予算額	27 千円	決算額 53 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	1,945 千円	H27	1,344 千円
H28	1,055 千円	H28	863 千円
H29	867 千円	H29	937 千円
H30	896 千円	H30	1,010 千円
R1	1,195 千円	R1	1,333 千円
合 計	5,958 千円	合 計	5,487 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○男女平等教育学習推進研究会を年2回実施し、子どもが使う教材の在り方について有識者から意見をいただくことを通して、学校で行う男女平等教育とその先に社会とのつながりという視点から改訂することができた。

○市立小中学校へ改訂した男女平等学習資料と活用の手引きをCDROMでデータ配付し、性別に関係なく自分らしさと能力を發揮して生きていくことの大切さについて学ぶことができるようにした。

○外部講師による人権教育、同和教育研修会を31校園で実施し、人権問題や同和問題について資料を基にして解説を聞き深く学ぶことができた。

○中学校区60校園による人権教育、同和教育の研修会で、学校支援課指導主事を派遣し、現代的な課題や同和教育資料「生きる」の内容について情報共有を図ることができた。

○男女共同参画について学ぶ女性セミナーや、障がい者や子ども等の人権について考える講座を実施したほか、家庭教育学級のメニューにも人権について考える回を設けるなど、誰もが共に生きる地域社会への意識啓発に取り組むことができた。

○7月2日に、市職員や教育委員会職員、教職員(幼稚園含む)を対象に、人権教育研修会を開催。356名が参加し、人権・同和問題へ関心をもち、理解と認識を深めた。講師 中倉茂樹(徳島県人権啓発青少年団体連絡協議会「止揚の会」事務局、徳島県人権・同和教育講師)。参加者へのアンケートでは、「人権問題・同和問題への理解が深まった」と回答した職員の割合が97%となった。今後希望する研修会テーマでは、インターネット、LGBT、子どもの人権などが多かった。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標2, 3の「男女平等教育学習資料の活用」は、既に多くの小中学校で実施されている。生徒の理解評価に変えてはどうでしょうか。  
 ⇒前提として、まず毎年確実に実施することが大切であると考えています。しかし、子どもの実態状況を知ること大切であると検討もしましたが、児童生徒の回答を想定した時、「意識の高い児童生徒ほど、自己評価が厳しい」という傾向があります。また、今年度より内容及び教材も改訂したことや、昨年度の実施状況と指標を確認し、未実施だった学校に様子を伺うことができたことから、今年度も指標は、実施にかかわる指標として考えています。



●R1施策評価

3期進捗平均
3.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	世代間交流事業の参加者数(人)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		22,400	22,400	22,400	22,400	22,400	3	102.2%
進捗状況	22,459	23,654	23,360	22,525	20,248	20,698		
指標2							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標3							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標4							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標5							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標6							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標7							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標8							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 地区別世代間交流事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○地域で実施しているイベントやスポーツ大会を通じて, 世代間の交流が進むよう支援する。		○公民館・地域・学校などが連携し, 地域の多世代交流を促すイベントやスポーツ大会などを実施	
当初予算額	1,388 千円	決算額	1,101 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	861 千円	H27	1,049 千円
H28	1,007 千円	H28	1,500 千円
H29	1,442 千円	H29	1,655 千円
H30	1,503 千円	H30	1,324 千円
R1	1,388 千円	R1	1,101 千円
合 計	6,201 千円	合 計	6,629 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○地域団体や学校等と連携し、地域の誰もが気軽に参加できるイベントやスポーツ・レクリエーション大会など多種多様な事業を実施することで、各地域の多世代交流に取り組んだ。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	子育て学習出前講座(小学校)の実施率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		90.2	90.2	90.2	90.2	90.2	5	97.9%
進捗状況	90.2	94.5	94.4	94.4	97.2	95.2		
指標2	子育て学習出前講座(中学校)の実施率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		26.3	26.3	28.0	28.0	29.8	3	93.6%
進捗状況	24.5	24.5	28.1	36.8	28.1	26.3		
指標3	家庭教育学級数(講座)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		63	64	68	69	69	4	101.5%
進捗状況	63	68	68	66	65	66		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
I型	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
I型	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
I型	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
I型	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 家庭教育振興事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○出産前から子どもの成長期に合わせた家庭教育学級の実施 ○朝ごはん料理講習会の実施 ○子育て学習の出前講座の実施(市立小・中学校)	○出産前から思春期・孫育てなどの家庭教育学級66講座を実施 ○子育て学習出前講座の実施(小100校, 中15校) ○朝ごはん料理講習会の実施(35回, 参加者1,310名)	
当初予算額	10,510 千円	決算額 9,058 千円
構成事業2		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	12,100 千円	H27	11,558 千円
H28	11,399 千円	H28	10,827 千円
H29	12,063 千円	H29	11,393 千円
H30	10,660 千円	H30	10,036 千円
R1	10,510 千円	R1	9,058 千円
合 計	56,732 千円	合 計	52,872 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○出産前の妊婦を対象としたプレママ学級や乳児期から思春期まで子どもの成長にあわせた家庭教育学級を実施し、子育ての知識や情報、親としての関わり方などを学ぶことを通じて、参加者同士の情報共有や仲間づくりなどに取り組んだ。

○市立小中学校と連携して、就学時健診や新入学学校説明会など保護者が集まる機会に講演を行う「子育て学習出前講座」の実施を呼びかけ、小学校100校、中学校15校で実施。家庭教育の大切さなどについて学ぶ機会とした。

○地域団体や学校と連携して、家庭教育の基本でもある子どもたちの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上を図るため、おはよう朝ごはん料理講習会の開催を呼びかけ、市内で延べ35回開催した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
5.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	子育てフリースペースの開設(か所数)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		13	14	14	15	15	5	100.0%
進捗状況	15	16	18	18	18	18		
指標2	保育者研修会の出席率(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	5	104.1%
進捗状況	90.0	92.8	92.6	83.0	94.8	98.6		
指標3								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 子育て支援事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○子育て支援事業(講演会, 親子遊びなど) ○子育てフリースペースの開設 ○保育者研修会の実施		○子育てフリースペースの開設 ○子育て支援事業(講演会, 親子遊びなど) ○全保育者を対象とした研修会	
当初予算額	1,056 千円	決算額	396 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円



● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	873 千円	H27	934 千円
H28	846 千円	H28	759 千円
H29	1,059 千円	H29	1,121 千円
H30	1,174 千円	H30	1,135 千円
R1	1,056 千円	R1	396 千円
合 計	5,008 千円	合 計	4,345 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○子育てフリースペースを開設し、絵本の読み聞かせや親子遊びを実施することで、子育て中の保護者同士の交流・仲間づくり、子育てへの不安・負担感軽減を図るなど、孤立しがちな乳幼児とその保護者に対し、親子で気軽に利用できる居場所の提供ができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標2の保育者研修会の具体的内容が分かれば教えてください。  
 ⇒保育者研修会は、市内で実施している保育付き事業における、保育室運営に従事する保育者の情報・認識の共有化や意見交換、交流の場として開催するものです。プログラム内容は以下のとおりです。  
 【R1年度の研修プログラム】  
 新潟県助産師会の常任理事による講義  
 (現代の子育て世代の親の現状・社会背景、子育て中の親との接し方など)  
 ① グループトーク(参考事例について意見交換)  
 ② グループトークの結果発表  
 ※R1年度は上記の内容で保育者研修を3会場で開催する予定でしたが、コロナウイルス感染拡大防止のため、1会場での開催となりました。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1 生涯学習相談件数(件)							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		300	310	320	330	340	4	126.1%
進捗状況	297	296	307	326	261	329		
指標2							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標3							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標4							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標5							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標6							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標7							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標8							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 学習情報の収集・提供・相談事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○生涯学習の収集・提供及び学習相談 ○パソコン初心者向け講習会 *予算は9-(6)に計上		○生涯学習の収集・提供及び学習相談 ○生涯学習ボランティアバンクの周知 ○生涯学習ボランティアバンク自主企画講座 ○パソコン初心者向け講習会 ※決算は9-(6)に計上	
当初予算額	0千円	決算額	0千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	115 千円	H27	104 千円
H28	100 千円	H28	101 千円
H29	269 千円	H29	288 千円
H30	203 千円	H30	189 千円
R1	0 千円	R1	0 千円
合 計	687 千円	合 計	682 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

◎市民の多様な生涯学習活動を支援するため、「研修・講演 講師紹介ガイド」による人材・講師情報の提供を行った。

◎生涯学習に関する豊かな知識や経験、優れた技能を有する地域の人材の有効活用を図るとともに、市民の学習活動の成果を地域社会に還元するためボランティアバンクを設置し、登録されたボランティアの派遣を実施した。また、活躍の場を広げるため、地域コミュニティ協議会への情報提供に向けて、各区地域(総務)課と連携を図った。

◎市民の学習活動に関する相談に応じるため、生涯学習相談ボランティアによる学習情報の収集・提供及び学習相談を実施するとともに、同ボランティアのスキルを高めるための研修会や情報交換を行った。

◎パソコン指導ボランティアによるパソコン初心者向け講習会(R1年度よりパソコン若葉Excel編を開設)を実施し、市民の主体的な学習活動を支援するとともに、ボランティアのスキルを高めるための研修会を行った。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・成果として「生涯学習ボランティアバンクの周知」等が挙げられていますが、このボランティアバンクと現在実施されている地域と学校パートナーシップ事業の間に連携はありますか。

⇒生涯学習センターでは、生涯学習ボランティアバンク制度について、「地域教育コーディネーター研修会」や「小中学校長会」などで説明しています。学校や地域教育コーディネーターからの依頼により、ボランティアバンク登録者を学校の教育活動や課外活動における指導者や補助者として派遣しています。市民が社会教育施設等で学んだ知識や成果を、学校の教育活動に生かすことで、学校と社会教育施設、地域住民を結ぶネットワークが形成され、「学・社・民の融合による教育」推進の力となっています。

〈学校における主な活動〉

・特別支援学級児童の個別指導補助 ・郷土料理の調理実習指導 ・昔あそび指導 ・工作指導 ・プログラミングクラブの支援

・「市民の学習活動に関する相談に応じるため、研修会・情報交換を行った。」とあるが、ボランティアのスキルアップの研修会・情報交換とはどのような頻度で行われたのでしょうか。

⇒令和元年度は、生涯学習相談ボランティア(27名)のスキルアップ向上を目的に、下記の研修を実施しました。

・実務研修 テーマ「相談員の仕事と情報検索の方法」

・視察研修 視察先 南区・西蒲区

・講演会 演題「100年人生時代のキャリアの創り方」

・ミニ講座 テーマ「学習相談と心理学」

このほかに、毎月一回定例会を開催し、学習相談の事例をもとに情報交換を行ったり、定期的に会報を発行したりしています。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.3

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値 ÷ 前年度進捗状況値 × 100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	にいがた市民大学の受講率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	5	109.5%
進捗状況	84.5	122.5	112.5	92.0	92.0	100.7		
指標2	現代的課題を学ぶ事業の実施						R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		実施	実施	実施	実施	実施		
進捗状況	-	実施	実施	実施	実施	実施		
指標3	文化祭・芸能祭等の実施						R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		実施	実施	実施	実施	実施		
進捗状況	-	実施	実施	実施	実施	実施		
指標4	児童書の貸出冊数(冊)(12歳以下の子ども1人あたり)						R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		12.2	12.4	13.2	13.1	13.2	4	100.0%
進捗状況	12.1	13.1	13.1	13.0	13.2	13.2		
指標5	レファレンス受付件数(件)						R1評価	
III型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		72,000	72,800	90,000	99,000	94,000	4	103.4%
進捗状況	69,600	83,157	94,580	98,077	93,559	96,766		
指標6							R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度、中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1にいがた市民大学開設事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○基本講座 4講座 ○大学コンソーシアム連携講座1講座	○基本講座 4講座(うち、後期ゼミ2講座) ○大学コンソーシアム連携講座1講座 ○特別講座 1講座	
当初予算額	5,900 千円	決算額 5,031 千円
構成事業2 現代的課題を学ぶ公民館事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○青年対象事業、環境に関する事業、高齢者問題に関する事業、その他市民ニーズのある事業の実施	○青年を対象とした事業や、高齢者の生きがいづくり、健康づくり事業等の開催 ○超高齢化社会におけるの自立・支えあいを考える事業の開催	
当初予算額	1,859 千円	決算額 2,159 千円
構成事業3 学習成果を発表する場の提供		
○文化祭や芸能祭などの開催	○文化祭や音楽芸能祭を開催し、サークル活動の成果発表の場を提供	
当初予算額	1,398 千円	決算額 1,453 千円
構成事業4 子どもの読書環境の整備		
R1事業計画	R1事業成果	
○第三次新潟市子ども読書活動推進計画策定 ○ブックスタート事業の継続およびアンケートの実施 ○赤ちゃんタイムの実施	○第三次新潟市子ども読書活動推進計画を策定 ○ブックスタートアンケートを実施し、対象者の98%から回答 ○赤ちゃんタイムを全図書館(19館)で実施	
当初予算額	3,938 千円	決算額 3,545 千円
構成事業5 子どもが読書に親しむ機会の充実		
R1事業計画	R1事業成果	
○子ども・親子を対象とした各種事業 ○「うちどくブックリスト」の作成など、うちどく(家読)推進のための各種事業 ○読み聞かせボランティア入門講座の実施	○「認定子ども司書の活動」を実施し13名が参加 ○「うちどく(家読)」推進のために「うちどくのススメ」や読書ノートを配布し啓発 ○読み聞かせボランティア入門講座を実施し、延べ58名が参加	
当初予算額	372 千円	決算額 354 千円
構成事業6 仕事やくらしの課題解決のための情報提供事業【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○ビジネス支援セミナー ○ビジネス融資相談会 ○くらしの情報講座 ○行政書士無料相談会	○ビジネス支援セミナー ○ビジネス融資相談会 ○くらしの情報講座 ○行政書士無料相談会	
当初予算額	1,187 千円	決算額 1,188 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	18,819 千円	H27	16,964 千円
H28	21,859 千円	H28	16,197 千円
H29	16,810 千円	H29	15,653 千円
H30	13,677 千円	H30	13,362 千円
R1	13,467 千円	R1	12,542 千円
合 計	84,632 千円	合 計	74,718 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○にいがた市民大学では、基本講座を4講座（このうち後期ゼミ2講座）、大学コンソーシアム連携講座を1講座、特別講座を1講座実施した。市民の興味・関心の高い講座や積極的な広報活動を行った結果、高い受講率となった。特別講座は基本講座の中で受講率や満足度の高い講座をアンコール実施したことで、新しい受講者の参加も見られ、市民大学への関心を高めることができた。

○受講修了者による自主グループ化の支援を行い、新たに2グループが自主活動を行うようになった。平成30年度に活動を始めた自主グループ「プログラミング学習支援・勉強会」が、「大人向けプログラミング勉強会」として、学校の放課後パソコンクラブのボランティア活動に取り組んだ。

○高齢者の健康や生きがいづくりについての講座を実施したほか、高齢者の社会参加や自立、地域単位での支え合いなど、全国的課題でもある超高齢化社会をテーマとした講座にも取り組むことができた。

○市民の学習成果を発表する場を提供するため、公民館利用団体などと協働し、文化祭や音楽芸能発表会などを実施した。

◎「第二次新潟市子ども読書活動推進計画」に基づく事業の実施  
 ・ブックスタートを4,775人に実施し、家庭での読み聞かせや親子のコミュニケーションが充実するよう働きかけた。また、子どもへの読み聞かせの支援に図書館を活用するよう働きかけた。  
 ・「赤ちゃんタイム」を全19館で実施し、子ども連れでも気軽に図書館が利用できるよう環境を整備した。  
 ・「認定子ども司書の活動」を実施し、イベントの補助や紹介文の展示などを通して、司書の仕事への理解を深めるとともに同世代の子どもたちに読書の楽しさを発信することができた。

◎「第三次新潟市子ども読書活動推進計画」策定  
 ・「第三次新潟市子ども読書活動推進計画」を策定した。策定にあたって、有識者会議や庁内推進会議、パブリックコメントを実施することによって、様々な立場からの意見を取り入れることができた。

◎仕事やくらしの課題解決のための情報提供事業  
 ・新潟IPC財団や日本政策金融公庫と連携し、セミナーや相談会を行い、市民のビジネスに役立つ情報を提供することができた。  
 ・「くらしの情報講座」を2回開催し、市民に役立つ情報を提供した。  
 ・中央・亀田・新津・坂井輪・西川図書館で行政書士無料相談会を開催し、相続やエンディングノートの書き方など、日常生活の課題解決に役立つ情報を提供した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標「**新潟市民大学の受講率**」は高い数値となっていますが、参加者の満足度などはいかがですか。  
 ⇒過去5か年における、にいがた市民大学前期講座受講者の満足度（「満足」「やや満足」と答えた人の割合）は下記のとおりです。  
 ・平成27年度（5講座）76% ・平成28年度（5講座）79% ・平成29年度（5講座）78% ・平成30年度（5講座）77%  
 ・令和元年度（5講座）82%  
 受講者からは「10回の講座は充実した内容で、大変貴重だと思う」「素晴らしい講師陣や、本では知ることができない話を聞くことができ、大変有意義な講座だった」等の感想をいただきました。

・にいがた市民大学は設立されてから20年以上経過していると思われます。この20年で各地の大学が市民向けの公開講座など、様々な開催している中で、設立当初の高等教育を市民に提供するという一定の目的は果たされたのではないのでしょうか。時代の変化を見据え、学んだ成果を還元する循環型の生涯学習の実現のためにも、仕組みの改革が求められると思いますが、いかがでしょうか。例えば、市民が企画した講座をもっと前面に出す、市民を企画段階から入れてプログラムづくりに反映するなど、市民力を育てることを計画できませんか。  
 ⇒これまで、にいがた市民大学は、市民の主体的な学習活動を推進するため、時代や社会の変化並びに市民の学習ニーズに応じた多様な学習機会を提供するとともに、学びの成果を教育活動や地域に生かすため、受講修了者による自主グループ化を支援するなど、循環型生涯学習を推進する上で一定の役割を果たしてきました。その一方で、新潟市教育ビジョン第4期実施計画の中心的な考え方のテーマである「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育てていくために、にいがた市民大学が取り組んできた学びの循環による人づくり、地域づくりを、さらに進めることが大切と考えています。今後、にいがた市民大学の運営方法について課題を整理し、市民企画講座の充実や受講修了者による自主グループ活動の支援を通して、市民力を育てていきたいと考えています。



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	公民館と連携事業を実施する地域コミュニティ協議会数(か所)						R1評価			
	I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比	
指標目標		45	46	52	52	53		4	85.9%	
進捗状況	41	51	60	63	64	55				
指標2										
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比		
進捗状況										
指標3										
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比		
進捗状況										
指標4										
指標目標										
進捗状況										
指標5										
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比		
進捗状況										
指標6										
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比		
進捗状況										
指標7										
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比		
進捗状況										
指標8										
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比		
進捗状況										

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 地域課題解決への支援			
R1事業計画		R1事業成果	
○地域コミュニティ協議会等地域団体と連携した地域課題の解決を支援する事業の実施		○地域団体と連携し、地域課題の把握と解決を地域自ら取り組めるよう支援する事業を実施 ○コミュニティ・コーディネーター育成事業を実施し、地域活動を担う人材育成と活動支援を行った。	
当初予算額	3,107 千円	決算額	3,020 千円
構成事業2			
当初予算額		千円	決算額
構成事業3			
当初予算額		千円	決算額
構成事業4			
当初予算額		千円	決算額
構成事業5			
当初予算額		千円	決算額
構成事業6			
当初予算額		千円	決算額
構成事業7			
当初予算額		千円	決算額

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	4,952 千円	H27	3,908 千円
H28	4,758 千円	H28	3,929 千円
H29	5,174 千円	H29	4,470 千円
H30	3,900 千円	H30	3,214 千円
R1	3,107 千円	R1	3,020 千円
合 計	21,891 千円	合 計	18,541 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○地域団体・学校等と連携しながら、少子高齢化社会における様々な課題や、各地域それぞれが持つ地域課題などへ理解を深める講座・イベント等を実施。地域住民自らが、地域課題を探り、解決できるよう支援した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	1校あたりの学校支援ボランティア(延べ人数)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		1,240	1,270	1,640	1,670	2,020	4	106.6%
進捗状況	1,210	1,531	1,611	1,664	1,989	2,120		
指標2	ふれあいスクール週当たり開催(日数)→H29~ふれあいスクール年間開催(1校当たり日数)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		2.00	2.10	49	51	53	2	93.0%
進捗状況	1.93	1.97	2.02	49	43	40		
指標3	土曜プログラムモデル実施校数(校)→H29~土曜プログラム活用校数(校)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		4	4	20	24	27	5	94.1%
進捗状況	-	4	4	24	34	32		
指標4	公民館出前型事業の実施校数(校)						R1評価	
指標目標		66	67	94	103	120	5	103.1%
進捗状況	66	72	89	103	127	131		
指標5							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 地域と学校パートナーシップ事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○本事業にかかる3回の研修会の開催(第1・3回研修会はコーディネーター・地域連携担当教職員対象, 第2回研修会は新任校長対象) ○新任コーディネーター研修 ○区研修のための研修幹事会	○本事業にかかる研修会を開催し, 学校担当者, 地域教育コーディネーター, 学社民融合支援主事あわせて延べ1,020名が参加 ○市民へ周知のため, ウェルカム参観日を16校で実施	
当初予算額 135,766 千円	決算額 131,926 千円	
構成事業2 ふれあいスクール事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○土曜プログラムモデル校4校でプログラムの内容や実施方法を検討, 実施結果を運営主任研修会で報告 ○各校の運営の工夫を研修会や運営委員会, 通信で紹介	○土曜プログラムの活用や運営方法の工夫について, 実践校が運営主任研修会で発表 ○各校の運営の工夫を研修会や運営委員会, 訪問の際に紹介	
当初予算額 30,423 千円	決算額 26,466 千円	
構成事業3 公民館出前型事業		
○学校の余裕教室などを会場にして, 地域住民を対象とした公民館事業の開催	○地域住民対象の公民館事業を学校を会場に実施	
当初予算額 0 千円	決算額 428 千円	
構成事業4		
当初予算額 千円	決算額 千円	
構成事業5		
当初予算額 千円	決算額 千円	
構成事業6		
当初予算額 千円	決算額 千円	

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	189,987 千円	H27	184,359 千円
H28	187,454 千円	H28	190,188 千円
H29	182,387 千円	H29	178,105 千円
H30	170,404 千円	H30	167,175 千円
R1	166,189 千円	R1	158,820 千円
合 計	896,421 千円	合 計	878,647 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

◎学社民融合支援主事と図書館職員が参加する事業研修会、研修幹事会、区研修を実施した。事業研修会では、地域との連携・協働を進める上での課題(「重点化」と目標共有の会を経ての「役割分担」、広報活動、コミュニティ・スクールとの接続)を取り上げ、学校と地域とで事業の方向性、「目指す子ども像・地域像」を共有しながら取組を進めていけるようにした。

◎地域と学校ウェルカム参観日を16校で実施し、「大好きにいがた体験活動」及び「パートナーシップ事業」の周知・啓発を図った。また、各地域、各校における「地域と学校パートナーシップ事業」の取組を市報や区だよりに計68回掲載し、市民に広く周知した。そのことにより、保護者・地域住民の事業への関心が高まり、市全体としての延べボランティア数、延べ事業数が順調に伸びてきている。各校だけでなく、地域教育推進課にもボランティア活動についての問い合わせがあるなど、事業に対する認知が広がった。

◎学校の教育活動を地域に発信するため、地域と学校ウェルカム参観日を16校で実施した。また、市報や区だよりでパートナーシップ事業を延べ68回掲載した。

◎子どもふれあいスクール事業は、令和元年度に小学校67校で実施した。また、ふれあいスクール運営主任の研修会には、放課後児童クラブの支援員も参加し、ふれあいスクールと放課後児童クラブの連携についての研修や情報交換を行うことで共通理解を図ることができた。ふれあいスクール事業合同研修会参加者数は、第1回研修会5・6月実施・参加者211名(うち放課後児童クラブ支援員65名)、第2回研修会10月実施・参加者191名(うち放課後児童クラブ支援員52名)。

◎第1回研修会で土曜プログラムの1つである「けん玉」の実技講習を行った。参加者に実践してもらうことで、土曜プログラムの活用への関心を高めることができた。また、第3回のふれあいスクール事業研修会(2月実施・参加者225名)では、運営の工夫や土曜プログラムの活用について4校からの実践発表を通して、自校での取組に生かそうという参加者の意欲を高めることができた。また、土曜プログラム集を活用してもらうため、研修会で紹介したり、指導者との連絡調整やプログラム実施に向けての指導・助言を行ったりした。

◎子ども対象の体験講座や高齢者も参加可能な学習講座など、多種多様な公民館講座を学校を会場に実施することができた。公民館・地域・学校が連携することで、地域住民が学校に足を運ぶ機会や地域住民と子どもたちの交流の機会を創出することができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・ウエルカム参観日を16校で実施とありますが、すべて小学校でしょうか。中学も含まれますか。  
 ・指標3にある、土曜プログラムモデルの「実施校数」と「活用校数」の違いは何でしょうか。  
 ⇒16校中、小学校が12校、中学校が4校です。平成28年度までの指標は「土曜プログラムモデル実施校数」となっています。土曜プログラムモデル実施校については毎年4校にお願いしています。モデル実施校には土曜プログラムの活動内容や運営の取組について、成果や課題を明らかにし研修会で実践報告してもらいます。平成29年度からは、指標を「土曜プログラム活用校数」へと変更しました。土曜プログラムの活用校数は、土曜プログラムに示してあるプログラムを実際に活用した学校数です。土曜プログラムの活用により、ふれあいスクールが安心・安全な居場所であるだけでなく、人と関わりながら学習や多様な体験を行う機会を提供する、豊かな学びの場となることを目的としています。両者の違いについては、「実施校数」は、土曜プログラムをモデル校として実施する学校数。「活用校数」は土曜プログラムを活用し、実施した学校数となります。

・指標1では「ボランティア」(延べ人数)の増加傾向が確認でき、とても良いことと思います。この値は各校からの報告値と推測しますが、ボランティアの具体的な定義を設定している(どの活動範囲の方々までを対象に集計した数値か)のであればご教示ください。P67、9-3の指標1に共通。  
 ⇒新潟市の「地域と学校パートナーシップ事業」実施要項を受け、当該校長のもと、教育活動や課外活動を推進する際に参画・協働する人々(地域住民、保護者、関係機関の担当者、学生など)を指します。活動の範囲は、各教科や特別活動などの授業補助、学習支援、環境整備、登下校安全指導、学校行事におけるサポートなどです。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	区教育ミーティングの開催(回)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		16	16	16	16	16	4	100.0%
進捗状況	16	16	16	16	16	16		
指標2	中学校区教育ミーティングの実施回数(累計中学校区数)→H29～(中学校区数)						R1評価	
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		32	56	28	28	16	4	57.1%
進捗状況	8	32	56	28	28	16		
指標3	にいがた共育通信(発行回数)						R1評価	
停止	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		4	4	-	-	-		
進捗状況	4	4	4	-	-	-		
指標4	H29～にいがた共育通信を読んで「教育ビジョンの施策内容について理解できた」と回答した人の割合(%)						R1評価	
指標目標		-	-	90.0	90.0	90.0	4	96.1%
進捗状況	-	-	-	88.9	94.3	90.6		
指標5							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 区教育ミーティングの開催(再掲)【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○各区年2回実施	○各区年2回実施	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2 中学校区教育ミーティングの開催(再掲)【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○市内16中学校区で実施	○市内16中学校区で実施	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業3 教育情報発信事業(再掲)		
○新潟市のホームページで情報がた共育通信を行う。 ○4月から毎月1回を目途に発信する。 ○学校教育や社会教育の取組を紹介するとともに, 教育ビジョン第4期実施計画の意見募集案内等の掲載を行った。	○新潟市のHPを用いた「にいがた共育通信」を概ね月1回, 計13回発信することができた。 ○学校教育及び社会教育の取組を紹介するとともに, 教育ビジョン第4期実施計画の意見募集案内等の掲載を行った。	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額		決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	1,646 千円	H27	1,464 千円
H28	1,232 千円	H28	1,089 千円
H29	1,232 千円	H29	1,066 千円
H30	0 千円	H30	0 千円
R1	0 千円	R1	0 千円
合 計	4,110 千円	合 計	3,619 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○区教育ミーティングを各区2回実施  
 ・区教育ミーティングでは、令和元年度の教育委員会の施策や、地域と学校パートナーシップ事業、コミュニティ・スクール制度について情報提供し、施策全般及び「保護者・地域・学校の連携」をテーマとし意見交換を行った。地域で目指す子どもの姿を共有し、育む体制づくりにつなげるため、地域における現状や課題について、参加者と教育委員で活発な意見交換が行われた。

○中学校区教育ミーティングを16中学校区で実施  
 ・中学校区教育ミーティングでは、「保護者・地域・学校の連携」をテーマとし、これまで取り組み実践したものについて振り返り、地域で目指す子どもの姿や、これから保護者・地域・学校で連携・協力できることについて、参加者と教育委員で活発な意見交換が行われた。  
 ・「令和元年度全国学力・学習状況調査結果」の説明を行い、学力分析、向上について意見交換が行われた。

○市ホームページによる「にいがた共有通信」の発信【第60号～72号】  
 【4月 新潟市就学援助・新潟市奨学金などの紹介】  
 【5月 特色ある取組の紹介 食育(大鷲小) 保健室指導(大形中)】  
 【6月 夏季就学相談会の案内】  
 【7月 教育ビジョン第4期実施計画案の周知 指定都市学校保健協議会の報告】  
 【9月 大好きにいがた体験事業の紹介(岩室中・笹山小)】  
 【9月 わたしの主張新潟市地区大会 ウェルカム参観日の報告】  
 【9月 生涯学習センターの取組】  
 【11月 公民館の取組・家庭教育支援 第67号】  
 【11月 図書館の取組・読書会 北信越地区学校図書館研究大会の報告】  
 【12月 笹山小閉校記念式典 いじめ防止市民フォーラムの報告】  
 【1月 教職員の研修の様子 安心して学べる学校園の施設整備 教育ビジョン推進委員の募集】  
 【2月 新潟市立幼稚園の紹介 統合型校務支援システムの導入】  
 【3月 新通つばさ小学校の開校 全国学力・学習状況調査及び全国体力等調査の結果】

○毎回情報発信した時点で、市立各校園及び教育委員会の各所属へ紹介メールを送り、職員へ周知を行った。さらに、学校の取組紹介の記事については、各校のメール配信システムでアドレスを一斉送信したり、学校便りに二次元バーコードの掲載依頼を行ったりして、該当校の保護者にも周知してもらうよう働きかけを行った。

○7月には全市立校園へHPへのリンク(バナー)貼付けのお願い、保護者への配信メールでリンク(HPアドレス)の送信をお願いした。また、12月には各市立校園の教職員及び保護者、さらに市民に紹介チラシを配付しアンケート依頼を行った。297件の回答があり、肯定的評価は90.6%であった。今後も取り上げてほしいテーマとして多かったものは、「子どもたちの活動の様子」「各校の特色ある教育活動」「地域と学校の連携した取組」「今後の教育の動向」であった。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	1校あたりの学校支援ボランティア(延べ人数)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		1,240	1,270	1,640	1,670	2,020	4	106.6%
進捗状況	1,210	1,531	1,611	1,664	1,989	2,120		
指標2	ふれあいスクール週当たり開催(日数)→H29～ふれあいスクール年間開催(1校当たり日数)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		2.00	2.10	49	51	53	2	93.0%
進捗状況	1.93	1.97	2.02	49	43	40		
指標3	土曜プログラムモデル実施校数(校)→H29～土曜プログラム活用校数(校)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		4	4	20	24	27	5	94.1%
進捗状況	-	4	4	24	34	32		
指標4	放課後の学習支援をする中学校(校)						R1評価	
指標目標		56	56	56	56	56	4	100.0%
進捗状況	-	56	56	56	56	56		
指標5	公民館出前型事業の実施校数(校)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		66	67	94	103	120	5	103.1%
進捗状況	66	72	89	103	127	131		
指標6	公民館と連携事業を実施する地域コミュニティ協議会数(か所)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		45	46	52	52	53	4	85.9%
進捗状況	41	51	60	63	64	55		
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 地域と学校パートナーシップ事業(再掲)	
R1事業計画	R1事業成果
○本事業にかかる3回の研修会の開催(第1・3回研修会はコーディネーター・地域連携担当教職員対象, 第2回研修会は新任校長対象) ○新任コーディネーター研修 ○区研修のための研修幹事会	○本事業にかかる研修会を開催し, 学校担当者, 地域教育コーディネーター, 学社民融合支援主事あわせて延べ1,020名が参加 ○市民へ周知のため, ウェルカム参観日を16校で実施
当初予算額 135,766 千円	決算額 131,926 千円
構成事業2 ふれあいスクール事業(再掲)	
R1事業計画	R1事業成果
○土曜プログラムモデル校4校でプログラムの内容や実施方法を検討。実施結果を運営主任研修会で報告 ○各校の運営の工夫を研修会や運営委員会, 通信で紹介	○土曜プログラムの活用や運営方法の工夫について, 実践校が運営主任研修会で発表 ○各校の運営の工夫を研修会や運営委員会, 訪問の際で紹介
当初予算額 30,423 千円	決算額 26,466 千円
構成事業3 アフタースクール学習支援事業(再掲)【新規】	
○全市立中学校に学習支援員を配置 ○学習支援員連絡会(5月9日)の実施 ○放課後学習教室の運営	○全市立中学校に学習支援員を配置 ○放課後講座運営 ○学習支援員研修会(5月9日) ○参加延べ生徒数15,170人
当初予算額 6,182 千円	決算額 5,897 千円
構成事業4 公民館出前型事業(再掲)	
R1事業計画	R1事業成果
○学校の余裕教室などを会場にして, 地域住民を対象とした公民館事業の開催	○地域住民対象の公民館事業を学校を会場に実施
当初予算額 0 千円	決算額 428 千円
構成事業5 地域コミュニティ活動活性化支援事業	
R1事業計画	R1事業成果
○地域コミュニティ協議会等地域団体と連携した地域課題の解決を支援する事業の実施	○地域団体と連携し, 地域課題の把握と解決を地域自ら取り組めるよう支援する事業を実施 ○コミュニティ・コーディネーター育成事業を実施し, 地域活動を担う人材育成と活動支援を行った。
当初予算額 3,107 千円	決算額 2,418 千円
構成事業6	
当初予算額 千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	200,939 千円	H27	193,363 千円
H28	199,612 千円	H28	200,474 千円
H29	194,961 千円	H29	188,669 千円
H30	180,486 千円	H30	176,510 千円
R1	175,478 千円	R1	167,135 千円
合 計	951,476 千円	合 計	926,151 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

◎学社民融合支援主事と図書館職員が参加する事業研修会、研修幹事会、区研修を実施した。事業研修会では、地域との連携・協働を進める上での課題(「重点化」と目標共有の会を経ての「役割分担」、広報活動、コミュニティ・スクールとの接続)を取り上げ、学校と地域とで事業の方向性、「目指す子ども像・地域像」を共有しながら取組を進めていけるようにした。

◎各校におけるのべ事業数・ボランティア数が着実に伸びており、学習活動の充実、子どもたちの人間関係の広がりや深まり、子どもたちが認めてもらえる機会の増加がみられる。また、学校の地域貢献活動や社会教育施設及び地域コミュニティ協議会との協働事業も充実してきている。

◎地域と学校ウェルカム参観日を16校で実施し、「大好きにいがた体験活動」及び「パートナーシップ事業」の周知・啓発を図った。また、各地域、各校における「地域と学校パートナーシップ事業」の取組を市報や区だよりに計68回掲載し、市民に広く周知した。そのことにより、保護者・地域住民の事業への関心が高まり、市全体としての延べボランティア数、延べ事業数が順調に伸びてきている。各校だけでなく、地域教育推進課にもボランティア活動についての問い合わせがあるなど、事業に対する認知が広がった。

◎子どもふれあいスクール事業は、令和元年度に小学校67校で実施した。また、ふれあいスクール運営主任の研修会には、放課後児童クラブの支援員も参加し、ふれあいスクールと放課後児童クラブの連携についての研修や情報交換を行うことで共通理解を図ることができた。ふれあいスクール事業合同研修会参加者数は、第1回研修会5・6月実施・参加者211名(うち放課後児童クラブ支援員65名)、第2回研修会10月実施・参加者191名(うち放課後児童クラブ支援員52名)。

◎第1回研修会で土曜プログラムの1つである「けん玉」の実技講習を行った。参加者に実践してもらうことで、土曜プログラムの活用への関心を高めることができた。また、第3回のふれあいスクール事業研修会(2月実施・参加者225名)では、運営の工夫や土曜プログラムの活用について4校からの実践発表を通して、自校での取組に生かそうという参加者の意欲を高めることができた。また、土曜プログラム集を活用してもらうため、研修会で紹介したり、指導者との連絡調整やプログラム実施に向けての指導・助言を行ったりした。

◎5月にアフタースクール学習支援員連絡会を行い、今年度の概要を説明した。6月から各校の実情に応じてアフタースクールの講座を開催した。1年間で、のべ15,170人の生徒が参加した。全体での一斉授業と個別の支援の両面から生徒の能力やニーズに応じた学習支援を展開することにより、年度末の参加生徒アンケートにおいて、「参加してよかった」と肯定的に回答した生徒の割合が86.8%であった。

◎子ども対象の体験講座や高齢者も参加可能な学習講座など、多種多様な公民館講座を学校を会場に実施することができた。公民館・地域・学校が連携することで、地域住民が学校に足を運ぶ機会や地域住民と子どもたちの交流の機会を創出することができた。

○地域団体・学校等と連携しながら、少子高齢化社会における様々な課題や、各地域それぞれがもつ地域課題などへ理解を深める講座・イベント等を実施。地域住民自らが地域課題を探り解決できるよう支援した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標4「放課後の学習支援をする中学校」については、56校が実施となっている。全校実施と理解していますが、生徒・教員の満足度・理解度はどうですか。全校実施であれば、評価方法を満足度評価に変更してはどうでしょうか。

⇒毎年12月に各学校で、学校アンケートと参加生徒アンケートを実施しています。令和元年度の結果は下記の通りです。

ア 学校アンケート 「学力・学習意欲向上に役立った」 85.7%  
「学校への支援となった」 82.1%

イ 参加生徒アンケート 「参加してよかった」 86.8%  
「勉強の仕方分かった」 76.6%

評価方法について第4期実施計画では、「参加してよかったと回答した生徒の割合」という満足度にしました。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.7

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	高等教育機関からの専門的な情報提供、指導等を受けている教育課題(課題)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		2	3	3	4	4	4	100.0%
進捗状況	1	2	3	4	4	4		
指標2	にいがた市民大学の受講率(%)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	5	109.5%
進捗状況	84.5	122.5	112.5	92.0	92.0	100.7		
指標3	連携・協力の実施状況(連携事業数)(件)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		9	9	9	9	9	5	110.0%
進捗状況	9	11	11	10	10	11		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 高等教育機関活用推進事業【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○文科省事業「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」を活用した取組の実施	○文科省事業「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」を活用した取組の実施において、大学より講師を招聘し、指導助言をいただき、研修協力校におけるCAN-DOリストを作成した。	
当初予算額	1,371千円	決算額 1,371千円
構成事業2 にいがた市民大学開設事業(再掲)		
R1事業計画	R1事業成果	
○基本講座 4講座 ○大学コンソーシアム連携講座1講座	○基本講座 4講座(うち、後期ゼミ2講座) ○大学コンソーシアム連携講座1講座 ○特別講座 2講座	
当初予算額	5,900千円	決算額 5,031千円
構成事業3 図書館と教育機関・企業との連携・協力		
○新潟大学附属図書館、県立図書館との配本ネットワーク及び連携事業の実施 ○団体貸出 ○新潟市と企業との連携事業への参加(予算は全て別事業)	○新潟大学附属図書館、県立図書館との配本ネットワークの実施(決算はネットワーク費や読書普及事業費を含む) ○団体貸出 ○民間企業との連携事業への参加	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	6,514 千円	H27	6,245 千円
H28	6,328 千円	H28	5,945 千円
H29	12,770 千円	H29	11,622 千円
H30	7,172 千円	H30	6,636 千円
R1	7,271 千円	R1	6,402 千円
合 計	40,055 千円	合 計	36,850 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○英語教育改革において、高大接続に係る取組が進む中、授業改善が求められている。文部科学省事業「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」を活用し、高志中等教育学校の後期課程において、指導と評価の一体化を図るべく、大学の教授を複数回招聘し、様々な指導を受けることができた。特に、英語を用いて何が出来るようになるのかという視点からCAN-DORリストの活用が全国的に課題になっているが、生徒にとっても教員にとっても必要なCAN-DORリストとはどのようなものなのかについて、大学の教授に様々な質問をし、それらに対して多くの示唆をいただいた。これをもとに、今後授業で活用できるものに改良し、活用していく。

○にいがた市民大学では、基本講座を4講座(このうち後期ゼミ2講座)、大学コンソーシアム連携講座を1講座、特別講座を1講座実施した。市民の興味・関心の高い講座や積極的な広報活動を行った結果、高い受講率となった。特別講座は基本講座の中で受講率や満足度の高い講座をアンコール実施したことで、新しい受講者の参加も見られ、市民大学への関心を高めることができた。

○受講修了者による自主グループ化の支援を行い、新たに2グループが自主活動を行うようになった。平成30年度に活動を始めた自主グループ「プログラミング学習支援・勉強会」が、「大人向けプログラミング勉強会」として学校の放課後パソコンクラブのボランティア活動に取り組むことで、地域の人材を生かした学校と社会教育施設が協働する教育や循環型生涯学習の推進を図ることができた。

◎新潟大学附属図書館と県立図書館との間で、配本ネットワークを実施し、利用者への本の提供を迅速に行うことができた。また、3館連携事業として秋に講演会を開催した。

◎企業や民間団体等への団体貸出を行い、地域の身近な場所へ本を提供することにより読書環境の充実に努めた。

◎民間企業の地域の魅力を発信するイベントに、図書館司書が読み聞かせやブックトークで協力した。企業と連携することで参加者・スタッフに対し、図書館をPRすることができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	学校関係者評価の結果に基づく検討・改善を行った学校の割合(%) (学校関係者評価の結果を公表した学校の割合)						R1評価		
	II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標2									
指標目標		H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標3									
指標目標		H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標4									
指標目標		H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標5									
指標目標		H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標6									
指標目標		H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標7									
指標目標		H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標8									
指標目標		H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況									

< 指標目標の設定型 >

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 学校評価の充実			
R1事業計画		R1事業成果	
○学校評価シートの改善と学校評価の定期的実施 ○学校評議員の全学校設置 ○学校マネジメント研修会の開催		○指導主事による学校訪問を年2回実施し, 学校評価に基づく指導・助言を実施 ○学校評議員会開催による地域住民の参画の推進 ○地域に開かれた教育課程編成の研修会を実施	
当初予算額	0千円	決算額	0千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	4 千円	H27	23 千円
H28	0 千円	H28	0 千円
H29	0 千円	H29	0 千円
H30	0 千円	H30	0 千円
R1	0 千円	R1	0 千円
合 計	4 千円	合 計	23 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○全学校の学校評価シートの作成は完了した。年間2回の学校訪問の際に、学校評価シートを基に校長面談を行い、各校の教育課題に応じた指導助言をすることができた。  
 ○学校評議員を全学校に配置した。各校で学校評議員会が開催されることで、保護者・地域住民の教育活動への参画が図られた。  
 ○学校マネジメント研修で、新学習指導要領の実施に向けた教育目標の検討や教育課程の見直しが図られ、地域性を生かした教育活動の推進のための見通しをもつことができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1 生涯学習ボランティアの登録者数(人)							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		1,386	1,392	1,175	1,200	1,225	5	95.2%
進捗状況	1,380	1,344	1,154	1,238	1,442	1,373		
指標2 公民館活動協力員との協働事業数(本)							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		165	165	165	165	165	3	88.7%
進捗状況	140	163	154	166	159	141		
指標3							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 生涯学習ボランティア育成支援事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○生涯学習ボランティアの育成支援 ○生涯学習ボランティアバンクの登録・活用	○生涯学習ボランティアの育成(ボランティア養成講座) ○生涯学習ボランティアの支援(生涯学習ボランティアバンクの登録・周知、派遣)	
当初予算額	203 千円	決算額
		197 千円
構成事業2 公民館活動協力員との協働事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○事業企画・運営 ○活動協力員会議	○活動協力員と協働して事業企画・運営を実施	
当初予算額	1,947 千円	決算額
		3,348 千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額
		千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額
		千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額
		千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額
		千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	3,444 千円	H27	5,309 千円
H28	3,013 千円	H28	5,061 千円
H29	3,755 千円	H29	4,641 千円
H30	3,488 千円	H30	3,981 千円
R1	2,150 千円	R1	3,545 千円
合 計	15,850 千円	合 計	22,537 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

◎生涯学習に関する豊かな知識や経験、優れた技能を有する地域人材の有効活用を図るとともに、市民の学習活動の成果を地域社会に還元するためボランティアバンクを設置し、関係機関等に登録されたボランティアを派遣するなど、学びの循環を推進した。ボランティアの活躍の場を広げるため、地域コミュニティ協議会への情報提供に向けて、各区地域(総務)課と連携を図った。ボランティアバンク登録者による自主企画講座を実施した。

○各地域が持っている課題やニーズを事業に反映できるよう、各公民館で活動協力員と協働で事業の企画・運営を行った。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	「防災教育」学校・地域連携事業指定校数(校・累計)						R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
II型								
指標目標		34	68	102	136	166	4	123.9%
進捗状況	8	34	69	102	134	166		
指標2								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標3								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標6								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標7								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標8								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1「防災教育」学校・地域連携事業(ふるさと新潟防災教育推進支援事業) 【新規】			
R1事業計画		R1事業成果	
○「防災教育」学校・地域連携事業指定校を指定し, 家庭や地域と連携した実践的な防災教育の推進		○「防災教育」学校・地域連携事業に32校を指定し, 各中学校区で3回以上のミーティングを実施し, 年度末に地域と連携した防災教育の自校化プログラムを作成	
当初予算額	9,477 千円	決算額	8,910 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	12,600 千円	H27	9,131 千円
H28	11,134 千円	H28	10,689 千円
H29	10,450 千円	H29	9,987 千円
H30	9,847 千円	H30	9,248 千円
R1	9,477 千円	R1	8,910 千円
合 計	53,508 千円	合 計	47,965 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○「防災教育」学校・地域連携事業で32校を指定し、小中及び地域と連携した自校化プログラム作成について協議を行うことにより、各中学校区における防災教育の現状と課題の共有を図ることができた。

○5月に、防災教育の理念と自校化の定義の共有を図り、新潟県防災教育プログラムの＜教職員ガイド編＞を用いて、防災教育の理念の共有を行い、防災教育の自校化についての説明を行った。また、中学校区単位でのワークショップを行った。その結果、各校の防災教育実践の方向と指導計画自校化のイメージをもつことができた。

○2月に指定校の研修会兼報告会を行い、各地域の実態に合わせた防災教育の実際を参加校同士で共有することができた。

○各実践校では、地域と連携した避難訓練を行うなどの取組が行われるようになり、少しずつ地域と連携した取組が広がってきた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	地域と連携した組織的な見守り活動を行っている学校の割合(%)						R1評価		
	II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	57.5	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標2									
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標3									
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標4									
指標目標									
進捗状況									
指標5									
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標6									
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標7									
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			3期進捗	前年度比
進捗状況									
指標8									
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			3期進捗	前年度比
進捗状況									

< 指標目標の設定型 >

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 地域見守り活動支援事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○「子ども見守り隊」実施要項の集約 ○スクールガードリーダーによる学校訪問及び安全指導 ○地域の連携の場の実施		○「子ども見守り隊」実施要項の集約 ○スクールガードリーダーによる学校訪問及び安全指導 ○地域の連携の場の実施	
当初予算額	2,016 千円	決算額	2,009 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	0 千円	H27	0 千円
H28	0 千円	H28	0 千円
H29	1,063 千円	H29	1,062 千円
H30	737 千円	H30	5,791 千円
R1	2,016 千円	R1	2,009 千円
合 計	3,816 千円	合 計	8,862 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○全ての市立小学校で子ども見守り隊を組織し、児童生徒の登下校の安全確保のために活動している。子ども見守り隊の年度当初のボランティア登録人数は3,274人である。平成29年度末の2,502人、平成30年度末の3,074人と比較して増加している。

○警察官OBのスクールガードリーダーを各区に1名配置し、小中学校の安全点検指導や見守り活動についてのアドバイス等により、見守りの強化を図った。

○全ての市立小学校で、登下校時における防犯対策に関する「地域の連携の場」を設定した。これは、学校、保護者、コミュニティ協議会、自治会、子ども見守り隊、警察、教育委員会等の代表が集まり、地域の危険箇所や危険に対する対応策を検討する場である。今年度はすべての小学校で開催され、各学校で対応策の検討が進んだ。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標1の「見守り活動を行っている学校の割合(%)」が100%で推移していますが、活動の実態(活動頻度や参加人数など)を把握できるデータは存在しますでしょうか。

⇒見守り活動の実態については、セーフティスタッフからこども見守り隊に変わった平成27年度より参加人数を把握しております(下記一覧参照)。活動頻度については、参加者の自由な参加が原則ですので、毎日参加している方もいれば、都合のつく日だけ参加する方もいますので、詳細に把握するのが難しい状況です。

子ども見守り隊 (人)				
H27	H28	H29	H30	R1
2,413	2,420	2,502	3,074	3,302



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	市立学校施設の耐震化率(%)						R1評価	
停止	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		100.0	100.0	-	-	-		
進捗状況	98.0	100.0	100.0	-	-	-		
指標2	H29～市立学校施設の非構造部材の耐震化促進(校)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		-	-	16	8	5	4	62.5%
進捗状況	-	-	-	16	8	5		
指標3	H29～市立学校施設のトイレ改修促進(校)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		-	-	13	13	7	4	53.8%
進捗状況	-	-	-	13	13	7		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標6								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標7								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標8								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 改築事業及び大規模改修事業			
R1事業計画		R1事業成果	
○大規模改修事業等で非構造部材の耐震化及びトイレ改修を実施		○大規模改修事業等で非構造部材の耐震化及びトイレ改修を実施し, 安全かつ快適な学校施設の整備を行った。 ※額は, 大規模改修だけの工事費も含む。	
当初予算額	1,598,400 千円	決算額	1,539,462 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	6,669,200 千円	H27	7,333,239 千円
H28	1,382,900 千円	H28	1,273,048 千円
H29	4,861,700 千円	H29	4,562,744 千円
H30	2,644,400 千円	H30	2,442,098 千円
R1	1,598,400 千円	R1	1,539,462 千円
合 計	17,156,600 千円	合 計	17,150,591 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○計画どおりに工事を実施し、安全かつ快適な学習環境の整備と避難所としての環境整備を進めた。

- ・外壁改修・ガラス入替えなど非構造部材の耐震化5校(牡丹山小, 曾野木小, 横越小, 大通小, 木戸中)
- ・洋式化・乾式化などトイレ改修7校(茨曾根小, 木崎小, 大鷲小, 西川中, 大江山中, 上山中, 牡丹山小)

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標3の「トイレの改修促進校数」ですが、改修が必要な小中学校のうち、どれだけの割合の学校が改修を終了したのでしょうか。  
⇒トイレについては周期的に改修が必要と考えており、老朽化状況を見ながら計画的に改修を進めています。現在は、昭和55年から昭和63年までに建設された校舎のトイレ改修を優先的に実施しており、令和6年度に概ね終了の予定です。それ以降は、全校洋式化率50%を目途に平成に整備された校舎のトイレ改修を進めた後、体育館のトイレ改修に取り組む予定です。なお、昭和に整備されたトイレしかない学校のうち、令和元年度末で未着手の学校は11校となっています。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●施策を構成する事業

指標	就学援助制度の保護者への周知率(%)小学校						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標	就学援助制度の保護者への周知率(%)中学校						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標	奨学生(高校～大学院)の採用率(%)						R1評価	
III型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標	奨学生(社会人)の採用率(%)						R1評価	
指標目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標	ふれあいスクール週当たり開催(日数)→H29～ふれあいスクール年間開催(1校当たり日数)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	2.00	2.10	49	51	53		2	93.0%
進捗状況	1.93	1.97	2.02	49	43	40		
指標	土曜プログラムモデル実施校数(校)→H29～土曜プログラム活用校数(校)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	4	4	20	24	27		5	94.1%
進捗状況	-	4	4	24	34	32		
指標	放課後の学習支援をする中学校(校)						R1評価	
III型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	56	56	56	56	56	56	4	100.0%
進捗状況	-	56	56	56	56	56		
指標	指標8						R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

構成事業1 就学援助事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○学用品費など就学に係る費用の一部を補助 ○市内小中学校のすべての保護者に「お知らせ」を年2回(4月及び10月)配付	○学用品費など就学に係る費用の一部を補助 ○市内小中学校のすべての保護者に「お知らせ」を年2回(4月及び10月)配布 ○市内の保育園・幼稚園に通う5歳児の保護者へ新入学学用品費のチラシを配付	
当初予算額 1,030,657 千円	決算額	950,373 千円
構成事業2 奨学金貸付事業(高校～大学院)		
R1事業計画	R1事業成果	
○奨学金の貸付, 返還 ○募集時に学校などの関係機関を通じて案内チラシの配付を行うとともに, 市内の高校を通じて来年度進学予定の高校3年生に案内チラシを配付	○奨学金の貸付(308名), 返還 ○募集時に案内チラシ配布のほか, 市内高校に通う高校3年生に次年度の案内チラシの配布, 早期制度周知のためポスターを作成し掲示を依頼 ○返還者に返還特別免除制度チラシを納付書に同封	
当初予算額 135,391 千円	決算額	123,502 千円
構成事業3 社会人奨学金貸付事業		
○奨学金の貸付, 返還 ○学校などの関係機関を通じて案内チラシの配付	○奨学金の貸付(2名), 返還 ○商工会議所や学校などの関係機関を通じて案内チラシを配布	
当初予算額 2,400 千円	決算額	800 千円
構成事業4 ふれあいスクール事業(再掲)		
R1事業計画	R1事業成果	
○土曜プログラムモデル校4校でプログラムの内容や実施方法を検討。実施結果を運営主任研修会で報告 ○各校の運営の工夫を研修会や運営委員会, 通信で紹介	○土曜プログラムの活用や運営方法の工夫について, 実践校が運営主任研修会で発表 ○各校の運営の工夫を研修会や運営委員会, 訪問の際に紹介	
当初予算額 30,423 千円	決算額	26,466 千円
構成事業5 アフタースクール学習支援事業(再掲)【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○全市立中学校に学習支援員を配置 ○学習支援員連絡会(5月9日)の実施 ○放課後学習教室の運営	○全市立中学校に学習支援員を配置 ○放課後講座運営 ○学習支援員連絡会(5月9日) ○参加延べ生徒数15,170人	
当初予算額 6,182 千円	決算額	5,897 千円
構成事業6		
当初予算額 千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	1,463,814 千円	H27	1,413,048 千円
H28	1,416,011 千円	H28	1,330,116 千円
H29	1,373,363 千円	H29	1,293,337 千円
H30	1,285,988 千円	H30	1,221,288 千円
R1	1,205,053 千円	R1	1,107,038 千円
合計	6,744,229 千円	合計	6,364,827 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○就学援助は、私立学校も含めて全ての小中学校で、4月に保護者全員に「就学援助制度についてのお知らせ」を配付した。児童生徒数57,506人のうち、認定者12,925人の保護者に対して、学校にかかる学用品費や給食費等の一部を援助し、保護者の経済的負担の軽減を図った。

○奨学金制度は、募集定員98人に対し、83人の申請があり、選考基準を満たす74人を採用決定し、貸し付けを行い、高等教育の機会均等を図った。また、本市への定住促進を図るため、返還者に「返還特別免除制度」チラシを納付書に同封した。

○社会人奨学金制度は、募集定員5人に対し、1人の申請があり、基準も満たし採用を決定し、キャリアアップを目指す社会人学生に対して経済的支援を行った。

◎子どもふれあいスクール事業は、令和元年度に小学校67校で実施した。また、ふれあいスクール運営主任の研修会には、放課後児童クラブの支援員も参加し、ふれあいスクールと放課後児童クラブの連携についての研修や情報交換を行うことで共通理解を図ることができた。ふれあいスクール事業合同研修会参加者数は、第1回研修会5・6月実施参加者211名（うち放課後児童クラブ支援員65名）、第2回研修会10月実施参加者191名（うち放課後児童クラブ支援員52名）。

◎第1回研修会で、土曜プログラムの1つである「けん玉」の実技講習を行った。参加者に実践してもらうことで、土曜プログラムの活用への関心を高めることができた。また、第3回のふれあいスクール事業研修会（2月実施・参加者225名）では、運営の工夫や土曜プログラムの活用について4校からの実践発表を通して、自校での取組に生かそうという参加者の意欲を高めることができた。また、土曜プログラム集を活用してもらうため、研修会で紹介したり、指導者との連絡調整やプログラム実施に向けての指導・助言を行ったりした。

○アフタースクール学習支援事業は、1年間で、のべ15,170人の生徒が参加した。また、アフタースクール学習支援員連絡会を、今年度からの学習支援員を含めた43名で5月に行い、本事業の概要を説明するとともに、代表者の実践発表やグループ協議を通して、これまでの取組の様子や留意事項について情報を共有できた。5月下旬には学習支援員と各校の担当者との打ち合わせを行うことで、年間を通じ計画的な講座の運営を行うことができた。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標3「奨学生（高校～大学院）の採用率」、指標4「奨学生（社会人）の採用率」ともに100%であるが、分母分子はどのような数値を用いていますか。  
 ・就学援助につて生徒数57,506名中認定者12,925人となっているが、これは他の市町村と比較してどうなのか。教えてください。  
 ⇒学力、所得基準などを満たした貸付希望者／R1年度の募集定員です。認定基準額は自治体で異なりますが、全児童生徒数の認定率で見ると政令指定都市では2位、県内では1位です。（H30年度実績）

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	タブレット型コンピュータを整備した小・中学校の割合 (%)						R1評価	
II型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	34.0	68.0	90.0	100.0	100.0	4	100.0%
進捗状況	5.0	34.0	68.0	90.0	100.0	100.0		
指標2	教育ネットワークの構築						R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	/	調査・研究	調査・研究	導入方法検討	計画策定	開発		
進捗状況	-	調査・研究	調査・研究	調査検討	計画(案)策定	構築着手		
指標3							R1評価	
指標目標	/						3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標4							R1評価	
指標目標	/						3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標5							R1評価	
指標目標	/						3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標6							R1評価	
指標目標	/						3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標7							R1評価	
指標目標	/						3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標8							R1評価	
指標目標	/						3期進捗	前年度比
進捗状況								

< 指標目標の設定型 >

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 学校ICT環境整備事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○PC教室の端末等機器の更新(タブレット端末含) ○校内LAN用PCの更新(タブレット端末含) ○教職員PCの更新	○PC教室の端末等の機器更新(端末 デスクトップ型からタブレット736台) ○校内LAN用PCの更新(21校 63台) ○教職員PCの更新(17校 95台)	
当初予算額	873,740 千円	決算額 856,446 千円
構成事業2 教育ネットワーク構築事業【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○教育ネットワーク回線敷設, ネットワーク基盤及び統合型校務支援システム構築	○教育ネットワークの回線敷設着手, 教育ネットワーク基盤および統合型校務支援システム構築業務着手。	
当初予算額	17,430 千円	決算額 7,855 千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	750,275 千円	H27	735,201 千円
H28	809,582 千円	H28	796,482 千円
H29	820,428 千円	H29	839,104 千円
H30	874,489 千円	H30	828,503 千円
R1	891,170 千円	R1	864,301 千円
合計	4,145,944 千円	合計	4,063,591 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○教育用コンピュータ, 校内LANコンピュータ, 教職員用コンピュータの更新は計画どおりに実施されている。  
 ・教育用コンピュータ更新は23校, 計797台(内タブレット736台), 12月末に更新完了。  
 ・校内LAN用コンピュータ更新は21校, 計63台(タブレットの更新対象なし), 12月末に更新完了。  
 ・教職員用コンピュータ更新は17校園, 計95台, 8月末に更新終了。

○教育ネットワーク構築事業について, 通信回線事業者の選定を行い, 回線敷設業務に着手した。また教育ネットワーク基盤および統合型校務支援システムの構築業務について, 仕様書を作成し, 総合評価一般競争入札により事業者を決定し, 構築業務に着手した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より, 第4期実施計画に移行するため, この欄の記述はありません。中間評価の際に, 新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・校内LANやタブレット・コンピューターの整備は進んでいますが, 新潟市全体でみた場合整備の必要な学校に対してどの程度整備が完了していますか。  
 ⇒教育用コンピュータ・校内LANコンピュータ併せて, 平成30年度に目標数を整備済みです。(小学校 16台/校, 中学校 13台/校)

・指標1「タブレット型コンピュータを整備した小中学校の割合」について, 資料5(学務課長談)では, 「タブレット型コンピュータについては, 平成29年度に小学校1校に対して10台, 中学校に13台整備することを目標とし, 平成30年度に台数を確保した次第です」とされていますが, 1校あたり10台程度だと1クラス分に満たないと思いますが, 足りない分はどのように運用しているのでしょうか。  
 ⇒タブレット使用を学級ごとの予約制, または割り当て制とし, 学級内でのグループ学習での利用(3~4人/1台)を想定しています。なお, 「GIGAスクール構想の実現」により, 令和3年1月には児童生徒1人1台の端末整備を予定しています。



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1 ボランティア室整備学校(累計校数)							R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		45	47	57	60	62	4	103.3%
進捗状況	43	46	51	58	60	62		
指標2							3期進捗	前年度比
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標3							3期進捗	前年度比
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4							3期進捗	前年度比
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5							3期進捗	前年度比
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							3期進捗	前年度比
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							3期進捗	前年度比
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							3期進捗	前年度比
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 ボランティア室等の整備			
R1事業計画		R1事業成果	
○新築・大規模改修に伴い2校で整備 ※金額は, 大規模改修等の一部につき省略	○新築・大規模改修に伴い2校で整備 ※金額は, 大規模改修等の一部につき省略		
当初予算額	0千円	決算額	0千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	0 千円	H27	0 千円
H28	0 千円	H28	0 千円
H29	0 千円	H29	0 千円
H30	0 千円	H30	0 千円
R1	0 千円	R1	0 千円
合 計	0 千円	合 計	0 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○コミュニティの拠点となるボランティア室の設置について、新築工事及び大規模改造工事で整備を行った。  
 ・整備実施2校(新通つばさ小, 木戸中)

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・ボランティア教室の整備は、必要な学校でほぼ完了しているのでしょうか。今後も整備の予定があるのか、教えてください。  
 ⇒新潟市学校施設整備指針において、学校運営を支援する諸団体の活動を促進するため、校地内にボランティア室を設置することとしており、改築や大規模改造に合わせて整備を進めています。指標の「ボランティア室整備校」を含め、現在は117校(小学校74校, 中学校42校, 中等教育学校1)に地域開放している部屋が設置されています。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	大規模改修整備校数(校)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	14	12	16	8	5		4	62.5%
進捗状況	15	12	6	16	8	5		
指標2							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標3							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標4							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標5							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標6							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標7							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								
指標8							3期進捗	前年度比
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30			
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 改築・新築, 大規模改修及びその他の老朽改修事業【新規】			
R1事業計画		R1事業成果	
○大規模改修工事を5校で実施 ※金額は, 10-(3)と一部重複		○大規模改修工事を5校で実施した。 ※金額は, 10-(3)と一部重複	
当初予算額	1,356,900 千円	決算額	1,304,013 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	4,024,400 千円	H27	3,738,300 千円
H28	3,277,000 千円	H28	1,933,387 千円
H29	4,685,900 千円	H29	4,393,474 千円
H30	2,337,600 千円	H30	2,237,695 千円
R1	1,356,900 千円	R1	1,304,013 千円
合 計	15,681,800 千円	合 計	13,606,869 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○計画どおり大規模改修工事を実施し、安心・安全で快適な学習環境の整備を行った。  
 ・大規模改修実施5校(牡丹山小, 曾野木小, 横越小, 大通小, 木戸中)

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
3.7

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値 ÷ 前年度進捗状況値 × 100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	生涯学習相談件数(件)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		300	310	320	330	340	4	126.1%
進捗状況	297	296	307	326	261	329		
指標2	図書館資料予約件数(件)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		694,000	706,000	718,000	731,000	743,000	4	101.3%
進捗状況	643,178	726,836	747,277	740,125	756,056	765,876		
指標3	市民一人当たりの図書館資料(雑誌、AVを含む)貸出点数(点)						R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		5.82	5.92	6.02	6.12	6.22	3	98.5%
進捗状況	5.71	5.83	5.67	5.44	5.43	5.35		
指標4	郷土資料のデジタルアーカイブ化・国立国会図書館のデジタル資料閲覧サービスの提供						R1評価	
指標目標		試行・閲覧	実施・閲覧	実施・閲覧	実施・閲覧	実施・閲覧		
進捗状況	-	実施・閲覧	実施・閲覧	実施・閲覧	実施・閲覧	実施・閲覧		
指標5							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
I型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 学習情報の収集・提供・相談事業(再掲)		
R1事業計画	R1事業成果	
○生涯学習の収集・提供及び学習相談 ○パソコン初心者向け講習会 ※予算は9-(6)に計上	○生涯学習の収集・提供及び学習相談 ○生涯学習ボランティアバンクの周知 ○生涯学習ボランティアバンク自主企画講座 ○パソコン初心者向け講習会 ※決算は9-(6)に計上	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2 図書館サービス向上事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○配本車の運行 ○図書館情報システムの維持管理 ○図書館情報システムの更新 ○「新潟広域都市圏連携協約」に伴う図書館相互利用の継続	○配本車の運行 ○図書館情報システムの維持管理 ○図書館情報システムの更新 ○「新潟広域都市圏連携協約」に伴う図書館相互利用の継続	
当初予算額	163,825千円	決算額 165,651千円
構成事業3 電子図書館機能の整備【新規】		
○国立国会図書館のデジタル資料閲覧サービスの提供 ○新潟県立図書館「越後佐渡デジタルライブラリー」への参加 ○デジタルアーカイブ公開資料の追加(予算は図書館情報システム経費に含まれる)	○国立国会図書館のデジタル資料閲覧サービスの提供 ○新潟県立図書館「越後佐渡デジタルライブラリー」への参加 ○デジタルアーカイブ公開資料の追加(決算は図書館情報システム経費に含まれる)	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	149,308 千円	H27	143,940 千円
H28	114,008 千円	H28	110,821 千円
H29	115,142 千円	H29	112,503 千円
H30	114,270 千円	H30	114,996 千円
R1	163,825 千円	R1	165,651 千円
合 計	656,553 千円	合 計	647,911 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

◎市民の多様な生涯学習活動を支援するため、「研修・講演 講師紹介ガイド」による人材・講師情報の提供を行った。

◎生涯学習に関する豊かな知識や経験、優れた技能を有する地域の人材の有効活用を図るとともに、市民の学習活動の成果を地域社会に還元するためボランティアバンクを設置し、登録されたボランティアの派遣を実施した。また、活躍の場を広げるため、地域コミュニティ協議会への情報提供に向けて、各区地域(総務)課と連携を図った。

◎市民の学習活動に関する相談に応じるため、生涯学習相談ボランティアによる学習情報の収集・提供及び学習相談を実施するとともに、同ボランティアのスキルを高めるための研修会や情報交換を行った。

◎パソコン指導ボランティアによるパソコン初心者向け講習会(R1年度よりパソコン若葉Excel編を開設)を実施し、市民の主体的な学習活動を支援するとともに、ボランティアのスキルを高めるための研修会を行った。

○「新潟広域都市圏連携協約」に伴う図書館相互利用を継続した(新潟市と図書館相互利用協定を結んでいる自治体:新発田市、五泉市、阿賀野市、聖籠町、燕市、胎内市、弥彦村、田上町、阿賀町)。

○図書館情報システム更新のため、入札で機器調達を行った。また、図書館情報システムの新しいバージョンについて、保守事業者と設計・開発を行ったり、全館への端末設置の段取りを決めたりして、システム更新を行った。

○「新潟市立図書館デジタルアーカイブ」のページで、新津図書館の7点の郷土資料デジタルデータを公開した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等



●R1施策評価

3期進捗平均
4.3

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	各研修講座における受講者の満足度と活用度(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		80.0	85.0	85.0	88.5	90.0	4	99.2%
進捗状況	80.0	87.0	87.5	88.1	91.1	90.4		
指標2	マイスター養成塾修了者(名)						R1評価	
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		102	108	110	128	133	4	105.5%
進捗状況	102	103	110	121	128	135		
指標3	学社民融合研修会の実施(回)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		7	7	7	8	8	5	137.5%
進捗状況	7	7	7	8	8	11		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 教育関係職員の研修プログラムの一層の充実		
R1事業計画	R1事業成果	
○キャリアステージ研修(法定研修, 若手教師道場, マイスター養成塾等) ○専門研修(組織力向上研修, 授業力向上研修等)	○キャリアステージ研修(法定研修, 若手教師道場, マイスター養成塾等) 4,353名 ○専門研修 3,379名	
当初予算額	7,789 千円	決算額 6,263 千円
構成事業2 学社民融合研修の推進		
R1事業計画	R1事業成果	
○パートナーシップ事業研修会(3回) ○ふれあいスクール研修会(3回) ○公民館全職員研修 ○生涯学習管理職研修 ○社会教育主事キックオフ研修 ※1項目目, 2項目目の当初予算額は9-(1)に掲載	○パートナーシップ事業研修会(3回) 延べ参加者数1,020名 ○ふれあいスクール研修会(3回) 延べ参加者数627名(放課後児童クラブ支援員含む) ○公民館全職員研修(1回)参加者94名 ○生涯学習関係新任職員研修(1回)28名 ○生涯学習関係管理職研修(1回)参加者 40名 ○社会教育主事キックオフ研修(2回) 15名	
当初予算額	143 千円	決算額 110 千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額		決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	6,167 千円	H27	4,034 千円
H28	6,482 千円	H28	4,792 千円
H29	10,652 千円	H29	8,870 千円
H30	8,699 千円	H30	6,539 千円
R1	7,932 千円	R1	6,373 千円
合 計	39,932 千円	合 計	30,608 千円

注: 再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○令和元年度に教育関係職員の研修プログラムとして実施した講座は以下のとおりである。

- ・キャリアステージ研修 49講座 延べ受講者数 4,353人
- ・専門研修 57講座 延べ受講者数 3,379人

(計 106講座 延べ受講者数 7,732人)

○キャリアステージ研修における初任者研修、若手教師研修及び中堅教諭等資質向上研修については、いずれも過去10年間で最高となる受講者数となったが、これまで大切にしてきた「マンツーマンによる授業づくり」の体制を堅持し、受講者一人一人のニーズに応じた研修を実施した。その結果、講座修了後に実施する受講者の満足度評価では、4段階のA評価の割合が90.4%となるなど、受講者に高い評価を受けた。

○マイスター養成塾では、平成29年度入塾生3名、平成30年度入塾生7名、令和元年度入塾生4名、計14名が受講した。2年目の受講者に対して各自が抱える課題とその解決策を授業研究が始まる前に協議する場を設けるなど、より効率的・効果的な指導ができるような工夫を取り入れた。一方、マイスター養成に当たる指導主事が所内で月2回の指導主事研修を実施する等、指導側の力量向上を図る取組も継続している。大きな伸びを見せる受講者が目立ち、研修成果は着実に上がっているといえる。

○第1回パートナーシップ事業研修会(5月9日・13日・16日)に公民館の学社民融合支援主事、図書館職員が参加して、地域教育コーディネーターとの情報交換を行い、地域教育コーディネーターと社会教育施設とのネットワークづくりを促した。第2回研修会(7月31日)では、新任校長を対象として実施した。

○子どもふれあいスクール事業は、令和元年度に小学校67校で実施した。また、ふれあいスクール運営主任の研修会には、放課後児童クラブの支援員も参加し、ふれあいスクールと放課後児童クラブの連携についての研修や情報交換を行うことで共通理解を図ることができた。ふれあいスクール事業合同研修会参加者数は、第1回研修会5・6月実施 参加者211名(うち放課後児童クラブ支援員65名)、第2回研修会10月実施 参加者191名(うち放課後児童クラブ支援員52名)。

○第1回研修会で土曜プログラムの1つである「けん玉」の実技講習を行った。参加者に実践してもらうことで、土曜プログラムの活用への関心を高めることができた。また、第3回のふれあいスクール事業研修会(2月実施 参加者225名)では、運営の工夫や土曜プログラムの活用について4校からの実践発表を通して、自校での取組に生かそうという参加者の意欲を高めることができた。また、土曜プログラム集を活用してもらうため、研修会で紹介したり、指導者との連絡調整やプログラム実施に向けての指導・助言を行ったりした。

○「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」を推進するため、生涯学習関係職員としての専門的知識と資質の向上を図る、生涯学習関係新任職員研修や管理職研修及び社会教育主事キックオフ研修を実施した。管理職研修では「コミュニティ・スクール導入に伴う学・社・民の力」をテーマに、同スクールを契機とした社会教育施設の可能性について意見交換した。社会教育主事キックオフ研修では、演習を通して事業の企画・立案のスキルを高めた。

○公民館全職員を対象とした研修会を11月に実施。公民館職員として必要となる事業企画力向上に取り組んだ。

● 推進委員からの意見・要望等

・3つ目の○最終行「(マイスター養成塾では)…大きな伸びを見せる受講者が目立ち、研修成果は確実に上がっているといえる。」とありますが、実際に力量向上を客観的に示すエビデンス等がありますでしょうか。

⇒マイスター養成塾では、長年を掛け作り上げた25観点(下記の表)による授業評価を行っています。受講者は2年間に10回以上の授業研修に取り組み、その度に授業評価を受けます。最終的にそれらの結果を総合して、外部の学識経験者による「認定審査委員会」によって認定されます。マイスターにふさわしいと判断されるためには、全ての授業研修で平均80%(20/25観点)をクリアすることが求められます。令和元年度の受講者については、5月の平均ポイントが61.0%であったものが、年度末には80.4%へと向上しています。

マイスター養成塾授業評価規準	
1 全ての子どもが学習に参加し、目を輝かせて課題を追究している。	14 机間指導やネームプレートの活用等により的確に実態を把握し、それに合わせて意図的指名、個別に配慮した支援等を行っている。
2 子どもに学ぶ喜びや考える楽しさ、成長を味わわせている。	15 学習内容や学びの過程が明確に分かる板書等をしている。
3 単元・題材の目標が明確であり、単元・題材の評価規準の設定が適切である。	16 書き方のルールが指導され、子どもが自分の考えを整理するとともに、学習を振り返ることができるノート等を作っている。
4 単元・題材の目標や子どもの実態を基に教材分析・解釈を行うとともに、必要な手立てを講じている。	17 課題解決に向けた話し合いや体験的な活動を通して、子ども同士が気付きや考えを交流している。
5 教材分析・解釈のもと、学習内容を明確にし、子どもの興味・関心、子どもの実態を把握した上で、本時のねらいを設定している。	18 交流における子どもの多様な考えを整理し、価値付けることにより、子どもが学びを共有し深めている。
6 ねらい達成の規準となる授業終末の子どもの姿が具体的に想定されており、その方法及び基盤が適切である。	19 子どもの言葉を生かしながら、学習課題に正対して本時の学習のまとめを行っている。
7 教材の価値や子どもが学ぶ意義を明らかにし、子どもの実態を踏まえた教材分析・解釈を行っている。	20 子どもが学びを自覚するよう、学習の過程や変容を振り返らせたり、類題や発展問題を解かせたりしている。
8 子どもが課題解決に向かい、ねらいを達成するため、適切かつ明確な手立てを講じている。	21 適切な評価に照らして、子ども一人一人に本時のねらいが達成されている。
9 本時のねらいと子どもの実態、指導構想とが整合している。	22 子どもが落ち着いて学習に集中できるよう、授業時間が守られ、教室環境が整えられている。
10 子どもの興味・関心や問題意識を基に学習課題を設定している。	23 基本的な学習ルールが身に付き、違う考え方や見方を認め合う学習集団を組織している。
11 意図的な教材提示や教員の活用を行うことにより、子どもがやってみたい、考えてみたいという意欲をもって、追究に向かっている。	24 子どもの言動を共感的に受け止め、良好なコミュニケーションをとっている。
12 明確で分かりやすい発問や補助発問により、子どもが教材や対象と主体的に関わり、見通しをもったり活発に思考したりしている。	25 必要に応じて、人権感覚をもって適切な注意や言葉掛けをしている。
13 適切で端的な説明・指示により、子どもが目的や方法を理解して活動に向かっている。	

●R1施策評価

3期進捗平均
3.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	放課後に子どもと接する時間が1週間あたり5時間以上の教員の割合(%)→H30~月当たり平均時間外勤務時間が45時間以下の教職員の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		65.0	66.0	66.0	70.0	70.0	4	107.5%
進捗状況	64.2	65.8	64.9	50.3	63.8	68.6		
指標2	教職員の病気休暇・休職者(30日以上)のうち精神疾患者の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		41.5	41.5	38.0	38.0	41.5	2	91.3%
進捗状況	43.9	42.1	38.9	38.3	44.8	48.7		
指標3	支援を要する教職員(人)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		14	14	13	13	14	3	100.0%
進捗状況	15	15	14	14	15	15		
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 多忙化解消対策の推進		
R1事業計画	R1事業成果	
○第2次多忙化解消行動計画の推進 ○時間外勤務時間の把握 ○スクールロイヤーによる相談支援 ○管理職を対象にした働き方改革研修会 ○コンサルタントによる事務局業務の見直し ○学校事務支援員の配置等	○第2次多忙化解消行動の推進・行動計画の改定 ○時間外勤務の把握 ○スクールロイヤーによる相談支援 ○管理職対象働き方改革研修会開催 ○コンサルタントによる事務局業務見直し ○学校事務支援員の配置	
当初予算額	18,889 千円	決算額 18,579 千円
構成事業2 教職員ヘルスケアシステム		
R1事業計画	R1事業成果	
○教職員健康管理委員会開催 ○職場復帰のための支援体制整備 ○メンタルヘルス相談体制充実 ○職員研修の開催 ○長時間労働者医師面談	○心と体の相談室(相談38件) ○メンタルヘルス研修・講座(4回・約250名受講) ○職場復帰支援プログラム(対象者延5名) ○教職員健康管理委員会(審査延85件) ○長時間労働者保健指導(対象者45名)	
当初予算額	678 千円	決算額 757 千円
構成事業3 支援を要する教職員の研修		
○対象教職員に対する指導力向上研修の実施 ○指導が不適切な教職員に関する委員会の開催	○対象教員に対する指導力向上研修の実施 ○指導が不適切な教職員に関する委員会の開催	
当初予算額	108 千円	決算額 63 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	989 千円	H27	836 千円
H28	968 千円	H28	562 千円
H29	1,121 千円	H29	868 千円
H30	920 千円	H30	820 千円
R1	19,675 千円	R1	19,399 千円
合 計	23,673 千円	合 計	22,485 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○多忙化解消対策の推進  
 ・管理職対象の働き方改革研修会を通して、第2次多忙化解消行動計画の具体的な方策や自校の取組についての認識を深めた。  
 ・全市立学校園の各校一取組を集約し、各学校へ紹介するとともに、学校訪問等での支援に生かした。  
 ・出退校簿の入力フォームを改良し、円滑な教職員の勤務実態の把握に努め、前年度に比べて時間外勤務時間の減少につながった。  
 ・8月13日から15日の間を「学校閉庁日」、8月8日・9日・16日・19日、12月27日を「休暇取得促進日」として、教職員の休暇取得の促進に努めた。  
 ・勤務時間外の電話対応の統一ルールを定め、6月より全市の学校園で実施した。  
 ・教員の事務作業の負担軽減を図るため、国のスクールサポートスタッフ配置事業を活用し、17名の学校事務支援員を、学級数の多い小学校を中心に配置した。  
 ・働き方改革研修会「やろてば新潟フォーラム」を1回、約230名が参加する中で実施し、成果の共有と発信を行った。  
 ・多忙化解消検討会において、「第2次多忙化解消行動計画」の進捗について確認し、改定した。

○教職員ヘルスケアシステム  
 ・各種研修を計画通り実施することで、教職員の健康管理に対する意識を高めることができた。(新任管理職研修等、既存の研修に組み入れた研修、職種や経験年数に応じたメンタルヘルス研修)  
 ・健康管理委員会を開催し、教職員の休職の要否や復職の可否等について、病状の検討や判定を行った。委員の助言を勤務校に伝えることで、スムーズな復職への支援の一助とすることができた。  
 ・精神疾患による療養休暇者・分限休職者に対し、職場復帰への準備と再発防止を図るため、職場復帰支援プログラムを行った。  
 ・教職員のための健康相談窓口を開設し、教職員の健康不安の軽減と健康保持増進を図った。  
 ・長時間労働を行った教職員に対して医師による面接指導を行い、教職員の健康障がい防止を図った。

○支援を要する教職員の研修  
 ・学校訪問の際に、支援を要する教職員の状況について確認し、校長と連携して校内研修の充実を図った。  
 ・学校からの要請により、総合教育センター及び学校支援課と連携して支援を要する教職員に対する研修を行い、指導力向上を図った。  
 ・支援を要する教職員に関する委員会(3月3日)において、本年度研修の成果と課題を明らかにした。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標2の教職員の精神疾患の割合ですが、新潟市のデータは新潟県全体の平均と比較してどうでしょうか。また全国との平均が分かるのであれば、それとはどうでしょうか。  
 ⇒教職員の病気休暇・休職者(30日以上)のうち精神疾患者の割合ですが、近年、新潟市は、新潟県全体の平均および国全体の平均と比較して、精神疾患者の割合が低い状況で推移しています。

	市	新潟県	全国
H28年度	38.9%	49.4%	48.6%
H29年度	38.3%	50.4%	49.9%
H30年度	44.8%	53.5%	51.9%
R1年度	48.7%	R2年12月に発表	

・1つ目の○「多忙化解消対策の推進」について、教職員の時間外勤務時間が減少してきている様子が伺え、各種施策の成果が現れてきているものと思います。成果がさらに、教職員のワークライフバランスの向上、ひいては教育の質の向上につながっていくことを期待しております。  
 ⇒引き続き、学校園と教育委員会、保護者・地域が一体となって、教職員の長時間勤務縮減のための取組を進め、魅力ある教職員を育成し、質の高い教育活動を行っていきます。



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合  
 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕  
 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕  
 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕  
 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕  
 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>  
 当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	出願倍率(倍)(出願数/採用者数)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		4.2	4.9	3.6	3.1	3.0		
進捗状況	4.1	5.5	4.3	3.4	2.6	3.8	5	146.2%
指標2	女性管理職等(教頭, 主幹教諭, 主任)の割合(%) ※次年度4月1日現在における目標値						R1評価	
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		38.0	38.0	37.0	38.0	40.0		
進捗状況	36.0	35.4	36.3	36.1	36.0	38.9	4	108.1%
指標3	マイスター配置校の割合(%)※マイスター のいる市立学校の割合						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		28.0	30.0	33.0	38.0	40.0		
進捗状況	27.8	29.5	32.7	36.0	38.4	37.8	3	98.4%
指標4								
指標目標								
進捗状況								
指標5								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標6								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標7								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								
指標8								
指標目標	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
進捗状況								

<指標目標の設定型>  
 I型: 第3期実施計画の5か年分を設定  
 II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定  
 III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
 (原則として前年度設定値以上)  
 IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 教員採用選考検査		
R1事業計画	R1事業成果	
○教員採用選考検査の実施 ○翌年度の教員採用選考検査計画案の作成 ○人材確保のための工夫・改善	○教員採用選考検査の実施 ○人材確保のための工夫・改善の実施	
当初予算額	3,537 千円	決算額 2,628 千円
構成事業2 管理職選考検査		
R1事業計画	R1事業成果	
○管理職選考検査の実施 ○管理職の登用 ○翌年度の管理職選考検査の計画案作成 ○女性管理職の登用・人材育成	○管理職選考検査の実施 ○管理職の採用・登用の審議・決定・通知 ○翌年度の管理職選考検査の計画案検討 ○主任層への女性教員の抜擢, 女性教員への啓発等	
当初予算額	71 千円	決算額 60 千円
構成事業3 適材適所の人員配置		
○異動方針・基準の周知徹底を図るとともに, 全市的視野に立ち, 校種間の連携を促進するために, 異校種間の異動を積極的に推進 ○学校課題に即した非常勤講師の配置	○異動方針・基準の周知徹底を図るとともに, 全市的視野に立ち, 校種間連携を促進するための校種間異動の積極的な推進のために, 異校種間の異動を積極的に推進 ○学校課題に即した非常勤講師の配置	
当初予算額	16,046 千円	決算額 16,293 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	19,068 千円	H27	13,008 千円
H28	16,250 千円	H28	13,276 千円
H29	20,580 千円	H29	13,998 千円
H30	22,020 千円	H30	12,768 千円
R1	19,654 千円	R1	18,981 千円
合計	97,572 千円	合計	72,031 千円

注：再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○ 教員採用選考

・今年度、採用選考検査の検査内容を精選した。論文、集団面接、小学校教諭・特別支援学校教諭の実技検査の実施を取りやめた。第1次検査が2日間から1日間、第2次検査が3日間から2日間(受検者が受けるのは1日間)とし、受検者の負担軽減を図った。  
 ・特別選考の対象を拡大した。教職経験者特別選考の出願要件となる勤務経験年数を3年以上から3年以上の見込み、社会人特別選考の勤務経験を5年以上から3年以上の見込みとし、即戦力として期待できる出願者の確保を図った。  
 ・障がい者特別選考の対象者の拡大、免許状取得見込みを加点申請の対象とすること、「大学院進学者名簿」への登録者を修了後、検査なしで採用することなども行った。  
 ・以上の結果、出願者が512人となり昨年度の367人より145人増加した。  
 ・内定者を対象としたアンケートでは、新潟市を志望した理由として、最も多かったのが「新潟市の出身」であり、「新潟市の魅力」「新潟市の教育の魅力」が続いた。HPやSNSを通じてこれらのことをPRしてきた成果と考えられる。このアンケートの結果も踏まえ、次年度の採用選考検査の実施内容や方法、広報活動の在り方を検討した。

○ 管理職選考

・新潟市立学校について管理職選考(校長・教頭等)を実施した。  
 ・受検者数は、校長選考検査受検者94人(昨年度98人)、教頭等選考検査受検者147人(昨年度167人)。  
 ・令和元年7月30日に第一次検査を実施。検査会場を新潟市総合教育センターとし、円滑に運営ができた。

○ 教職員の適材適所への配置

・教育ビジョンの基本施策「校種間・学校間連携を活かした特色ある学校・園づくり」に向け、異校種への転配置を一般異動として行った。  
 ・新採用5年目終了者の異動(養護教諭は除く)については、市外勤務に加えて、市内の小・中・高・中等・特支の異校種への異動を積極的に行った。

○ 女性管理職の登用

・管理職選考検査の女性受検者の人数：女性受検者数は校長15人(H30)→16人(H31)、教頭23人(H30)→22人(H31)と、昨年度と比較して、校長受検者で1人増、教頭等受検者で1人減となった。

○ 非常勤講師の配置

・道徳著名人特別非常勤講師、専科非常勤講師(理科、音楽等)、免外解消非常勤講師など各校の課題に応じて非常勤講師を配置した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・指標1「教員採用選考検査出願倍率」について、昨今、教員採用試験受験者の減少がニュースになりますが、指標1の出願倍率はH30:2.8倍となっています。文科省「令和元年度公立学校教員採用選考試験の実施状況」によれば、H30年度:3.3倍、R1年度:2.5倍となっています。これは基になるデータが異なるのでしょうか。  
 ⇒例えば、H30年度における倍率の記載は、教育ビジョン施策最終評価においてはH30年度に実施したR1年度採用に係る倍率を、文科省資料においてはH29年度に実施したH30年度採用に係る倍率を示しています。また、教育ビジョン施策最終評価においては「出願者数/採用者数」であり、文科省資料においては「受験者数/採用者数」であるため、若干の相違が生じています。なお、教育ビジョン施策最終評価におけるH30年度の倍率は、「2.6」倍が正しいため、そのように訂正します。

・指標3「マイスター教員の配置割合」ですが、マイスター教員の実数が増えないと配置割合は増えないと思います。マイスター教員を増やす対策の強化などは検討されていますか。  
 ⇒マイスター希望者の増加を図るために、マイスターが行う授業を公開する公開授業講座やマイスターによる若手指導などの参画事業を推進しています。また、昨年度、新たにマイスターの自主的な「ワークショップ研修」を企画したことで、教員たちの一層のあこがれの存在となっています。さらに、昨年にはマイスターの入塾資格を8年以上経験者から5年以上経験者へと引き下げ、門戸を拡大することで一層の入塾希望者の増加を図るとともに、入塾者に対しては、指導主事によるマンツーマン研修授業や指導案の検討等を通して、マイスターの着実な育成を行っています。



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	評価者研修受講者の充実度(満足度)が高い人の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	4	104.3%
進捗状況	87.3	88.7	88.0	88.7	88.7	92.5		
指標2	優秀教職員の表彰						R1評価	
Ⅳ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		実施	実施	実施	実施	実施		
進捗状況	-	実施	実施	実施	実施	実施		
指標3	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 教職員の人事評価制度の実施・改善		
R1事業計画	R1事業成果	
○教職員人事評価の実施 ○評価者研修の実施 ○令和2年度に使用する評価シートの検討	○教職員人事評価の実施 ○評価者研修の実施(6回) ○有識者を交えた人事評価に係わる懇談会の開催 ○新しい評価シートの開発	
当初予算額	408 千円	決算額 117 千円
構成事業2 教職員表彰制度		
R1事業計画	R1事業成果	
○被表彰者の選考と表彰の実施	○10名の教職員を選考し, 優秀教職員として表彰	
当初予算額	35 千円	決算額 37 千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	966 千円	H27	934 千円
H28	788 千円	H28	778 千円
H29	563 千円	H29	365 千円
H30	460 千円	H30	185 千円
R1	443 千円	R1	154 千円
合 計	3,220 千円	合 計	2,416 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

- 年間で定められた時期に管理職との面談が行われ、教職員一人一人の資質や指導力を発揮できるような目標が設定されている。
- 能力態度評価と業績評価による評価制度のシステムが定着し、PDC Aのサイクルが順調に機能している。
- 1・2年目の校園長・教頭に対する評価者研修を開催した。(6回)評価の理論と具体的な演習の両面から評価者の意識と力量を高めることができた。
- 教育委員会表彰に計23名の推薦があった。選考委員会で10名の表彰者を決定し、表彰式を実施した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	区教育ミーティングの開催(回)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		16	16	16	16	16	4	100.0%
進捗状況	16	16	16	16	16	16		
指標2	中学校区教育ミーティングの実施回数(累計中学校区数)→H29~(中学校区数)						R1評価	
Ⅱ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		32	56	28	28	16	4	57.1%
進捗状況	8	32	56	28	28	16		
指標3							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 区教育ミーティングの開催【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○各区年2回実施	○各区年2回実施	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2 中学校区教育ミーティングの開催【新規】		
R1事業計画	R1事業成果	
○市内16中学校区で実施	○市内16中学校区で実施	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	0 千円	H27	0 千円
H28	0 千円	H28	0 千円
H29	0 千円	H29	0 千円
H30	0 千円	H30	0 千円
R1	0 千円	R1	0 千円
合 計	0 千円	合 計	0 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○区教育ミーティング

・区教育ミーティングを各区2回実施した。  
 ・区教育ミーティングでは、令和元年度の教育委員会の施策や、地域と学校パートナーシップ事業、コミュニティ・スクール制度について情報提供し、施策全般及び「保護者・地域・学校の連携」をテーマとし意見交換を行った。地域で目指す子どもの姿を共有し、育む体制づくりにつなげるため、地域における現状や課題について、参加者と教育委員で活発な意見交換が行われた。

○中学校区教育ミーティング

・中学校区教育ミーティングを16中学校区で実施した。  
 ・中学校区教育ミーティングでは、「保護者・地域・学校の連携」をテーマとし、これまで取り組み実践したのについて振り返り、地域で目指す子どもの姿について、これから保護者・地域・学校で連携・協力できることについて、参加者と教育委員で活発な意見交換が行われた。  
 ・「令和元年度全国学力・学習状況調査結果」の説明を行い、学力分析、向上について意見交換が行われた。

※中学校区教育ミーティングについては、平成29、30年度は2か年で全中学校区で実施してきたが、令和元年度以降は3か年で全中学校区で実施すると変更したため、指標目標も28から16に変更した。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	例規整備やシステム構築などの権限移譲準備						R1評価	
停止	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	人給構築	人給稼働	-	-	-	-		
進捗状況	-	基本計画策定	人給稼働	-	-	-		
指標2	H29～教育行政の効果的・効率的な執行体制の整備と市長部局との連携を図るため、「新潟市総合教育会議」を共同開催						R1評価	
IV型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標	-	-	協議・開催	協議・開催	協議・開催	協議・開催		
進捗状況	-	-	協議・開催	協議・開催	協議・開催	協議・開催		
指標3							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8							R1評価	
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 県費負担教職員の権限移譲準備【新規】			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業2 新潟市総合教育会議の開催【新規】			
R1事業計画		R1事業成果	
○市長部局と連携を図り, 教育行政の効果的・効率的な執行体制の整備や, 教育課題に的確に対応することを目的とした年2回の総合教育会議の運営		○総合教育会議を令和元年度中に2回開催し, 会議録をホームページ上で公表した。	
当初予算額	0千円	決算額	27千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	126,415 千円	H27	63,455 千円
H28	174,219 千円	H28	170,308 千円
H29	0 千円	H29	41 千円
H30	0 千円	H30	37 千円
R1	0 千円	R1	27 千円
合 計	300,634 千円	合 計	233,868 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○総合教育会議を2回開催した。

・第1回目の会議では、令和2年度から始まる「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」について、本市の教育ビジョンに掲げている基本目標の実現に向けた考え方や視点、取組について意見交換を行った。会議では、第4期実施計画(案)の中心となる考え方である「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成～学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり～」とそれを実現するための5つの視点について事務局から説明し、教育委員が教育ビジョン第4期実施計画に対する思いや意見を発表した。市長からは、視点に対する各取組への重要性や市長部局との連携の必要性を確認でき、これらを踏まえて次回会議にて本市の教育の大綱案を示すとの発言があった。

・第2回目の会議では、「新潟市教育の大綱について」と「令和2年度 教育施策について」の2つの議題について協議を行った。令和元年度末で計画期間が終了する本市の「教育の大綱」について、市長から示された改定案について協議を行い令和2年度以降の教育の大綱を決定した。改定案は、計画期間中である「にいがた未来ビジョン」の方向性を尊重し、令和2年度から実施する「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」の考え方を踏まえたものであることを市長と教育委員会で確認した。また、令和2年度の教育施策について、重点事業や主な事業の取組内容と課題について意見交換を行い、今後も市長部局と教育委員会が連携して「教育の大綱」に掲げる「目指す子どもの姿、市民の姿」の実現に向けて取組を進めていくこととした。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等



●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	にいがた共育通信(発行回数)						R1評価	
停止	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		4	4	-	-	-		
進捗状況	4	4	4	-	-	-		
指標2	H29～にいがた共育通信を読んで「教育ビジョンの施策内容について理解できた」と回答した人の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		-	-	90.0	90.0	90.0		
進捗状況	-	-	-	88.9	94.3	90.6	4	96.1%
指標3								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標4								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標5								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標6								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標7								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
指標8								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 教育情報発信事業		
R1事業計画	R1事業成果	
○新潟市のホームページで情報発信を行う。 ○4月から毎月1回を目途に発信する。 ○学校教育や社会教育での取組を紹介するとともに、教育ビジョン第4期実施計画の意見募集に関する内容を掲載する。	○新潟市のHPを用いた「にいがた共育通信」を概ね月1回, 計13回発信することができた。 ○学校教育及び社会教育の取組を紹介するとともに、教育ビジョン第4期実施計画の意見募集案内等の掲載を行った。	
当初予算額	0千円	決算額 0千円
構成事業2		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業3		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業4		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業5		
当初予算額	千円	決算額 千円
構成事業6		
当初予算額	千円	決算額 千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	1,646 千円	H27	1,464 千円
H28	1,232 千円	H28	1,089 千円
H29	1,232 千円	H29	1,066 千円
H30	0 千円	H30	0 千円
R1	0 千円	R1	0 千円
合 計	4,110 千円	合 計	3,619 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○新潟市ホームページによる「いがた共育通信」の発信を以下のとおり行った。

【4月 新潟市就学援助・新潟市奨学金などの紹介 第60号】  
 【5月 各校園の特色ある取組の紹介 食育(大鷲小学校) 保健室指導(大形中学校) 第61号】  
 【6月 夏季就学相談会の案内 第62号】  
 【7月 教育ビジョン第4期実施計画案(バブコム)のお知らせ 指定都市学校保健協議会の報告 第63号】  
 【9月 大好きいがた体験事業の紹介(岩室中学校・笹山小学校) 第64号】  
 【9月 わたしの主張新潟市地区大会, ウェルカム参観日の報告 第65号】  
 【9月 生涯学習センターの取組 第66号】  
 【11月 公民館の取組・家庭教育支援 第67号】  
 【11月 図書館の取組・読書会 北信越地区学校図書館研究大会の報告 第68号】  
 【12月 笹山小学校閉校記念式典の様子 いじめ防止市民フォーラムの報告 第69号】  
 【1月 教職員の研修の様子 安心して学べる学校園の施設整備 教育ビジョン推進委員の募集 第70号】  
 【2月 新潟市立幼稚園の紹介 統合型校務支援システムの導入について 第71号】  
 【3月 新通つばさ小学校の開校 全国学力・学習状況調査及び全国体力等調査の結果 第72号】

○毎回情報発信した時点で、市立各校園及び教育委員会の各所属へ紹介メールを送り、職員へ周知を行った。さらに、学校の取組紹介の記事については、各校のメール配信システムでアドレスを一斉送信をしたり、学校便りに二次元バーコードの掲載依頼を行ったりし、該当校の保護者にも周知してもらうよう働きかけを行った。

○7月には全市立校園へHPへのリンク(バナー)貼付けのお願い、保護者への配信メールでリンク(HPアドレス)の送信をお願いした。また、12月には各市立校園の教職員及び保護者、さらに市民に紹介チラシを配付しアンケート依頼を行った。297件の回答があり、肯定的評価は90.6%、今後も取り上げてほしいテーマとして多かったものは、「子どもたちの活動の様子」「各校の特色ある教育活動」「地域と学校の連携した取組」「今後の教育の動向」であった。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

●R1施策評価

3期進捗平均

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100 (%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	R1評価						
	H26	H27	H28	H29	H30	3期進捗	前年度比
指標目標							
進捗状況							
指標2							
指標目標							
進捗状況							
指標3							
指標目標							
進捗状況							
指標4							
指標目標							
進捗状況							
指標5							
指標目標							
進捗状況							
指標6							
指標目標							
進捗状況							
指標7							
指標目標							
進捗状況							
指標8							
指標目標							
進捗状況							

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 学校適正配置の推進			
R1事業計画		R1事業成果	
○新潟市立学校適正配置基本方針に基いた学校適正配置の推進		○木崎小・笹山小の統合が完了 ○分離・新設する新通つばさ小学校の開校が完了 ○早急に協議を要する7地域に適正配置について情報提供実施	
当初予算額	1,113 千円	決算額	633 千円
構成事業2			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業3			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業4			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業5			
当初予算額	千円	決算額	千円
構成事業6			
当初予算額	千円	決算額	千円

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	2,261 千円	H27	1,082 千円
H28	1,039 千円	H28	815 千円
H29	1,090 千円	H29	1,078 千円
H30	700 千円	H30	256 千円
R1	1,113 千円	R1	633 千円
合 計	6,203 千円	合 計	3,864 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○新潟市立小中学校の適正配置基本方針に基づき、学校適正配置を推進している。主な取組は以下のとおりであり、今年度やるべき取組はいずれも概ね順調に実施できた。

- ・北区の笹山小学校と木崎小学校の統合においては、両校区の統合実行委員会により準備を進め、令和2年4月に滞りなく統合した。また笹山小学校閉校記念事業実行委員会では、記念誌の作成や記念碑の設置など、閉校に向けた記念事業の実施や式典の準備を進め、11月に閉校記念式典を実施した。
- ・西区の新通小学校から分離新設する新通つばさ小学校の開校準備においては、地域住民や保護者、教職員で構成される新通つばさ小学校開校準備委員会にて意見聴取をしながら、校歌・校章の制作や教育課程の編成、PTA組織の設立、通学路の安全対策など、開校に向けた準備を進めた。また、開校までに必要な物品が揃うよう、購入または他の学校から運び込むものも含め、必要な物品をリスト化し、その取得手段も精査し、関係課と調整しながら引っ越しを行った。

○新潟市立小中学校の適正配置基本方針に基づき、今後検討が必要と思われる地域へ児童生徒数・学級数推計などの情報提供を行った。今年度の取組方法は次のとおりである。

- ・自治会長やPTA会長と面談し、今後の児童・生徒数推計について情報提供し、今後の小学校区の子どもの教育と学校のあり方について意見交換した。今後は、自治会長から地域コミュニティ協議会にも相談してもらい、地域で学校のあり方について協議する場を設けるよう働きかけていく。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等

・2つ目の○「新潟市立小中学校適正配置基本方針」の中に、自治会や地域コミュニティ協議会との協議の場とありますが、具体的方法や内容はどこまで進んでいますか。

⇒地域コミュニティ協議会の役員と地域住民が行った適正配置に関する勉強会に同席するなどしながら、今後の児童数・学級数の推移を示し、本市の小中学校の適正規模化に向けた取組方法について説明した上で地域の様子や考えを伺いました。その中で、住民からは小規模校であることで、どのような支障があるのか情報がなく、不安であり市教委から情報が欲しい、また、地域の学校のあり方については地域だけではなく、市教委も一緒になって考えて欲しいなどの意見がありました。ある自治会長からは、地域コミュニティ協議会に対して、学校のあり方について地域で協議する場を設けるよう働きかけるとの提案を受けました。市教委としても地域の学校の今後のあり方について、地域の中で考えがまとまるよう情報提供をするなど、積極的に必要な支援をしていきます。

●R1施策評価

3期進捗平均
4.0

<「3期進捗」の評価基準> ( )内は減少指標目標の場合

- 5: 指標を上回って達成〔達成率105%以上(95%未満)〕
- 4: 指標を概ね達成〔達成率95%以上105%未満(同左)〕
- 3: 指標をもう少しで達成〔達成率85%以上95%未満(105%以上115%未満)〕
- 2: 指標を下回った〔達成率75%以上85%未満(115%以上125%未満)〕
- 1: 指標を大きく下回った〔達成率75%未満(125%以上)〕

<「前年度比」の求め方>

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%)  
 ※減少指標目標の場合の「前年度比」は、100%に伸率を加減算して表示

●成果指標

指標1	指標どおりに概ね達成した施策の割合(%)						R1評価	
Ⅲ型	H26	H27	H28	H29	H30	R1	3期進捗	前年度比
指標目標		75.0	90.2	85.0	85.0	85.0	4	107.5%
進捗状況	75.0	90.2	84.3	86.3	78.4	84.3		
<b>指標2</b>								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
<b>指標3</b>								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
<b>指標4</b>								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
<b>指標5</b>								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
<b>指標6</b>								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
<b>指標7</b>								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								
<b>指標8</b>								
	H26	H27	H28	H29	H30		3期進捗	前年度比
指標目標								
進捗状況								

<指標目標の設定型>

- I型: 第3期実施計画の5か年分を設定
- II型: 初年度, 中間(もしくは最終)年度等を設定
- III型: 前年度の実績を踏まえて毎年度設定  
(原則として前年度設定値以上)
- IV型: 数値ではなく文字で設定

●施策を構成する事業

構成事業1 教育ビジョンの適正な推進			
R1事業計画		R1事業成果	
○教育ビジョン推進委員会を3回実施	○全54施策の進行管理・評価を実施	○教育ビジョン推進委員会の3回開催(6月, 11月, 1月)	○全54施策について, 中間及び最終評価による進行管理・評価の実施
○施策の点検と評価のダイジェスト版を作成・配付		○9月にダイジェスト版を配付	○3月に第4期実施計画を配付
当初予算額	278 千円	決算額	1,467 千円
<b>構成事業2</b>			
当初予算額 千円 決算額 千円			
<b>構成事業3</b>			
当初予算額 千円 決算額 千円			
<b>構成事業4</b>			
当初予算額 千円 決算額 千円			
<b>構成事業5</b>			
当初予算額 千円 決算額 千円			
<b>構成事業6</b>			
当初予算額 千円 決算額 千円			
<b>構成事業7</b>			
当初予算額 千円 決算額 千円			

● 予算・決算の状況

当初予算額		決算額	
H27	588 千円	H27	609 千円
H28	812 千円	H28	732 千円
H29	553 千円	H29	546 千円
H30	277 千円	H30	317 千円
R1	278 千円	R1	1,467 千円
合 計	2,508 千円	合 計	3,671 千円

注:再掲事業分を含む

● R1年度の取組に対する評価

○「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づく「教育委員会の事務執行にかかる点検・評価」として教育ビジョンの評価を活用した。

○令和元年9月に、新潟市教育ビジョン第3期実施計画「NEXT&NEW」の20施策を中心とした「平成30年度施策の点検と評価(ダイジェスト版)」を作成した。市立校園の全教職員や関係機関に配布することで、新潟市教育ビジョンの施策への関心を高めることができた。

○令和2年5月に、新潟市教育ビジョン第3期実施計画令和元年度施策最終評価を行った。全施策評価の分布を見ると、指標目標を上回って達成した「評価5」が4施策で全体の7.8%。指標目標を概ね達成した「評価4」が39施策で全体の76.5%、両者を合わせると43施策で全体の84.3%となった。前年度(H30)の78.4%から5.9ポイントほど上昇した。第3期実施計画全体としては、施策が着実に実施され、成果を得ることができたと判断できる。

○重点である【NEXT】&【NEW】の施策評価分布を見ると、指標目標を上回って達成した「評価5」が1施策で全体の5.3%。指標目標を概ね達成した「評価4」が16施策で全体の84.2%、両者を合わせると17施策で全体の89.5%となった。【NEXT】&【NEW】に関しても、成果を得ることができたと判断できる。しかし一方で、指標を大きく下回った「評価1」が2施策あり、全体の10.5%を占めた。1-(6)の読書活動及び4-(1)の特別支援教育研修の進捗状況が著しく下がったことによる。

○第3期実施計画において、十分な評価が得られなかった施策に関しては、適切に状況分析を行い、改善策を講じ、関連する第4期実施計画の施策の推進につなげていく必要がある。

● R2年度の取組に向けて

※令和2年度より、第4期実施計画に移行するため、この欄の記述はありません。中間評価の際に、新形式の評価シートに記述します。

● 推進委員からの意見・要望等